

Monthly Report

Vol.47 / 2010 Apr.

東北有数の桜の名所 柴田町



日本さくら名所100選に選ばれている「船岡城址公園」と「白石川堤一目千本桜」が今年も鮮やかに町を彩り、見物客を集めました。今年は例年よりも遅い時期に降り積もった白石蔵王の残雪と桜がいつも以上に情緒漂う情景をつくりだしてくれました。

広報室では白石川沿いの風景を撮影しましたので、大学の紹介やサークルのホームページなどでご使用を希望される方がいらっしゃいましたら広報室にお声掛け下さい。

目次

東北有数の桜の名所	1
新PROJECT発足 伊達なSPORT PROJECT	2
平成22年度入学式	3
国際交流	4
地域交流	6
スポーツマネジメント・コース 研修会	8
OBとの交流	10
学生の活躍	11

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

また、本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email: kouhou@scn.ac.jp

新プロジェクト発足

SENDAI UNIVERSITY PORT PROJECT

S + PORT PROJECT = SPORT PROJECT

伊達なSPORT PROJECT

～Plan Do Check Action (PDCA) サイクルによる

地域密着型スケルトン競技のタレント発掘・育成・評価プログラムの実践～



今年度から鈴木省三教授(ソチ五輪スケルトン強化担当)を責任者、朴澤学長を総括とする研究事業『伊達なSPORT PROJECT』が立ち上がりました。

このプロジェクトは2012年にオーストリアで開催される第1回ユースオリンピックに向け、高大連携・高大接続事業を展開している明成高校と柴田高校の1年生(1～3月生まれ)の中からスケルトン選手を発掘・育成・輩出し、好成績を収めることを目標としています。明成高校と柴田高校に限るのは練習場所となる本学に通いやすい環境が必須であるため、1年生の1～3月生まれに限るのはユースオリンピックの大会年齢規定によるものです。

このようなタレント発掘事業はJOCや自治体为主导して行っており、大学単独で行うのは国内でも初の試みです。また、国が行っているタレント発掘事業は中学生までのプログラムで高校生への接続がないので、このプログラムで成果が得ら

れば、JOCのプロジェクトとも接続できる可能性を秘めています。

更に、このプログラムには食育の展開を加味しており、栄養学に基づき、宮城県内の企業(㈱鐘崎、㈱菓匠三全、㈱エム・オー・エー東日本販売、(財)蔵王酪農センター等々)の協賛を得て、独創性に富んだ食育プログラムの展開が期待されています。また、ユニフォームは㈱GANBAXに提供いただきます。地域企業の全面支援も受け、地産地消プログラムとして、地元密着した夢のある事業といえます。

4月15日(木)に明成高校を、19日(月)に柴田高校をプロジェクト責任者の鈴木省三先生とスタッフの柳谷新助手が訪問し、プロジェクトの対象年齢となる1995年1月1日～3月31日生まれの生徒に対して説明を行いました。25日には希望した生徒とその保護者に対してプロジェクトの詳細が説明されました。今後、選手選考会を経て選手が選ばれることになります。

なお、このプロジェクトについての内容は外部に公表しておらず、5月下旬に大々的に記者発表する予定となっております。

詳しくは伊達なSPORT PROJECT専用ホームページをご覧ください。専用ホームページへは本学HPのトップにあるバナーからお入り下さい。



平成22年度仙台大学第44回体育学部・第13回大学院 入学式



4月3日(土)に第2体育館を会場に平成22年度仙台大学第44回体育学部・第13回大学院入学式を挙行了しました。クラス担任が新生を一人ひとり呼名した後、朴澤学長より「体育学科359名、健康福祉学科125名、運動栄養学科91名、スポーツ情報マスメディア学科41名、編入生7名、大学院14名、計637名の入学を許可します。」と、入学許可告知がなされました。

学長挨拶では「仙台大学の教育領域であるスポーツ・健康を通じて人格形成を行い、互いに刺激しあい、充実した学生生活を送ってください。」との挨拶の後、入学生代表として運動栄養学科の前田悠希さん(山形南高校卒)が「体育・スポーツ・健康に関わる諸科学を探究し、これからの時代の担い手となるよう身体を鍛え、教養を深め、心を磨き、豊かな学生生活を送るよう努力してまいります。」と力強く宣誓しました。

その後、学科ごとのオリエンテーションが行われ、保護者にも学科の特徴と方向性が示されました。



体育学科



健康福祉学科



運動栄養学科



スポーツ情報マスメディア学科

大学院では新生歓迎会が学生食堂で開催され、新生の自己紹介と大学院の講義を担当する教員から簡単な講義の説明がありました。



大型ビジョンがLEDディスプレイにバージョンアップ



文部科学省の平成21年度私立学校施設整備費補助金(私立学校教育研究装置等施設整備費)の交付を受け、第3体育館東側壁面に設置している大型ビジョンの画面がリニューアルしました。以前は光度不足により、昼間は映像が見えにくい状況でしたが、設置変更後は天候に関係なく鮮明な画像を見ることができます。

以前使用していた画面は4分割され、学生食堂・トレーニングセンター・KMCH・B棟2階に配置されました。この4台は単体でも使用可能ですが、大型ビジョンと連動して映写することも可能です。授業で学生が作成したコンテンツのプレゼンテーションの場として活用することなどが期待されています。

第5回フィンランド短期留学プログラムを実施



3月12日ー4月3日の日程で、第5回フィンランド・カヤーニ応用科学大学短期留学プログラムを実施し、高橋悠さん（スポーツ情報メディア学科3年）が同大学を訪問しました。

これは国際的な知識と語学力を養うことを目的に、国際交流協定を結んでいるカヤーニ応用科学大学と、2007年から半年毎に互いの学生を受け入れて学生間の交流を図っているものです。

高橋 悠さん

私は英語に興味があり、1年間留学して勉強したいと思っています。当時の国際交流センター長の森教授に相談したところ、1人暮らしの経験すらない私を気遣ってくださり、「1年間は長いので、3週間の短期留学プログラムを経験してみても遅くないのではないか」との提案を頂き、今回のプログラム参加に至りました。

昨夏にハワイ大学アウトリーチ校で英語の「NICE」プログラムに参加した時は、受講生のほとんどが日本人で、困れば日本語が使える環境でした。一方、フィンランドには日本人が全くおらず、逆に不安を覚えるくらいでした。フィンランドはフィンランド語が母国語ですが、英語を小学3年生から学び、ほとんどの国民が英語を話せます。英語で放送

するテレビ番組も多いのも頷けます。前回までのプログラムではフィンランド語での講義もあり、苦勞したと聞いていましたが、今回は全て英語で講義が行われ、実技も多かったので理解しやすく、楽しく学ぶことができました。

短期留学を経験し、留学への思いがさらに強まりました。今年度の前期が終わったら休学して、1年間フィンランドへ留学したいと考えています。留学先については英語圏も考えましたが、治安が良く、日本人がほとんどいないフィンランドで学ぶことに決めました。3週間日本語が全く使えない状況下で過ごしてみて、この環境の方が語学上達が早いと感じたからです。また、カヤーニ応用科学大学と仙台大学は連携しているので、先生方に相談しやすいですし、何かあったとしても迅速な対応を取ってくれるという安心感があります。今年からカヤーニ応用科学大学に「スポーツを英語で学ぶコース」ができたのもたいへん興味深いです。

※なお、カヤーニ応用科学大学と本学の間で、佐藤久准教授をリーダーとする共同研究がスタートしています。

シーナカリンウィロート大学(タイ王国)からの留学生



本学が国際交流協定を締結しているシーナカリンウィロート大学(タイ王国)4年生のカニッター(KANITTA)さんが4月1日から6ヶ月間の単位取得留学ため滞在し、本学の講義を受けています。

子供の頃からアジア圏の言語に興味がありました。その中でも子供の頃から毎日観ていた日本のアニメ番組の影響で日本語には一番関心があります。シーナカリンウィロート大学では日本語学科を専攻し、将来の夢である「日本語を活かせる仕事」に就くために勉強しています。今回の留学も、日本の文化や生活に触れながら自分の語学力を高めたいと思った

からです。

来日して数週間が経ちましたが寒い気候、日本食にも慣れてきました。滞在している国際交流会館(仮称)では中国人・台湾人留学生にお世話になりながら楽しく過ごしています。

日本人は知らない人でも挨拶をする素晴らしい文化を持った国だとおもいます。日本に滞在するのは6ヶ月と短いですが、多くの人と接点を持ち、日本の良い文化を吸収し、日本語が上達するように頑張りたいと思います。

※カニッターさんは普通に会話できるほど日本語が流暢ですので、教職員・学生も積極的に話しかけてみて下さい。

台湾私立幼稚園協会関係者が来訪



4月23日(金)に台湾私立幼稚園協会の20名が来学しました。今回の来学は以前、本学学生の就職先でお世話になっている幼児体育研究所の七戸康弘氏(本学12回生)と朴澤学長とが台湾に赴いた際に、同協会の張(チョウ)素珍氏と面会する機会があり、同氏より「幼児教育だけでなく、高齢者教育に興味があるので、福島県での研修の際に仙台大学の介護予防施設も見学したい」との要望を受けたことがきっかけとなりました。今回の来日中は七戸

氏をはじめとする幼児体育研究所のスタッフ3名も同行しました。

朴澤学長との懇談の後、C棟転倒予防教室において近藤助教と岩垂新助手による介護予防体操の実技指導を行い、学食も利用して頂きました。本学には約2時間の滞在でしたが、台東大学から留学中の劉姿伶さんと曾鈺倫さんも帯同して交流を図るなど、本学の取組みを知って頂く良い機会となりました。

留学生歓迎お花見会



4月16日(金)に船岡城址公園において学生支援室主催による「留学生歓迎お花見会」が開催されました。桜は5分咲きの春冷えが厳しい中でしたが、教職員・学生50名が参加して、今年度から新たに加わった留学生10名を歓迎しました。ほとんどの留学生は来日から半年経っているため、日本語もある程度話せ、日本人学生とも気さくに会話を楽しみ、親睦を深めていました。

2010柴田さくらウォーキング



4月11日(日)に柴田町体育協会主催で「2010柴田さくらウォーキング」が行われ、ウォーキング8kmコースとノルディックウォーキング5kmコースにあわせて約100名が参加しました。ノルディックウォーキングは佐藤久准教授が

講師を務め、15分程度の基礎練習の後、5kmのコースを約1時間半かけて町の景観を楽しみながら歩きました。大会の安全を配慮して佐伯教授とウォーキング同好会の学生4名が補助役員として同行し、大会を陰で支えました。



前列左／蛭沢 祐さん(健康福祉学科4年)
前列右／蔵本 将貴さん(健康福祉学科4年)
後列中／今野 康平さん(体育学科2年)
後列左／麻生 美佳子さん(健康福祉学科4年)
※後列右の方は他大学生

学生が地域の方と交通安全をPR



4月6－15日の平成22年度春の交通安全県民総ぐるみ運動の一環として6日に船岡駅前街頭キャンペーンが行われました。滝口町長や地域住民の方と共に本学からも小林学生生活コンサルタント、丹羽講師、新体操競技部6名、学友会4名が参加し、通勤で混み合う7時15分から約1時間に

わたり広告入りのティッシュを配布して交通安全を呼び掛けました。

参加した学友会の氏家美紀さん(体育学科2年)は「交通安全への関心は皆さん高いようで、大半の方にチラシを受け取って頂きました。このような形で地域に関われることが嬉しいです。」と話していました。

なお、平成22年度春の交通安全県民総ぐるみ運動の重点項目は以下の通りでした。

- ◎全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- ◎自転車の安全利用の推進
- ◎飲酒運転の根絶

新生活が始まるこの時期、大学には近隣住民の方から苦情が多く寄せられます。交通ルールを遵守し、規則正しい生活を心掛けましょう。

「柴田町おもてなしクリーン大作戦」に漕艇部が参加



3月27日(土)に、柴田町主催による「柴田町おもてなしクリーン大作戦」が開催され、本学から

は漕艇部員が参加しました。この清掃活動は一目千本桜で全国的に有名な柴田町を訪れる観光客に気持ちよく桜並木を眺めてほしいという願いを込め、町内の事業所や団体、行政区の有志など約550名が参加して行われているものです。

参加した漕艇部員は「普段お世話になっている町をきれいにできただけではなく、町民の方々との交流もできて有意義な時間でした」と話し、仙台大学の存在も十分にPRできたようでした。

第5回しばたまち白石川さくら回廊ボート体験会



4月11日(日)に漕艇部が中心となって開催している「第5回しばたまち白石川さくら回廊ボート体験会」が北船岡白石川河川敷で行われました。この体験会は身近にある自然の素晴らしさ、川の環境を保つ大切さを肌で感じ、自分たちが住む町の良さを再認識することと、漕艇についての理解を深め柴田町のスポーツ振興の一助とすることを目

的に開催されています。今回で5回目の開催とあり、町民の方にも恒例行事として認識されてきているイベントです。

開会式では柴田町の滝口町長や今年設立された柴田町ボート協会の児玉会長などが参加するなか、朴澤学長が「ボート競技を本気でやりたい人がいれば是非、仙台大学で世界を目指してもらいたい。」と挨拶されました。

体験会は転覆等の危険性が低いナックルフォアを使用し、漕艇部員の同乗のもと、安全に十分配慮して行われました。今年は桜の開花が例年よりも遅く1分咲き程度でしたが、新緑に彩られた白石川堤越しに見る柴田町の風景を眺めながらボートを楽しんでいました。

参加者からは「ボートは初めての体験で、楽しい時間をすごすことができた。また来年も参加してみたい」との声が聞かれました。

なお、この様子は翌日の4月12日にミヤギテレビ「OH! バンデス」等で放映されました。

平成22年度 学都仙台コンソーシアム広報スタッフ決定



スポーツ情報マスメディア学科の大黒ゆきこさん(3年)と高橋央(なかば)さん(2年)が今年度の学都仙台コンソーシアム広報サポートスタッフに決まりました。

広報サポートスタッフは各大学から数名募って構成され、活動内容は①学生の立場からの意見交換会

への出席、②ホームページ更新、③フリーペーパー作成です。文章を書くことが好きな2人なので、スタッフの中心となって頑張ってくれる事でしょう。

大黒ゆきこさん

普段も学内有志でフリーペーパーを作成しています。これまでは学内だけの活動でしたが、他大学の方と作業ができ、宮城県内に発信していくものが作れるので楽しみです。今までフリーペーパー製作に携わってきた経験を活かしながら、他大学の方と良いものをつくっていききたいと思います。

高橋 央さん

書くことが好きで、将来は記者を志望しています。大学では情報戦略コースでスポーツ情報を分析し、伝える事を学んでいます。仙台圏のほかの学生と一緒に、学都仙台を伝える作業の中で、情報戦略の一部でも活かす事ができればと思います。

献血車「いずみ号」による構内 献血事業



日本赤十字社による献血事業の一環として、献血車「いずみ号」が4月26日(月)に訪問しました。今年度、第1回目の構内での献血活動で、教職員、学生合わせて80名が受付し、うち43名が採血の協力を行ないました。当日は併せて「骨髄バンク登録会」も開催され、骨髄バンクについての理解を深めてもらえたようです。

平成22年度 スポーツマネジメント・コース春季研修会 兼 スポーツマネジメント実習事前研修会



去る平成22年4月24日(土)～25日(日)、蔵王自然の家にて標記研修会を開催しました。参加者は、スポーツマネジメント・コース所属の2年生57名(全67名中)と、コース担当教員5名、およびコース3年生の補助学生2名の、計64名でした。

本研修会には大きく分けて2つの狙いがありました。1つ目は、スポーツマネジメント・コースに所属したばかりの2年生に対して、コース所属学生として3年間学んでいく上での基礎を与えることです。初日にはレクチャーを実施し、コースの教育目標の説明や具体的なカリキュラムの説明、コース運営を行う教員の紹介などを行いました。またその夜には体育館にてインディアカを、そして2日目午前中にはP A (Project Adventure) 体験を行い、学生同士の交流を深めました。これらはいずれもグループ内での連携が不可欠な活動であり、あまり知らない者同士でも共に協力し、何かを成し遂げるといった体験を



しました。

また、2つ目の狙いとして、夏季休業中にコース必修科目として履修する「スポーツマネジメント実習(集中)」についての理解を深めるというものであります。レクチャーにて実習の概要の説明や実習の捉え方、基本的な心構えなどを指導すると同時に、社会教育施設がどのように運営されているのかを、肌で感じてもらいました。朝・夕のつどいでは、旗の掲揚や団体紹介、つどいの進行などを学生自身の手で行いました。また、自分たちの使用する布団のたたみ方についても事前に細かく説明を受け、退出の際には実際に自分たちの手でマニュアル通りのたたみ方を実践しました。些細なことに見えますが、これは施設のホスピタリティ向上にもつながるものであり、「マネジメント」を考える上で非常に重要な体験であったと思います。

わかれのつどいにて、小畑幸彦所長は、本研修会を通じて「3つの発見」をしてほしかったと語りました。それは、友達の良いところ、新たな自分、雄大な自然、の3点です。とりわけ、参加学生から「新しい友達と交流が持てたのがよかった」との声があったように、スポーツマネジメント・コースを選択して不安な気持ちを抱えていた中、新たな友人関係を作り、また従来の友人の良いところを発見できたことが、本研修会の最大の収穫だったのではないのでしょうか。それはもちろん、新たなコース所属学生を迎える側に立った教員にとっても同様でした。実際に学生のグループに混じってインディアカなどを行う中で、初めて触れ合う学生たちとも打ち解けることができ、今後のコース運営においても多いに意義のある研修会となりました。

(体育学科スポーツマネジメント・コース
：馬場・笹生)

平成22年度 第1回仙台大学FDセミナー新任教員ワークショップ開催



4月20日、教育企画部と事務局が主催するFDワークショップが大会議室において実施されました。これは昨年度教育改善企画委員会がはじめて企

画し今年度もひきつづき開催されるようになったものです。

ワークショップでは、第一部に「仙台大学と大学教員の実務について」としてそれぞれの部署から説明がなされました。第二部には「教育の実際」として、学士課程教育を軸に中教審への対応について、現行カリキュラムを今年度中に抜本的に見直し学士力基盤科目ー学科主要科目ーコース主要科目を仙台大学としての学びの本流を策定すること、自己管理システムの本格実施、FDに関することなど、本学における教育に関する方針が判りやすく説明されました。新任の先生方からもそれぞれ質問がされ、出席者の先生方との意見交換などが和やかにかつ活発に交わされました。

第4回仙台大学体育施設管理士認定証授与式



4月19日(月)にA棟大会議室において体育施設管理士認定証授与式が執り行われ、朴澤学長より合格者一人ひとりに認定証が授与されました。体育施設管理士資格とは、(財)日本体育施設協会が付与している資格で、体育施設の維持管理や運

営に必要な知識・技能の習得と、体育・スポーツの振興に寄与する指導者の養成を目的としている資格です。民間のスポーツ施設でも注目されている資格で、体育施設設備に従事しようとしている学生にとっては強みとなる資格の一つです。18年度から体育系大学での受講の便宜が計られてから本学での取得者も年々増え、4年目となった昨年度は過去最多の85名が見事合格し、認定を受けました。

[出席者]

朴澤学長
キーナート副学長
仲野教授
永田准教授
小島体育施設管理コンサルタント

仙台市教育委員会が来訪



4月16日(金)に仙台市教育委員会7名の来訪を受け、朴澤学長、大山学生支援センター長ら10名の関係教職員が出席して、学校支援ボランティアの活動報告および今年度の取り組みについての話がもたれました。

仙台市教育委員会学校教育部部長の菅野 茂氏の挨拶では「仙台大學生は質が高く、子供たちに同目線に立って接してくれて感謝しています。去年は流行したインフルエンザの影響で、小学校の陸上記録会を追加開催しましたが、急なお願いにもかかわらず6名の学生に手伝ってもらい、生徒だけでなく保護者からも感謝の念が聞かれました。今の児童・生徒は必要なこと以外はやらない傾向にあります。年齢が近い学生の方たちがボランティアしている姿は児童・生徒にも良い影響を与えていますので、今後も引き続いての協力をお願いします。」と述べられました。次に朴澤学長が「将来、教職に就きたいと考えている学生は多く、学生に実体験の場を提供いただいていることにたいへん感謝しています。」

と感謝の念を述べました。その後、学生支援室の千葉室長より、平成21年度の活動報告と今年度の活動予定が示されました。

教育委員会の方から「今年度は新しく養護教諭の学校ボランティアをお願いしたい」と提案を頂くなど、たいへん有意義な意見交換がなされました。

出席者

<仙台市教育委員会>

・ 学校教育部部長	菅野 茂 様
・ 学校教育部参事	日塔 光博 様
・ 健康教育課課長	佐藤 順 様
・ 教育指導課課長	堀越 清治 様
・ 健康教育課指導主事	門脇 俊弥 様
・ 教育指導課指導主事	石川 一博 様
・ 教育指導課指導主事	高橋 綾子 様

<仙台大学>

- ・ 朴澤学長
- ・ 大山学生支援センター長
- ・ 佐伯教授
- ・ 渡邊(宣)教授
- ・ 太田教授
- ・ 長見准教授
- ・ 佐々木事務局長
- ・ 千葉学生支援室長
- ・ 佐藤臨時職員
- ・ 吉川臨時職員

仙台大学指定スポーツウェアがリニューアル

仙台大学指定スポーツウェアが今年度の新入生から(株)GANBAX社製の新しいデザインに代わりました。ポリエステル素材で白と緑の2色でデザインされた爽やかなウェアです。学生氏名が刺繍で入っており、脱いだウェアを取り違える心配もありません。



女子サッカー部が仙台大学カップ2010を開催



3月30、31日に本学の人工芝サッカー・ラグビー場と白石川公園人工芝グラウンドを会場にして「仙台大学カップ女子サッカーフェスティバル2010」が開催されました。

この大会は仙台大学女子サッカー部が主催で今年初めて開催されたもので、本学OB指導者間の交流を深め、高校・大学女子サッカーのレベルアップと普及振興に寄与することを目的としています。本学OBが指導している高校女子サッカーチーム5校（常盤木学園高校、明成高校、東北高校、仙台育英高校、前橋育英高校）と本学の計6チームが参加し、熱戦が繰り広げられました。

女子サッカー部監督の黒澤新助手は「好ゲームが多く、思った以上に盛り上がってくれた。参加チームからは、仙台大学人工芝サッカー・ラグビー場の素晴らしさや本学OB指導者間の情報交換ができ、ぜひ来年も参加したいというお言葉をいただいた。我々にとってもメリットが多く、ぜひ来年も継続して開催したい。」と話しています。

参加校と指導者

- 常盤木学園高校
あべ よしはる 阿部 由晴 先生 昭和61年度卒業
- 東北高校
かわすえ まさお 川末 真生 先生 平成9年度卒業
- 前橋育英高校
さくらい つとむ 桜井 勉 先生 平成10年度卒業
- 仙台育英高校
すずき ゆう 鈴木 雄 先生 平成17年度卒業
- 明成高校
たけやま ひろき 武山 裕記 先生 平成21年度院修了

OBの田中美衣さんが世界選手権代表に

4月3日（土）に福岡国際センターで行われた全日本選抜体重別選手権においてOBの田中美衣選手（岐阜柔道クラブ／平成21年度卒）が女子63kg級で2位となり、9月に行われる世界選手権東京大会代表に選出されました。世界選手権はオリンピックに次ぐ大きな大会で、これまで多数の国際大会に出場してきた田中選手にとっても初めての代表です。

田中選手は「ロンドンオリンピック代表になるためには来年の世界選手権代表に選ばれることが絶対条件。今年の世界選手権で結果を出さなければ来年の大会に声がかからない可能性もあるが、結果を残せば夢に一步前進する。自分の柔道人生の分岐点となる重要な大会となるので、チャンスをつかむ大会にしたい。」と話しています。

今年度から岐阜県体育協会に所属し、練習拠点を

筑波大学に置いた田中さん。「関東に練習拠点を置く事で、実業団チームに出稽古へ行ける利点は大きい。一日の過ごし方は自分次第なので、しっかりと計画立てて取り組み、9月の世界選手権でメダルを獲得したい。」と話してくれました。今年度から全日本柔道連盟シニア強化選手からナショナルチーム選手へと昇格を果たし、世界ランキングも6位（10.04.06現在）。新社会人としてスタートを切った田中選手の活躍に期待しましょう。



柔道部の深谷実紀さんがフランスジュニア国際大会代表に

5月15－16日にフランス・リヨンで開催される柔道の2010フランスジュニア国際大会に44kg級日本代表として深谷実紀さん（体育学科1年）が選出されました。

深谷さんは身長145cmと小柄ですが、休まずに動いて技をかけ続ける柔道で、高校（湯本高校：福島県）では女子48kg級で東北大会を制した実力者です。最軽量の48kg級の中でも小柄であることから、全日本柔道連盟の44kg級女子ジュニア強化選手に指定されています。この44kg級とは日本では中学生の大会まで採用されている階級で、一般の国内大会では採用されていません。世界的にはジュニア大会（19歳未満）まで採用されておりフランスジュニア国際大会には44kg級での出場となります。

深谷実紀さん（体育学科1年）

柔道は中学1年生から始め、2年生から県大会で優勝しました。しかし、全国大会ではベスト16の壁を越えられず、それが悔しくて高校は実家（郡山市）を離れて福島県の強豪校である湯本高校（いわき市）に進みました。高校でも東北大会を制しましたが、目標にしていた全国ベスト16の壁は越えることはできませんでした。

そんな私がジュニア強化指定選手に選ばれたのは偶然で、48kg級選手の中から44kg級の強化指定選手を探していた全日本柔道連盟から高校3年のインターハイの時に話を頂きました。48kg級の中でも小柄だった事が幸いし、運が良かったとしか言いようがありません。更に幸運な



事に、ジュニア強化選手枠で昨年の講道館杯（世界選手権代表と強化指定選手の選考を兼ねた国内トップ選手が集う大会）48kg級にも出場する事ができ、良い経験となりました。

進学にあたっては、筑波大学や国士舘大学など関東の強豪校も選択肢にありましたが、これらの大学は高校で日本一になった人たちの集まり。仙台大学は高校では一番になれなかった人が、大学で日本一になると決意した人たちの集合体で、これから這い上がるメンバーばかり。モチベーションが非常に高いと感じ、進学を決めました。

現在の目標は、国内の大きな大会や国際大会で優勝することなので、今回のフランスジュニア国際大会で結果を出す事はもちろん、強化合宿でも積極性をアピールしてきたいと思います。両親には柔道をするために高校から一人暮らしをさせてもらい、申し訳なく思っているのも、両親のためにも結果を出し、喜んでもらいたいです。

Jリーグ特別指定選手の奥埜博亮さんが公式戦デビュー



大学などに所属したままJリーグの試合に出場できる「JFA・Jリーグ特別指定選手」の指定を受け、昨年

からJ1ベガルタ仙台に加入している奥埜博亮さん（体育学科3年）が公式戦デビューしました。舞台は4月14日のJリーグ・ヤマザキナビスコカップ、京都サンガFC戦で、後半ロスタイムに途中出場するとスループスを出して決定機をつくるなど短い出場時

間でしたが、今後に期待が持てるプレーをみせてくれました。

奥埜さんは明成高校・仙台ユース出身。中学時代から日本選抜チームでプレーし、2002年のU13、2005年のU16日本代表として活躍してきました。本学でも中心選手として得点を量産し、今年度のデンソーチャレンジカップ西都市大会では2大会連続で優秀選手に選ばれています。今後の奥埜さんのプレーにご注目下さい。

第59回お花見レガッタ男子舵手つきフォア初優勝



4月3日（土）～4日（日）に埼玉県戸田市で第59回お花見レガッタ（東京都ボート協会主催）が開催されました。本学からは男子エイト、男子舵手つきフォア、女子舵手つきクォドルブルの3種目に出場し、男子舵手つきフォアで初優勝を勝ち取りました。また、エイトは9位、女子舵手つきクォドルブルは5位と健闘しました。

この大会は関東地方の桜が満開になるこの季節に開催されており、シーズンの幕開けとなる非常に重要な大会として位置づけられています。全国各地から社会人チームや大学チームが出場する日本最大のローカルレガッタです。

Monthly Report

Vol.48 / 2010 May.

カヤーニ応用科学大学との共同研究がスタート



本学とカヤーニ応用科学大学（フィンランド共和国）の国際共同研究「高齢者の健康・体力に関する日本人とフィンランド人との比較研究」が始動しました。この研究は日本人とフィンランド人の運動習慣をもつ65～74歳までの男女100名の体力測定・血液採取等を行い、両国間の比較考察を行います。①生活や運動処方改善のための基礎資料を得ること、②健康や体力づくりの推進に貢献することを目的にしております。本学では以前に中国の東北師範大学と同内容の共同研究による研究成果を得ており、今回の研究により3国間比較も可能となります。

具体的には宮城県及び柴田町など近隣市町村の協力を得て基礎データを収集します。5月20日（木）には、柴田町で主催する「体力づくり教室」の中で、40名の町民の方々に被験者となって頂き、第1回目のプログラムとして体力測定が行われました。両国で同一の測定方法をとるために、カヤーニ応用科学大学の講師と看護師の2名が来日し、測定法の確認も行われました。

当日は東日本放送、宮城テレビ放送、河北新報社、朝日新聞社、産経新聞社が取材に入り、紹介されました。

目次

カヤーニ応用科学大学との共同研究がスタート	1
特集 補助金獲得事業紹介「筋電図計測装置」	2
英語でスポーツを語るキャンパス創り	3
仙台国際ハーフマラソンのミンスク市選手団	4
短期留学報告会	5
仙台大学体育祭 永年勤続者表彰	6
ボランティア研修講座 JICA世界の笑顔のために	7
学生の活躍	9

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

また、本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email: kouhou@scn.ac.jp

特 集 —平成21年度文部科学省補助金獲得事業紹介—

笠原講師が中心となり、平成21年度私立大学等研究設備整備費等補助金を獲得した「**筋電図計測装置**」を紹介します。



筋電図とは、活動中の筋肉が発生する電位を推定し、筋活動量、筋活動パターンの解析によって、各動作に必要な筋力を推定しながら、個々の筋肉の役割を分析するための機器です。医療分野やスポーツ領域においても損傷を受けている筋肉を推定し、回復に最適な治療を処方するなど、様々な分野における活用事例が報告されています。

従来の筋電計は固定式で、動作が複雑化するほど計測時におけるノイズの混入が大きくなり、データの信頼性が保障されないという問題点がありました。更に、筋電図の波形と動作との連動が難しく、「健常者と障害者の動作の比較」、「回復状況の比較」、「トレーニングの

効果」など、対象者に負担をかけずに簡易的な方法で比較する事が困難な場合が多いことも指摘されていました。

今回、導入した筋電計は「テレマイオG2」という無線式のもので、筋電計のデータを信号で飛ばし、最大で100m内での計測が可能です。そのため、対象者を拘束せずダイナミックな動作でも解析が可能で、諸動作と筋肉の活動を多角的に評価・解析する事ができます。なお、無線式の筋電計はビデオカメラとの連動も可能で、カメラに映し出された動作と筋電図の波形がモニターで確認でき、筋電の波形から筋肉の活動状況が一目で理解できます。

今回の導入により、介護福祉士の教育ツールとしてや、介護予防や健康増進の現場で、「一人ひとりの能力に適した運動プログラムの立案とその検証」、「新しい運動プログラムの提案」、「安全で安楽な介助方法の提唱」などが期待されています。既に学生が卒業論文で筋電計を利用しており、今後も積極的な活用が期待されます。



従来の固定式筋電計

※製品についての詳細は下記URLをご覧ください。

<http://www.sakaimed.co.jp/service/medical/pdf/a80telemetryg2.pdf>

※次号でも平成21年度補助金を獲得した設備を紹介予定です。

「English Movie Nights with Marty」開催中 ～ 英語でスポーツを語るキャンパス創り ～



写真は、5月10日第2回「Hoosiers」後の学生の様子

毎月第2月曜日19:00からキーナート先生の居住マンションの映写室で、教職員向けの英語による映画鑑賞会が開催されています。学内においても、学生／教職員向けに毎月第2火曜日16:00から、キーナート先生が選んだ英語字幕つき「スポーツ映画」を放映し、キーナート先生と一緒に英語でディスカッションする企画がはじまっています。

5月10日(火)には、B203教室で第二回となる映画鑑賞会「Hoosiers」（高校のバスケットボールチームに就任したコーチと、インディアナ州の田舎町の人々の織り成す実話に基づくストー

リー）が開催されました。音声も字幕も英語で鑑賞するので日本語に頼らず、目と耳を鍛えながらストーリーの全体像を掴んでいきます。

「英語で語るキャンパス創り」を目指す本学にとって学生の英語力アップを促すよい契機になりそうです。

映画鑑賞後、キーナート先生から「気になるフレーズなどありましたか？」との質問に、果敢に英語で受け答えする学生の姿もありました。ご興味のある先生方、職員のみなさんも是非一度、ご参加されてはいかがでしょうか。

また、学生へのお声がけもよろしくお願いいたします。

- 次回の教職員向け映画鑑賞会は、
6月14日（月）19:00～
キーナート先生宅マンションの映写室にて
（申し込みはキーナート先生まで）
- 学生／教職員向けは、
6月15日（火）16:00～ B203教室にて
（申し込み不要）
「Friday Night Lights」（アメリカンフットボール）
が開催されます。

健康づくり運動サポーター資格取得ガイダンス



5月10日（月）F303教室において健康づくり運動サポーター資格取得ガイダンスが開催されました。この取組みは体育大学の特徴を活かして、地域の健康指導者不足の解消と健康福祉分野の専門知識を持った楽しい運動指導ができ

る人材養成を目指すものです。平成19年度には優れた教育プログラムとして文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択

（3ヵ年）されました。3年が経過したことにより、プログラムが終了し、今年度より国の補助金はいただけませんが、大学の特徴ある取組みとして継続して活動していきます。

昨年度から健康福祉学科の1年生の講義に必修科目として入ったため、この日のガイダンスは健康福祉学科1、2年生以外の学科・学年を対象に開催され、約100名の学生が参加しました。

ガイダンスでは、はじめに事業推進責任者の橋本教授より健康づくり運動サポーター事業について説明があった後、養成企画担当責任者の小池教授より養成プログラムの詳細が説明されました。

ベラルーシ共和国・ミンスク市選手団団長が来訪



5月7日(金)に過日行われた仙台国際ハーフマラソンのミンスク市選手団長ヴァリス・A・ワシレフ氏が仙台市職員、宮城県ベラルーシ協会会員の方と共に本学を訪れ、関係教職員と今後の交流についての協議と、施設見学を行いました。ベラルーシ共和国の国立体育・スポーツ学院と本学は平成14年に国際交流協定を締結しており、6月には新体操競技部が同国を訪問して練習に参加することになっています。

なお、法人事務局主導で今年も仙台国際ハーフマラソンに協賛し、協賛CMが6回放映されました。

仙台国際ハーフマラソン大会

5月9日(日)、仙台市内において、第20回目となる「仙台国際ハーフマラソン大会」が開催され、国内外からの招待選手や市民ランナーら過去最高の1168人が出場し、新緑の杜の都を駆け抜けました。

この大会には、新体操競技部のマカロアコーチの出身であるベラルーシ共和国の首都ミンスク市からも参加、男子39位、女子17位と大健闘でした。

大会後には、江陽グランドホテルにおいて、交流会が行われ、各国との親睦を深め合いました。

(新体操競技部 大山・丹羽)



NSCA運動能力テスト出場者が決定



ハングクリーン



10ヤードダッシュ



プロアジリティー



垂直跳び

7月15日、米国オーランドに各国の19歳以下の代表が集まり運動能力が競われる「NSCA運動能力テスト」に、出場する2名が決定しました。学内選考会で出場権を勝ち取ったのは、4種目(垂直跳び、プロアジリティー、10ヤードダッシュ、ハングクリーン)の総合得点でトップ記録を出した、バレーボール部に所属する水野竜馬さん(体育学科2年)とB.L.S部所属の米倉理絵さん(運動栄養学科2年)です。

2人は7月13日に鈴木省三教授、加賀新助手と共に渡米し、日本代表として15日の大会に臨みます。

※種目の詳細についてはNSCAのホームページを映像をご覧下さい。昨年の様子が紹介されています。

<http://www.nsca-lift.org/fly%20solo%20program/internationalpromo.shtml>

海を越えて輝く学生達 Spring 2010 ～ 短期留学終了 フィンランド・カヤー二応用科学大学 ～



5月13日(木) F101にて、フィンランド・カヤー二応用大学への短期留学報告会が開催され、朴澤学長、キーナート副学長、勝田体育学科長、山内スポーツ情報マスメディア学科長他、総勢25名が参加しました。今回で5回目となる同大学への短期留学は、3月12日～4月13日までの約3週間にわたり、スポーツ情報マスメディア学科3年の高橋悠(たかはし ゆう)さんが果敢にも一人でチャレンジしたものです。

最初に、鎌田国際交流センター長から本学とカヤー二応用大学との交流の歴史について説明され、次に今回引率者の一人としてカヤー二を訪れた森先生より、滞在中の主な出来事に関し、報告がなされました。

高橋さんは、留学の目的や概要を「英語」で作成した資料に基づき、「英語」でプレゼンテーションの前半を行うなど、異国の地での奮闘ぶりに参加者一同が聞き入りました。フィンランドに到着した翌日には、カヤー二市の西部に位置するオール市で行われたフィンランド最古のクロスカントリースキーレースを、

オール市の副市長など幹部の方々と観戦したり、ホームステイ先で子供達に箸の使い方を教えるなど、高橋さんは新しい経験を重ねる一方で、日本ならではの文化を紹介する担い手にもなったようです。

出席した先生方から「英語」で「日本とフィンランドのスポーツに対する考え方の違い」や「仙台大学の授業との違い」等が質問されると「日本では一つの競技に特化するが、フィンランドではそれぞれがいろいろなスポーツに自由に親しむ」「カヤー二応用大学では少人数クラスのせい、学生がとても積極的で、一人が返答すると他の学生がさらに反応し、学生同士のディスカッションが活発である」と答えていました。



最後に朴澤学長より「今回は報告をする方も聞く方も「英語」で実施するという点で、従来に比べ変化が見られ、“英語でスポーツを語るキャンパス創り”の影響が出てきていると思う。日本人も国際化社会において、どこでも活躍できるようになるべき」とのお話がありました。

事業戦略室から「留学に興味がある学生は、いつでも国際交流センターか事業戦略室へおいで下さい」の言葉で締めくくられた報告会。高橋さんは今後、本学を1年間休学し同大学へ留学することを予定しているそうで、スポーツ情報マスメディア学科の学生らしく、自らを世界へ発信する未来にますます期待が深まります。

中国からの研究生 趙 梓淇さん



5月6日(木)に趙 梓淇さん(写真:右)が来日し、7日に朴澤学長を訪れました。梓淇さんは吉林工商学院卒。日本語を学ぶため今年度は研究生として在学し、来年度から大学院に入学予定で

す。はとこにあたる趙 倩穎さん(写真:左/大学院1年)が、大学院事務室の伊藤室長に相談したのがきっかけとなり、来日に至りました。

梓淇さんは日本にとっても興味があり、知識を増やすためにしっかり学びたいと話しています。丸山研究科長の研究室に決まり、日々勉強中です。

日本語は勉強中ですが、学内で見かけた時は声をかけてみて下さい。

第2回 仙台大学体育祭



5月22日(土)に「第2回仙台大学体育祭」が第一・第二体育館を会場に開催され、新入生約350名と2年生以上の有志チーム約40名が参加し、3競技(バレーボール・ドッチビー・2人3脚リレー)で熱戦が繰り広げられました。このイベントは昨年から学友会が中心となり開催しているもので、新入生同士の交流を図ることで、クラスや部活単位の交友関係の構築だけでなく、幅広い交友関係を築いてもら



う事を目的に実施されています。競技終了後には学生食堂において立食会も行われ、交流を深め合う良い場となったようです。なお、体育祭開催にあたり、ベガルタ仙台やシダックス、マーティ・キーナート副学長から楽天ゴールデンイーグルスの観戦チケットやグッズなどの提供をいただきました。好成績により賞品を獲得したチームは、思ってもいなかったBIGプレゼントに大感激の様子でした。

永年勤続者表彰



5月10日(月)に法人事務局において永年勤続者表彰式が執り行われ、朴澤理事長より表彰状と記念品が贈られました。永年勤続者表彰は、本学園で25年勤続した方に贈られるもので、仙台大学では今年、5名の教職員が対象となりました。

<被表彰者>

鈴木 省三 教授
森 茂利 教授
小松 恵一 教授
大和田 寛 教授
川村 隆 図書館課課長

第70回学術集会



発表者	テーマ
小澤輝高教授	細胞内カルシウム放出とその役割
山口貴久講師	スポーツにおける膝蓋大腿間接障害の研究について
吉井秀邦講師	過去・今後の研究活動について
笹生心太講師	ボウリングブームを社会科学で斬る
近藤貴美子助教	健康づくり運動サポーター事業参加学生の現状と課題 (健康運動指導士受験資格取得希望者との関連を含めて)

5月18日(火)にA棟大会議室において第70回学術集会が開催され、教職員・新助手・学生36名が出席しました。その中で4月に着任した新任教員から、これまでの活動報告と研究発表があり、教育・研究活動に対する意欲的な姿勢を垣間見ることができました。

平成22年度 ボランティア研修講座開催



4月28日と5月12日、平成22年度のボランティア研修講座が開催されました。本学では、地域の施設や教育委員会などからの要請を受け、ボランティアセンターが窓口となりさまざまな学生の派遣を行っています。本学の学生は各種施設、指導員や教員志望の学生も多く、このボランティア活動の実践により、小学生から高齢者まで沢山の「異世代」の方々と触れ合う経験ができ、多くの学びを得られる機会でもあります。また「ボランティア活動実践A・B・C・D」の科目履修登録をし、必要条件を満たすことにより単位としても認定されます。しかし、単位取得を目的とせず、多くのボランティア活動を行う学生も多く、毎年約500名の学生が登録して活動を行っています（今年度は5月12日現在、220名の学生が登録完了）。研修でははじめに、学生支援センター長の大山先生の挨拶があり、平成13年度に障害者スポーツ大会へ本学から300名の学生ボランティアを派

遣したことを契機に学生からの要望が高まり平成15年にボランティアセンターが発足したことや、活動を通じて「感動」をより多く感じ取ってほしい。との挨拶がありました。ボランティアコーディネーターの南條さんからは、ボランティア登録の手続き方法について、庄子幸恵先生からは、活動に当たって学生が注意すべき約束事やマナーについての話がありました。また、国際貢献事業の一環として、4年目となるJICAボランティア「世界の笑顔のために」のスポーツ用品等の募集プロジェクト（5/17—5/31まで）の説明を学生ボランティアスタッフの佐々木里花さん（スポーツ情報マスメディア学科2年）が映像とともに呼びかけました。さらに、今回の研修には、東北福祉大学生3名が「おおさき100km徒歩の旅（大崎市の小学4～6年生100名対象事業）」のボランティア募集のPRに訪れ、彼らから「活動を通じてところを開くためには、まず自分のところを開いて寄り添う気持ちが大切。」と昨年の子どもたちの旅の映像と熱いコメントが寄せられました。本学の学生からも、説明会后に活動の様子を聞く姿がみられ、良い刺激になったようでした。ボランティア研修講座は、今後も登録者の増加に応じ、適宜開催していく予定です。登録者は必ず受講するようお願い致します。



JICA「世界の笑顔のために」プログラム



JICAが主催している平成22年度第1回「世界の笑顔のために」プログラムがスタートしたことに伴い、本学でも学生支援室ボランティアセンターが窓口となり、学内で不要になった物品（特にスポーツ用品）を募集しています。

このプログラムは開発途上国で必要とされて

いる教育・福祉・スポーツ・文化などの関連物品を日本国内で募集し、JICAがボランティアを通じて世界各地へ届けるプログラムです。本学でも柳講師の提案により平成19年度から活動に参加し、これまでバレーボール用品、ソフトボール用品、野球用品、サッカー用品、陸上競技用品、剣道用品などの物品を提供し、ベナン共和国やニジェール共和国など各国から御礼状が届いています。物品回収は既にスタートしており、学生ボランティアスタッフがPR映像やポスターを制作して物品提供を呼び掛けています。今月31日(月)まで行っておりますのでご賛同いただける教職員・学生はボランティアセンター（内線：258）までご連絡下さい。

<学生ボランティアスタッフ>

横山宗平、阿部早紀子	(健福3年)
加藤和宏、久保田侑樹、佐藤翔哉	(運業3年)
佐々木里花、槻山朋恵	(スポ情2年)

ペットボトルキャップ送付について



5月11日に、NPO法人エコキャップ推進協会に対して、第7回目となるペットボトルキャップの送付を行いました。今回の送付数は13,200個で、本学からの送付総数は53,600個になりました。これは422.1kgのCO₂の発生を抑制し、途上国の子供67人にポリオワクチンを、BCGなら191人に接種させることができる量に相当します。

学生が集うKMCHの自動販売機前に設置した「協力ボックス」に集まったキャップ1600個をこの協会へ送付したことをきっかけに、事務

局が中心となって結成した「地球温暖化プロジェクトチーム」が賛同し学内全ての建物内に協力ボックスを設置して、この活動を推進しています。

NPO法人エコキャップ推進協会はペットボトルキャップ収集事業を行い、キャップをゴミとして償却するのではなく再資源化を促進することで、焼却処分に伴うCO₂の発生を抑制し資源化で得た売却益で「世界の途上国の子どもたちにワクチンを寄贈し救済する」ことを目的とした活動を実施しています。

学内でエコキャップ運動を始めた日（KMC H内にキャップ回収ボックスを設置した日）が昨年4月21日でしたので、一年強での活動実績です。1年間、学生・教職員の皆様のご協力に感謝します。今後とも引き続きご協力をよろしくお願い致します。

HPで先日（5/11）送付分の実績が確認できます。

<http://ecocap007.com/>

本学卒業生の活躍

—11回生 宮崎 真彰さん、4月より北海道標津高等学校 校長に—

北海道標津高等学校校長に就任された宮崎真彰さん(昭和57年卒)から、丸山研究科長へ着任のご挨拶状がとどきましたのでご紹介します。本学在学中は、ラグビー部キャプテンとして活躍した宮崎さん。

本学の卒業生で高等学校の校長職に就任されるのは、初めてのことです。

昨年12月に開催された札幌近郊同窓会には80名もの同窓生が集結し、仙台大学へ熱いエールをおくってくださる「北海道地区同窓生」のお一人でもあります。今後も、仙台大学同窓生としてご尽力いただければ大変ありがたいです。

また、宮城県内においては、佐藤純一先生(7回生)、村石好男先生(11回生)、佐藤一紘先生(12回生)の3人の先生方がめでたく小・中学校の校長職へ就任され、今年も12回目となる「仙台大学同窓生の校長ご就任を祝う会」が、6月25日にKKRホテル(仙台市内)において同窓会事務局が中心となりお祝いする予定です。

謹啓 うららかな日差しに春を感じる季節となりました。皆様にはますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、私こと

この度、北海道標津高等学校勤務を命ぜられ過日着任いたしました。

北海道札幌高等養護学校在任中は、皆様の御支援御指導をいただきながら、卒業後の社会生活を見据えた高等養護学校の教育活動についてたくさんの方を教えていただいたこと、心から厚くお礼申し上げます。

生徒の成長を支えるために、保護者、地域、関係機関、教職員の皆様とつながりあった日々を糧に、新任地におきましても職務に誠心誠意努力する所存ですので、今後とも一層の御指導御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様の御健康と御活躍をお祈り申し上げ、お礼と着任のあいさつといたします。

謹言

平成22年4月

〒086-1652

標津郡標津町南2条西5丁目2-2
北海道標津高等学校



宮崎 真彰

校長になりました。本校卒業生は仙台大学に
います。

夢のメジャーリーガーに挑戦するために渡米を決意 色川冬馬さん

色川冬馬さん（スポーツ情報マネジメント学科3年）が渡米し、米国カリフォルニア州で行われるサマーリーグに参加することが決まりました。チームはMarysville Golden Soxというチームで、ほとんどの選手は大学生で学校の夏休みを利用して参加しています。そこに色川さんがマーティ・キーナート副学長の紹介もあり、参加することになりました。

メジャーリーガーになることを望んでいる色川さんは、昨年から米国でのトライアウトに参加し、今年も1月に米国西海岸南部で開催されたアリゾナ ウィンターリーグにも参加しました。そこでの活躍が基本的には評価され、キーナート先生の友人が経営するこのチームメンバーになることが決まりました。

このチームはどこの独立リーグにも所属せず、ホームに相手チームを迎えて試合を開催しています。試合数は40ゲームほどで、5月27日から8月8日までシーズンは続きます。

色川さんはこのチームに参加するために1年間休学することを決めました。アメリカでプレーしていればチャンスが生まれることを知っている彼にとって、アメリカで野球をする環境ができたことは第一関門突破というところです。

この様子はテレビ局1社と新聞社5社からも取材を受け紹介されました。



仙台六大学野球応援バスツアーを実施



4月10日（土）に開幕した「仙台六大学野球春季リーグ戦」の応援バスツアーが昨年引き続き企画され、5月8日（土）、9日（日）の両日で延べ40名の学生が参加しました。対戦相手は本学と近年、一進一退の緊迫した試合展開を繰り返している東北学院大学で、悲願の

リーグ優勝を目指し、互いに負けられない試合でした。

2試合ともに1点差ゲームで1勝1敗という緊迫した好ゲームが繰り返され、野球場に入ったのがはじめてという学生もありましたが、目前で飛び交う打球のスピードに気持ちが高ぶっている様子で、大きな声で選手を後押ししていました。

バスツアーでは体育学科マネジメントコース学生の授業（イベント企画）の一環として企画され、乗客を安全・安心に目的地に送り届けるように休憩場所や食事場所を計画立てて行われました。



全日本体操競技選手権大会結果



5月8、9日に国立代々木体育館を会場にして個人総合で競う全日本体操競技選手権大会が開催されました。この大会は、6月のNHK杯と共に世界選手権（10月開催）とアジア大会（11月開催）の代表選考会に位置づけられている国内最高峰の大会です。

84名にしか出場資格が与えられないこの大

会に、本学からは参加資格をクリアした6名（過去最多）がエントリーしました。NHK杯に進めるのは今大会の上位36名だけで、安定した演技で全体の19位に入った石原大さん（体育学科2年）と、順位は33位ながらも初日の「ゆか」、「跳馬」で全選手の中で2位の成績を残した宗像陸さん（体育学科2年）の2人が出場権を獲得しました。NHK杯の頑張り次第ではまだまだ代表となるチャンスはあります。この他、富沢祐太さん（体育学科2年・明成高校出身）が全体の38位につけ、欠場者が出た場合に出場するリザーブにまわりました。

大会は北京オリンピック銀メダリストの内村航平選手が優勝。本学OBの植松鉦治選手（KONAMI）が得意の鉄棒で2日共にトップの成績をおさめ、2位となりました。

体操の東日本インカレで宗像 陸さんが種目別：跳馬 優勝



写真提供：阿部ちはるさん（スポ情4年）

5月14－16日に栃木県体育館を会場にして行われた東日本体操競技選手権大会（東日本インカレ）において、宗像陸さん（体育学科3年）が種目別：跳馬で優勝。種目別：ゆかでも

2位記録を出し、個人総合で4位となりました。

団体戦では男子が2位となり、選手層の厚さを証明してくれました。

【個人総合】

第4位	宗像 陸	第15位	亀山耕平
第13位	富澤祐太	第16位	寺田有佑
第14位	石原 大		

【種目別】

<跳馬>	第1位	宗像 陸
	第7位	石原 大
<ゆか>	第2位	宗像 陸
	第5位	亀山耕平
<あん馬>	第6位	佐藤 亘
	第6位	佐藤 亘
<つり輪>	第6位	佐藤 亘
<鉄棒>	第7位	富沢祐太

やり投げの佐藤寛大さんが今年度日本ランキング第2位



5月14－16日に仙台陸上競技場で行われた東北学生対校選手権において、やり投げの佐藤寛大さん（体育学科4年）が75m98の自己新記録で2連覇を果たしました。今年度、日本ランキングも自己最高の2位とし、世界陸上競技選手権大会の参加標準記録Bまであと2mに迫りました。佐藤さんは6月6日の日本陸上競技選手権大会への出場も決まっており、日本ランキングトップの村上幸史選手（スズキ）と直接対戦する事になります。

柔道部の深谷実紀さんがフランスジュニア国際44kg級 優勝



5月15－16日にフランス・リヨンで行われた柔道の2010フランスジュニア国際大会において44kg級日本代表の深谷実紀さん（体育学科1年）が初優勝しました。

試合内容に本人は納得していないそうですが、初の国際舞台で優勝という結果を残したこと自体素晴らしい快挙です。

1回戦：延長戦／指導3	キャレン（フランス）
2回戦：一本勝ち／小内刈	バーロット（フランス）
準決勝：有効・優勢勝ち	エルデヴェント（フランス）
決勝戦：一本勝ち／袈裟固	ホーク（フランス）

5月25日（火）には朴澤学長に優勝報告を行いました。

男子バレーボール部が東北大学春季リーグ優勝



男子バレーボール部が第37回東北バレーボール大学春季リーグ戦で優勝しました。

男子バレーボール部は昨年の秋季リーグで13年ぶりのリーグ優勝を果たし、勢いそのままに今大会では全10試合で落としたセットが1つだけと、他チームに流れを譲らない試合運びでした。

ベガルタ仙台ジュニアサッカースクール仙南校1期生が本学に



ベガルタ仙台と本学は2002年から小学生を対象にした「ベガルタ仙台ジュニアサッカースクール仙南校」を開校しています。今年初めて、このスクールの卒業生の中から本学学生が誕生しました。サッカー部に所属する日野竜馬さん（体育学科1年）で、ベガルタ仙台ジュニアサッカースクール仙南校の第1期生です。当時、小学5年生だった日野さんは、コーチとしてサッカーの楽しさを教えてくれた草野新助手のこともよく覚えているそうです。

日野さんは大河原町出身。身長183cm、体重70kg。小学1年生からサッカーをはじめ、小学3年生からベガルタジュニアスクール太白校に通い、小学5年生の時にできたことで仙南校移ったそうです。中学時代はベガルタ仙台ジュニアユースに所属、高校はサッカーの強

豪校である東北高校に進学して全国大会の舞台を3度経験し、大学は地元の本学に進学しました。

日野竜馬さん

「以前から仙台大学サッカー部は東北でズバ抜けて強いという印象でした。先輩との変な上下関係もなく、チームの雰囲気はとても良いです。今はレギュラーを獲るために当たり負けしない体をつくるのが課題です。また、入学後にジュニアスクールのコーチをさせてもらっています。自分の基礎を築き、育ててくれたジュニアスクールで、今度は指導する側としてかわり、子供たちにサッカーの楽しさを伝えていけたらと思います。」



Monthly Report

Vol.49 / 2010 Jun.

「伊達なSPORT PROJECT」共同記者会見



このプロジェクトの詳細は専用ホームページに掲載されています。ブログも日々更新されていますので是非ご覧下さい。

<http://www.sport-project.jp/>



今年度からスタートした研究事業『伊達なSPORT PROJECT』の共同記者会見が本学を会場に5月31日に行われ、テレビ局3社、新聞社5社に取材いただきました。

記者会見を前に、このプロジェクトの責任者である鈴木省三教授から概要の説明があった後、総括の朴澤学長と共に選手4名が入場して記者会見がスタートしました。

はじめに、プロジェクト総括の朴澤学長が「高校生の健全な成長と、日本を代表して世界にはばたくという夢の実現に向けたチャレンジに是非、関係の方々からの応援をお願いしたい」と述べた後、選手4名から決意表明がされました。明成高校の氏家瑞季さんは「このプロジェクトは色々な人に支えられて成り立っているの、その方たちの思いや気持ちを裏切らないように練習をしっかりと積み重ね、2年後のユースオリンピックで良い成績を残したい」と、力強く語りました。4名共に、口を揃えてスケルトンの体感速度300km/hというところに魅力を感じたと話しており、今後の成長が楽しみです。

既に練習はスタートしております。学内で選手を見かけた際には是非お声掛けください。



左から

佐藤 弾さん(柴田高校)
安藤 早紀さん(柴田高校)
野倉 大貴さん(柴田高校)
氏家 瑞季さん(明成高校)

目次

伊達なSPORT PROJECT 共同記者会見	1
新体操競技部がベラルーシ共和国を訪問	2
導入演習内で新体力測定を実施	3
スポーツキャリア大学院プログラムの委託先に選定	4
入試懇談会 校長職ご就任を祝う会	5
JICAを通して物品を提供 太極拳教室	6
学生の活躍	7
OBの活躍状況	9

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

また、本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email: kouhou@scn.ac.jp

新体操競技部が研修のためベラルーシ共和国を訪問



ミンスク市長代行を表敬



現地の小学校を訪問



ディナモクラブでの練習



クラブチームで取材

6月13－20日に新体操競技部が研修のためベラルーシ共和国のミンスク市を訪問しました。ミンスク市は仙台市と姉妹都市となっており、本学も平成14年に同国の国立体育・スポーツ学院と国際交流協定を締結し、同国から新体操指導者を招聘するなどの交流を図っております。そして今回初めて、学生達が同国を訪問する運びとなりました。

今回の訪問団は、朴澤学長を団長に、山口講師、新体操競技部の大山部長、丹羽監督、外国人指導者のマカロワコーチ、学生5名の総勢10名です。現地では、国立体育・スポーツ学院や地元のクラブチーム、世界的にたいへん有名なディナモクラブ(オリンピックセンター)で練習

を行った他、ミンスク市長代行を表敬訪問したり小学校で交流を行ったりと、たいへん貴重な体験ができたようです。

主将の平間理奈さん(体育学科3年)

「ベラルーシ共和国は世界でも1、2位の新体操大国なので、訪問前から期待は大きかったのですが、期待以上の指導を受けることができました。

普通では絶対に参加することができないディナモクラブにて練習も出来、嬉しく思いました。地元のクラブと大学にて、演技の構成のアイデアとして、より面白く、より点数が取りやすい構成にアレンジして頂きました。また、演技だけでなくウォーミングアップ(バーレックスン、ジャンプ)の指導もして頂き、たいへん多くのことを学びました。

ベラルーシの選手たちは個々の能力が非常に高く、柔軟性はもちろん、手具の操作にも長けており、更に個々がオリジナルな動きを工夫していることに驚かされました。自分への自信と創造力、自分から学ぼうとする気持ちが日本人には欠けていると痛感しました。

今回のベラルーシ研修は、多くの教職員や仙台市の方々に動いて頂き、実現したものです。この貴重な経験を無駄にしないように、チームとして成長していきたいです。」

※学生による報告会は新体操競技部の大会日程等を考慮し、9月に予定されています。

今回のミンスク市訪問に先立ち、6月10日には仙台市の奥山市長を表敬訪問し、ミンスク市との間を取り持っていただいた御礼を兼ねて、朴澤学長と新体操競技部の指導者と部員が奥山市長を表敬訪問しました。奥山市長は学生達に「現地で同じ年頃の新体操競技者と交流することで、きっと新たな発見があるでしょう」とにこやかに語りかけて下さいました。また、朴澤学長にミンスク市長代理 ミカライ・ラドゥツカ氏宛の親書を託されました。朴澤学長はお預かりした親書を現地にて、同ミンスク市長代理に手渡ししました。



導入演習内で新体力測定を実施



年度末に体力測定室(第3体育館1F)に体力自己管理システムが導入され、これにより、3カ年計画で整備を進めてきた栄養・健康・体力の3つで構成される自己管理システムが構築されました。このシステムの目的は、学生が自らの意思で自分自身を管理支援することで、蓄積されたデータは授業での活用や、卒業論文でのデータ利用などが考えられています。

6月中には文部科学省の新体力テスト計測が全学科1学年の導入演習内で実施されました。自己管理システムオフィサーの横川教授をはじめ

め、クラス担任、補助スタッフとして入った新助手と臨時職員の指導と、スポーツ情報マスメディア研究所で作成したDVD「体力自己管理システムの使用方法」により、どのクラスもスムーズに実施されました。新体力テストは全国一律のテストのため、全国の方との比較が可能であり、体力測定テストは競技ごとのトップアスリートとの比較が可能となるため、学生個人が自身の競技や目的にあわせてシステムを利用することが望まれます。

【測定方法】

1. 体重測定
2. 学生証をカードリーダーにかざし、利用者情報を専用ICカードに登録
3. 専用ICカードをパソコンに挿入し、画面表示に従って体重などの必要事項を登録
4. 体力測定(※測定毎に器具のカードソケットにICカードを挿入して測定)
5. 測定終了後にパソコンに専用ICカードを挿入し、測定結果を記録



握力測定



上体おこし



長座体前屈



反復横とび



立幅とび

測定項目

<新体力テスト>

①握力測定②長座体前屈③反復横とび④上体おこし⑤最大酸素摂取⑥立幅とび

<体力測定テスト>

①握力測定②背筋力測定③長座位体前屈④閉眼片足立ち⑤全身反応時間
⑥反復横とび⑦上体おこし⑧最大酸素摂取⑨垂直とび

文部科学省の「大学院でのスポーツ指導者の学位取得を支援する教育プログラム開発事業」の委託先5大学の一つに選定

6月1日に本学は、文部科学省より「大学院でのスポーツ指導者の学位取得を支援する教育プログラム開発事業（スポーツキャリア大学院プログラム）」の委託先の5大学（仙台大学、福島大学、筑波大学、早稲田大学、鹿屋体育大学）の1つに選定されました。

5大学は日本オリンピック委員会（JOC）の「ナショナルコーチアカデミー」の講習を大学院の単位として認めるなどの教育プログラムの開発やトップレベルの競技者が大学院に進学して優れた指導者になるためのサポート体制のプログラム開発を行います。

文部科学省ホームページ

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/06/1294164.htm



柴田町特定高齢者介護予防事業「健康寿命100歳を目指す介護予防の運動教室」



6月4日（金）に柴田町特定高齢者介護予防事業「健康寿命100歳を目指す介護予防の運動教室」が開講しました。

この教室は要支援・要介護になるリスクの高い高齢者を対象に「運動器の機能向上」を目的としています。

受講者は特定高齢者（65歳以上で生活機能が低下し、近い将来介護が必要となるおそれのある高齢者）6名です。

この教室は全10回で、8月6日まで毎週金曜日に本学を会場とされ、講師を橋本教授、笠原講師、岩垂新助手を中心に担当し、健康づくり運動サポーター有資格者の菊田遼さん、田中麻美さん（健康福祉学科4年）、松ヶ崎結さん、吉田美香子さん（運動栄養学科4年）もスタッフとして参加しています。

船岡支援学校から職場体験



船岡支援学校高等部2年生の鈴木結美子さんが、職場体験のため6月28日（月）～7月2日（金）に予算管理課・庶務課で事務作業を行っています。

初日はコミュニケーションがうまく取れるか心配だったそうですが、部屋の明るい雰囲気の中で安心して仕事ができているそうです。年齢の近い浅沼職員指導のもと、主に旅費計算と復命書のファイリングなどの業務を行っています。趣味は読書・音楽鑑賞・スポーツ観戦という鈴木さんは大変明るいので庶務課にお寄りの際は話しかけてあげてください。

なお、鈴木さんのお姉さん（満美子さん）は本学健康福祉学科1年生だそうです。

また、7月1、2日には船岡支援学校の生徒2名が管理課で職場体験をする予定になっています。

高校進路指導関係教諭対象の「入試懇談会」を開催



6月25日(金)に仙台国際ホテルを会場に入試懇談会を開催し、東北6県より過去最高の81

校81名の高校進路指導関係教諭の出席がありました。

懇談会でははじめに、朴澤学長が挨拶の中で、過日、文部科学省に設置認可申請を行った現代武道学科(平成23年設置認可申請中)の説明もされ、本学の人材育成の取組みなどが話されました。その後、中房入試創職部長より、入試に対する受験生と大学とのマッチング及び、高大接続について説明がなされました。また、4学科長より3つのポリシー及び教育目標について説明を行い、平成23年度入試については佐々木事務局長兼入試創職室長が詳細な説明を行いました。本学の教育方針や取組みについて知って頂く良い機会となったようです。

第12回 仙台大学同窓生の校長職ご就任を祝う会



6月25日(金)に、KKRホテル仙台を会場にして宮城県内で校長職に就任された先生方を祝う「第12回仙台大学同窓生の校長職ご就任を祝う会」が開催されました。今春、校長先生になられたのは、第7回生の佐藤純一先生(七ヶ宿中学校)、第11回生の村石好男先生(鬼首小学校)、第12回生の佐藤拡一先生(七郷中学校)の3名です。

当日は、朴澤泰治理事長・学長、本学名誉教授の本多弘子先生、佐藤佑先生、阿部芳吉宮城教育大学副学長らが多数お祝いに駆けつけて下さり、総勢60名の盛大な会となりました。これまで同会では、県内において校長職にご就任された卒業生27名(今回含む)をお祝いしています。

明成高校父母教師会が来訪



6月24日(木)に明成高校父母教師会の15名(教員含む)が来学し、佐々木事務局長及び川村庶務課長が対応を行いました。はじめに佐々木事務局長から本学の教育方針・概要と進学にかかわる概要が説明されました。その後、施設見学を行いました。3時間ほどの滞在でしたが、本学を知って頂く良い機会となりました。

JICAを通して世界の子供たちに物品を提供



国際協力機構（以下：JICA）が主催している平成22年度「世界の笑顔のために」プログラムが4月にスタートしたことに伴い、本学でも学生有志10名が、自作のポスターを学内や地域のスーパーなどに掲示し、不要になった物品（特にスポーツ用品）の提供を呼び掛けました。

このプログラムは開発途上国で必要とされている教育・福祉・スポーツ・文化などの関連物品を日本国内で募集し、JICAがボランティ

アを通じて世界各地へ届ける活動です。本学でも柳講師の提案により、平成19年の春から年2度、活動に賛同し、今回が7度目の活動となります。これまでバレーボール用品、ソフトボール用品、野球用品、サッカー用品、陸上競技用品、剣道用品などの物品を提供し、ベナン共和国やニジェール共和国など各国から御礼状が届いています。

学生代表の横山宗平さん（健康福祉学科3年）は「世界規模の活動なので、自分にとっても大きな経験になると思い、昨年から活動に加わりました。今回の回収では、運動部からだけでなく、教職員個人からの提供もありました。この活動は、個人でも参加できるので、仙台大学をきっかけに地域にも広がれば嬉しいです。」と話しています。

6月8日（火）には学生スタッフが集まった物品を梱包し、JICAへ発送を行いました。今回集まった物品は下記の通りです。

<今回の物品提供>

バレーボール	18個
絵本	4冊
野球ヘルメット	2個
軟式用バット	11本
軟式グローブ	1個
キャッチャープロテクト	1セット

<次回に繰り越すもの>

木製バット （素振り用）	1本
バット	1本
軟式野球ボール	36球 （内、未使用12球）
サッカーボール	6個

ボランティア学生10名

横山宗平さん（健3）、阿部早紀子さん（健3）、加藤和宏さん（運3）、久保田侑樹さん（運3）、佐藤翔哉さん（運3）、千葉龍太さん（運3）、佐々木里花さん（ス2）、槻山朋恵さん（ス2）、

太極拳教室



5月12日（水）より、留学生の黄聡さんこうそうによる太極拳教室がはじまりました。この教室は昨年に行われ、教職員・学生を対象に毎週水曜日の17時30分より学生支援室西側の芝生で行っております。教室は7月21日まで全10回行われ、基本動作の修得に重きをおいています。参加自由となっておりますので振るってご参加下さい。

学生へのお褒めのお言葉を頂戴しました



6月15日(火)に「なかむらさん」とおっしゃる特別支援学級のご父兄から、代表電話に、お褒めのお電話がありました。

「6月13日に行われた中学校の特別支援学級の卓球大会の際に、仙台大学の学生のボランティア11名の姿勢がとてもすばらしかったの

で電話をしました。ボランティアは見えない部分ではあるけれども、今後とも積極的なかわりをされてください。」

ということで、是非学生の皆さんにお伝え下さいとのことでした。

大学関係者として、大変嬉しい出来事であり、本学の学生を非常に誇らしく思う瞬間でもありました。

派遣ボランティア11名

緑川義崇さん(健4)、横山宗平さん(健3)、丸山内大翼さん(健3)、沼倉歩美さん(健3)、高橋舞さん(健2)、氏家美紀さん(体2)、松澤圭さん(健1)、佐藤桂子さん(健1)、小西夢子さん(健1)、鈴木友菜さん(健1)、小牧ひかるさん(健1)

漕艇部2名がボートU23世界選手権日本代表に選出



7月22-25日にベラルーシ共和国で開催されるボートのU23世界選手権日本代表に漕艇部

にしむらみつおの西村光生さん(体育学科3年)と池内風さんいけうちわたる(体育学科2年)が選出されました。軽量級男子舵手なしフォアの日本代表クルーとして世界に挑みます。池内は初の日本代表選出。西村は昨年も同大会・同種目に出場し、日本チーム初の銀メダルに輝いています。両名には史上初の金メダル獲得に期待がよせられています。

第19回河北レガッタ



写真提供: 朴澤学長

6月26、27日に宮城県長沼ボート場で行われた「第19回 河北レガッタ」一般・大学部門において、本学は4種目(男子シングルスカル、男子ダブルスカル、女子ダブルスカル、女子舵手つきクォドルプル)で優勝を飾りました。ボートの花形レース男子エイトでは、東北大学に0.21秒の僅差で競り負け、2年連続の優勝とはなりませんでしたが今回のレースの反省を活かし、8月のインカレにおいて悲願の男子エイト優勝を期待したいところです。なお、決勝が行われた27日には今年創設された柴田町ボート協会から約40名が応援にかけ付けて下さり、選手を後押しして頂きました。

佐藤寛大さんが男子やり投げで第2位／日本選手権



6月6日(日)に香川県で開催された「第94回日本陸上競技選手権大会兼アジア大会代表選手選考会」において、男子やり投げの佐藤寛大さん(さとうのぶひろ／体育学科4年)が自己最高記録の76m49cmを投げ、世界選手権ベルリン大会銅メダリストの村上幸史選手(スズキ)に次いで2位となりました。

佐藤さんは地元、蔵王高校出身。高校では国体で3位になるなど活躍し、大学入学後も1年次に日本ジュニア優勝、昨年のインカレで初優勝しています。今シーズンの日本ランキングは堂々の第2位。投げるたびに自己記録を更新している佐藤は、世界陸上競技選手権大会の参加標準記録B(78m)まであと1m51cmに迫っています。

佐藤さんは6月18日(金)に神奈川県平塚競技場で行われた日本学生個人選手権大会(チャンピオンシップ)でも従来の大会記録を3m76cmも上回る大会新記録で優勝しました。

「ここ1年間で78mを投げれば来年の世界選手権に出場できる権利を得るので、78mは今の目標です。この記録は簡単ではありませんが、可能性のある距離なので、在学中に更新したいです」と話しています。

高大連携事業の明成高校バスケットボール部、体操部がインターハイの切符を獲得



宮城県高校総体において、明成高校バスケットボール部が男女アベック優勝を果たしました。本学の佐藤久夫准教授がヘッドコーチを務める男子バスケットボール部は、6月7日に行われた東北学院高校との決勝戦で、残り0.6秒で同点に追いつき、延長戦の末での4連覇を果たしました。昨年12月のウィンターカップで全国制覇を果たしているだけに、ライバルチームからのマークも激しくなることが予想されますが、インターハイでの上位入賞、そしてインターハイ初制覇に期待しましょう。



明成高校体操部も、男子は県予選で団体6連覇してインターハイ出場権獲得、女子も個人総合で2位と5位に入り、2名がインターハイ出場を決めました。

インターハイは7月28日ー8月20日に競技毎の日程で行われ、体操競技は8月2日ー4日に沖縄県総合運動公園陸上競技場、バスケットボールは7月28日ー8月3日に沖縄市や中城市などで開催されます。

※写真提供／明成高校

卒業生が「教育論文研究助成金」で特選論文賞を受賞

～学び続ける卒業生の歩み(佐藤佑名誉教授よりご紹介)～

平成22年1月7日、宮城県教育公務員弘済会が主催する、第38回教育論文研究助成金の贈呈式が仙台市青葉区のホテルで行われ、特選論文賞に本学の卒業生(S62年度卒・第18回生)である高橋広満さんが選ばれました。

佐藤佑名誉教授の愛弟子である高橋さんは、大学卒業後、2年間の講師経験を経た後、中学校教諭として採用され、現在は登米市南方小学校の教諭として多忙な日々をお過ごしです。今回受賞された研究主題は「学校におけるキャリア教育の具現化を目指して ～キャリア教育プログラムの構築とその実践を通して～」というもので、キャリア教育の必要性が求められている中、小学校における理解や実践に広がりが見られない実態に際し、キャリア教育を小学校教育において推進し、児童に「生きる力」をはぐくんでいくために、具体的な教育プログラムを構築し実践を試みる内容となっています。指導方針と研究・実践内容は、それぞれ以下の通りです。

＜指導方針＞

- ①児童のキャリア発達段階を踏まえて指導にあたる
- ②教科、領域の関連を図り、児童のキャリア発達を支援する指導計画の作成にあたる
- ③人の生き方や働くことに対する価値観に触れる機会を意図的に多く設定する
- ④人や社会のかかわりを重視した学習活動を創造する

＜研究・実践内容＞

(1) キャリア教育プログラムの構築

- ①キャリア発達課題の設定
- ②年間指導構想の立案
- ③指導の系統性・関連性を考慮した指導計画の作成

(2) キャリア教育プログラムの実践

高橋さんは、平成17～18年度、宮城県教育研修センターで専門研究員と進路指導(キャリア教育)のグループ研究に取り組む機会に恵まれ、2年間の研究をベースに学校現場で実践した研究内容を、今回論文としてまとめたそうです。



在学時の高橋広満さん

本学の卒業生の多方面でのご活躍は、在校生・本学関係者にとって何よりの励みであり、みなさまからの広い情報提供をお待ちしております。

池上礼一選手がJ2のFC岐阜に加入

本学OBの池上礼一選手(平成17年度卒)がJ2のFC岐阜に加入しました。

池上選手は習志野高校(千葉県)から本学に進学。3年次から全日本大学選抜チーム入りし、北海道・東北選抜の一員として出場したデンソーカップチャレンジサッカーでは優秀選手に選出。4年次には日本サッカー協会の特別指定選手としてJ1のFC東京に所属。同年に出場した2005ユニバーシアード大会でも日本チームの優勝に貢献しました。卒業後、F東京の選手として2試合に出場、昨年はFC刈屋に所属していました。

池上選手は3年間にわたって、ケガの痛みと戦いながらプレーしていましたが、辛いリハビリを経てケガが完治。新天地であるFC岐阜での活躍が期待されます。



※写真は在学中に撮影したもの

卒業生2名がJICA青年海外協力隊員に



2月のマンスリーレポートでも紹介しましたが、JICA主催の青年海外協力隊員として2年間、国際貢献活動に参加する卒業生2名が渡航直前の6月14日に大学を訪ねてくれました。

ペルーでソフトボールを指導する村橋綾子さん（写真・左）と、マレーシアで障害者スポーツ普及に

携わる齋藤まりさん（共に今年3月卒業）で、研修中はそれぞれが派遣先で使用するスペイン語とマレー語を170時間に及び学んだり、宗教の基礎知識を学んだりしたそうです。

研修中は慣れない語学に苦労したそうですが、2ヶ月間の研修は2人にとって渡航へ向けた大変貴重な時間となったようです。また、プログラムには多くの現職教員が休職して参加し

ていたそうで、経験豊富な先生方との交流も彼女らを成長させてくれたようです。「ムードメーカーとして研修中、積極的に発言し、皆が話しやすい環境をつくってくれ、研修がまとまっていくのを肌で感じました。派遣先では自分が教える側に回るので、同じような対応をしなければならないと考えさせられ、良い出会いができました。一緒に頑張った仲間が世界中に散らばり、活動しているだけで、自分も頑張ることができます。JICAの活動に興味がある後輩がいれば是非お勧めします。相手国の発展につながるだけでなく、自分にプラスになる活動。是非、チャレンジしてもらいたいです。」と話します。

既に村橋さんは今月21日、齋藤さんは23日にそれぞれの派遣国に向け出発しました。JICA東北から頂いた連絡によりますと無事、現地入りし、元気に活動をはじめているそうです。2年後に成長した姿を見せてくれることが楽しみです。

Monthly Report

Vol.50 / 2010 Jul.

海浜実習 由良開講30周年



7月16－19日に毎年恒例の海浜実習が由良海水浴場（山形県鶴岡市）で開催され、172名の実習生が参加しました。海浜実習は課外授業の実践的体験として本学開学(昭和42年)より開講しており、永年、補助金対象事業となっている仙台大学の特色ある実習の一つでもあります。当時は相馬市(福島県)など太平洋側の海水浴場を使用していましたが、昭和56年より由良観光協会にお世話になり、今年で由良海水浴場での開講から30年の節目の年を迎えました。

7月18日にはささやかながら「記念祝賀会」を開催し、由良観光協会会長をはじめ、宿泊先としてお世話になっている宿主たちを招きました。そして、これまでの感謝の意を込め、朴澤学長より感謝状を送り、今後も継続した支援協力をお願いしました。

最終日に行われる「大遠泳」は自然環境の中で、他の実習生と共に泳力のある者もない者も、隊列を組み、体育系大学の学生として全員が泳ぎきる事で得られる達成感は計り知れないものがある。と経験者の多くが語ります。

今年も全員で「大遠泳(3km)」を全員が無事に完泳しました。海浜実習は安全性を重視し、多くの教職員・補助学生・由良観光協会の支援の下に実施されています。

目次

海浜実習 由良開講30周年	1
補助金獲得事業紹介	2
JOC認定競技別強化センターに認定	3
ATルーム学生が熱中症予防を呼びかけ	5
学友会がCM『教室でのマナー改善編』作成中	6
学生の活躍等	8
OBの活躍等	10
オリジナルグッズ紹介	13

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email: kouhou@scn.ac.jp

特 集 —平成21年度文部科学省補助金獲得事業紹介—

宮西准教授が中心となり、平成21年度私立大学等研究設備整備費等補助金を獲得した「**光学式自動三次元動作分析装置**」を紹介します。

第二グラウンド敷地内に新設された「バイオメカニクス実験棟」内に『光学式自動三次元動作分析装置（VICON：バイコンと呼ぶ）』が導入されましたのでご紹介します。

これまで本学での三次元動作分析は、ハイスピードカメラやフォースプレートなどの個別のバイオメカニクス計測装置を組み合わせ、手動によって行われてきました。そのため、身体各部位標点データの収集に膨大な時間と労力を費やしてきました。今回の装置導入により、身体各部位標点データの収集が容易となりました。測定方法は、身体各部位の複数の箇所に貼付固定された反射マーカを、特殊な光学式カメラ9台で捉え高速でオンライン処理し、パソコン上でリアルタイムで確認することが可能です。

今後、この装置を駆使して様々なスポーツにおける身体動作（走、跳、投、打他）を学内はもとより、学外の研究者の協力を得ながら定量解析しデータを蓄積していくことを目標に掲げています。身体動作パターンを本装置を用いて定量解析し検討することにより、トップアスリートから老若男女の秀でた動作の特徴がバイオメカニク的に解明され、本学から科学的エビデンスに基づいたスポーツ技術指導やトレーニング指導の発信が期待されています。

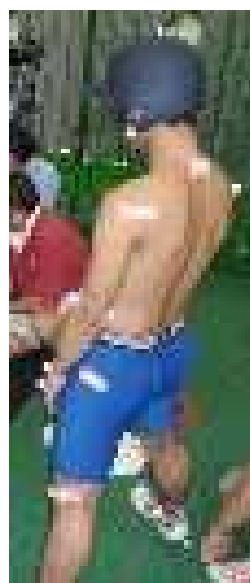
7月16、17日には業者立会いの下、システムの稼働検証実験が終日行われ、宮西准教授とバイオメカニクス研究室門下生が野球の動作を確認・検証しながら実験が行われました（写真：実験風景）。

※装置についての詳細は下記URLをご覧ください。

http://www.irc-web.co.jp/vicon_web/products/index.html



反射マーカの座標位置をリアルタイムに追跡し確認できる。



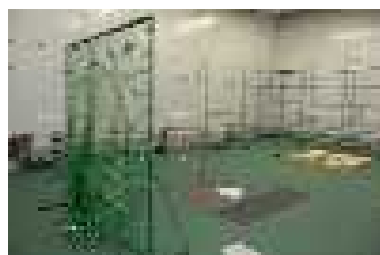
反射マーカ
身体に付けた反射マーカの位置座標をカメラが認識・データ処理する。



MKカメラ

モーションキャ

プチャ専用の光学式超高画素高速カメラ。1600万画素センサを搭載。どの角度からでも捉えられるように全9台設置。



内観



外観

※次号でも平成21年度補助金を獲得した設備を紹介予定です。

本学が「JOC認定競技別(ボブスレー、スケルトン)強化センター」に認定



この度、本学は日本オリンピック委員会(JOC)から「JOC認定ボブスレー・リュージュ(ボブスレー、スケルトン)競技別強化センター」に認定されました。これは、オリンピック強化指定選手等のトップアスリートが強化活動で有効に利用している施設を「JOC認定競技別強化センター」とし、各競技団体の選手強化を選手強化活動が円滑に行えるよう、JOCが施設活用を支援するものです。

認定期間は2014年のソチ冬季オリンピック終了時までです。JOCが認定を証明する看板が到着次第、設置される予定です。

学生2名が日本代表として、米国で開催される運動能力テストに出場



ストrengths&コンディショニングコーチ、パーソナルトレーナーの世界的団体であるNSCA(全米ストrengths&コンディショニング協会)のカンファレンス(7/14~17)において、運動能力テストが開催されました。この大会に日本代表としてバレーボール

部の水野竜馬さん(みずの りょうま/体育学科2年)とB.L.S部の米倉理絵さん(よねくら りえ/運動栄養学科2年)が出場しました。

運動能力テストにはNSCA本部がある米国をはじめ欧米数カ国の代表者(19才以下が規定)が集い、「垂直跳び」「プロアジリティ」「10ヤードダッシュ」「ハングクリーン」の4種目の総合成績で世界一を競いました。本学は国内でも数少ない「CSCS資格」、「NSCA-CPT資格」両方の認定校であることから、本学内の選考会が日本代表選考会となっております。本学の参加は今回が3度目で、今年も海外選手と競い合うと共に交流を図りました。

結果は両名共に3位という結果でしたが、「ハングクリーン」においては水野さんが大会新記録で部門優勝を果たしました。

水野竜馬さん

初の大舞台に緊張してしまい、最初の種目であった「垂直とび」は不甲斐ない成績でした。しかし、競技が進むにつれて平常心で競技に挑む事ができ、最後の種目であったハングクリーンでは練習以上のパフォーマンスを出すことができました。この記録が新記録と聞かされ大変嬉しく思っています。今回の経験でトレーニングの重要性を理解できたので、バレーボールに活かせるように加賀ストrengths&コンディショニングコーチの指導を仰ぎながら今後も続けていきたいと思います。

米倉理絵さん

「垂直とび」は納得できる結果を残せませんでしたが、他の3種目については練習どおりと、結果にはまずまず納得しています。しかし、他国の競技者のパフォーマンスが素晴らしく、力の差をまざまざと思い知らされました。今回はカンファレンスでいくつかの講話を聞かせて頂きましたが、英語が理解できず貴重な時間を不意にしていまいしました。今後は英語も勉強し、国際人になりたいと感じました。

2人からの大学への提案

代表に選ばれてからの1ヶ月間は、集中してトレーニングしましたが、すればするだけ記録は伸びるので、トレーニング期間を長くするためにも大学で実施する代表選抜の時期を早めてはいかがでしょうか。

体育学科・健康福祉学科・スポーツ情報マスメディア学科の「学科一日体験会」を実施

～ 暑いなか、保護者・高校生の皆さんご来場ありがとうございました ～



7月10日(土)に体育学科とスポーツ情報マスメディア学科、7月11日(日)に健康福祉学科の「学科一日体験会」を開催し、学生によるキャンパスライフの紹介や模擬授業を体験して頂きました。2日間で昨年を上回る182名の生徒が来場し、用意した全ての企画が大盛況でした。参加者のみなさんには自分が入学した際の大学生像を膨らませてもらえたことでしょう。

今後、8月1日(日)に運動栄養学科の「学科一日体験会」、8月7日(土)には「オープンキャンパス2010」とイベントが続きます。

引き続き、本学の魅力が十分に伝わるよう、教職員・新助手・学科の代表となった学生のみなさん、協力し合って体験会やオープンキャンパスを成功に導きましょう。

平成22年度みやぎ県民大学 仙台大学開放講座が盛会裏に終了



7月2日(金) (18:30～20:30)から4週にわたって平成22年度みやぎ県民大学・仙台大学開放講座「いつも元気でエコ・ライフ」が開講されました。この講座は健康であり続けることが多様な面でエコロジーにつながるという視点に立ち、知識・実践の両面から日々の健康づくり、さらにはいつも元気な生活の実現に役立つためのプログラムが組まれました。柴田町だけでなく仙台市や名取市、白石市などから126名の受講生に参加いただき盛会裏に終了しました。

講座名・講師	
第1回 7月2日	「カロリーオフでエコ・ライフ」 ーエコな食事ですいつも元気ー 丹野准教授・岩田講師
第2回 7月9日	「歩け歩けでエコ・ライフ」 ー健脚自慢ですいつも元気ー 佐藤(久)准教授
第3回 7月16日	「レクリエーションでエコ・ライフ」 ー心のリフレッシュですいつも元気ー 高崎講師
第4回 7月23日	「軽運動でエコ・ライフ」 ー気軽な運動ですいつも元気ー 小池教授

A Tルームの学生が、毎日「熱中症予防」を呼びかけ

～ 学生トレーナーとして高い意識で熱中症予防プロジェクトを行う ～



本学のA Tルーム（アスレティックトレーニングルーム）で、渡会助教や、白幡新助手の指導の下、30名程度の学生が縁の下の力持ちとなってトレーナー活動をしています。各部・サークルに帯同している学生トレーナーのほか、トレーナーをもたない部活動の競技者にとってもA Tルームを気軽に利用できることは心強いサポートのひとつでもあります。

A Tルームでは、今年4年目となる「熱中症予防プロジェクトチーム」を結成し、7月上旬から20名ほどの学生メンバーで会議や勉強会を開き、互いに知識を深め共有しあっています。メンバーはローテーションで月曜～金曜の毎日、気温が上がる昼休みを利用し①グラウンド②サッカー・ラグビー場、③第一・第二体育館の4箇所、それぞれの場所で「WBGT＜熱中症指標計＞人体の熱収支に影響の大きい湿度、輻射熱、気温の3つを取り入れた指標」による測定を行っています。測定後は、各体育館前にその日毎の測定値を張り出し、色別に「熱中症」になりやすい危険度を示すボードで熱中症の予防をよびかけています。

熱中症予防プロジェクトメンバーのリーダーで、初年度から活動を続ける運動栄養学科4年の阿部斐子さんは「今年は暑くなる時期も早い。学生トレーナーをもたない競技者へは、なかなか熱中症を呼びかけができない。毎日危険度を知らせ各自の意識を高めたい。去年のアン

ケートから、熱中症になってしまったときの対処法がわからないという結果も出ているので、個人にどのようにアプローチしていくかが課題」と話します。



昼休みを利用した自主勉強会



プロジェクトメンバーへWBGTの測定説明をするプロジェクトリーダーの阿部斐子さん（運動栄養学科4年）

日本体育協会HP「WBGTとは」

<http://www.japan-sports.or.jp/medicine/guidebook1-2.html>

環境省HP「ご存知ですか？ 予防・対処法」

http://www.env.go.jp/chemi/heat_stroke/pdf/leaflet0906.pdf

渡邊 まみさん（体育学科2年）

熱中症予防啓発プロジェクトとして、「予防と対策について」を今回発表しました。自分が理解しただけでは説明できないこと、相手に判りやすく「伝える」ことのむずかしさも感じました。

私自身中学・高校で競技者として活動してきましたが、経験してきた怪我を通し大学では、競技者をサポートする立場のアスレティックトレーナーとしての資格を取得したいと思い大学に入学しました。大学と提携している明星大学小学校の通信課程で小学校免許取得も目指しています。トレーナーとしての活動経験も活かして、怪我の予防やケアができる指導者になりたいと思っています。



学友会が中心となって CM『教室でのマナー改善編』作成中



学友会のメンバーが中心となり、同じ学生の立場からマナーアップを呼び掛ける活動の一つとして、ゴミのポイ捨てを防ぐポスター作成と掲示を行い学内で呼びかけを行っています。

今回、その対策の一つとして学友会のスポーツ情報マスメディア学科4年氏家奨悟さんが中心となり『教室でのマナー改善編』の学内CMを作成しています。完成後は大型ビジョンをはじめ学食などでも放映し、継続的に映像での呼びかけを行っていく予定です。

また、事務局を中心とする「地球温暖化プロジェクトチーム」では、省エネルギーの観点から教室巡回も行っています。巡回の際には使用されていない教室の消灯と冷房の適正温度のチェックの他、ゴミが残っている教室があれば日時と時間帯などを記録することとし、注意が必要な時間や教室を絞り込み、改善策につなげていく予定です。

教職員のご理解とご協力、そして学生のみなさんのご協力をお願いします。

仙台大学紀要「第2回ベスト論文賞」を笠原講師が受賞



学会の仙台大学紀要「第2回ベスト論文賞」に笠原講師の「要介護高齢者における転倒リスク予知の数値化に関する研究 —Berg Balance Scaleの有用性に関して—」が選ばれました。授賞式は7月6日（火）に開催された第823回教授会の中で行われ、受賞した笠原講師に対して朴澤学長より表彰状と記念品が手渡されました。この賞は、仙台大学紀要の「質」を高め、より良いものにしていくという意識の高揚を図るべく、本学教職員等の積極的な取り組みを期待して昨年制定されました。

選考は、学外の有識者らで構成された「仙台大学紀要ベスト論文賞選考委員」によって、前年度の本誌に掲載された原著論文の中から選ばれています。

吉林体育学院から訪問団が来訪

フーエンファ

7月1—5日に、吉林体育学院から何艶華副院長をはじめとする6名の訪問団が来訪し、平成15年に交わした「国際交流協定書」をより具体的内容とすべく、「学部学生の相互交流と教員間交流における覚書」を取交わしました。また、交流会議や吉林体育学院の関心度が高かった健康福祉学科との打ち合わせなどを行なうなど意義深い交流を深めました。



中国国費留学生の笹井善仁さんが一時帰国



上海体育学院(中国)に国費留学中の笹井善仁さんが夏休みのため一時帰国し、7月9日に大学を訪れ、元気な姿を見せてくれました。お土産に上海万博で購入した中国館の模型(写真：机上)を朴澤学長にプレゼントしました。

【近況報告】

5月末から共に上海体育学院で学んでいる安部浩太郎さんと一緒に日本人学校で幼稚園生や小学生を相手に、とび箱や鉄棒の指導をしています。教える事の難しさを感じる一方で、子供たちの吸収力の早さに驚かされています。教員を志望しているのでとても良い経験となっています。また、子供たちへの指導を通して日本人の方との接点も増えており、上海で就職することも考えの一つになりつつあります。上海体育学院の修了まであと一年なので、学業をしっかり頑張ると共に、将来進む道についても明確にしたいと考えています。

新学期は9月からなので、8月末まで漕艇部と行動を共にして後輩がインカレで最高の成果が残せるように全力でバックアップしていきたいと思います。

健康運動指導士講演会「健康運動指導士に求められているもの」開催



2010年7月15日(木)に、(財)宮城県成人病
すぎむらよくに

予防協会の杉村嘉邦氏(健康福祉学科 平成12年度卒)をお招きして講演会「健康運動指導士に求められているもの」が開催されました。

近年、体育系大学生は生活習慣病対策における運動指導の担い手として期待されており、平成19年度からは本学を含む体育系大学等で健康運動指導士資格取得における講習免除制度もスタートしています。健康運動指導士による学生

向け講演は昨年引き続き2回目で、現場の健康運動指導士から、学生に運動指導の楽しさ・重要性などの実際を直接伝えてもらい運動指導の担い手を育成するのが目的で、小松(正)教授、笠原講師、近藤助教らの関連教職員が中心となり開催しているものです。

講演では、健康運動指導士に関連する最新情報として、メタボリックシンドローム健診・事後指導、介護予防事業について実体験に基づいた話がなされ、「健康運動指導士は最新情報を得るために、理学療法士、保健士等とも日ごろからコミュニケーションをはかるとよい」等のアドバイスがありました。質疑応答では、学生から熱心な質問や感想が述べられました。

健康運動指導士として活躍されている先輩からのアドバイスをうけ、8月から開かれる試験対策講座に対する意識がたかまったようでした。

今年度から、受験機会も4年生の9月、11月、3月と一挙に3回増えたこともあり資格取得に期待がかかります。

サッカー部が総理大臣杯で11年ぶり2度目のベスト4入り



2010年度第34回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントが7月4－10日に大阪長居スタジアムを会場に開催され、全国から各ブロックの予選を勝ち上がった16校が熱戦を繰り広げました。東北代表として3年ぶり26回目の出場を果たした本学は、1回戦の同志社大学(関西地区第1代表)に続き、2回戦の慶応義塾大学(関東地区第3代表)を共に3対2で下して準決勝に勝ち進みました。準決勝では惜しくも1対2で駒澤大学(関東地区第2位代表)に敗れましたが、東北地区のレベルが全国に通用する事を証明してくれました。サッカー部が今大会でベスト4入りしたのは11年ぶり2度目の快挙です。なお、奥埜博亮さん(体

育学科3年)は大会最多の4得点を決め、全日本大学選抜チーム22名の中に選ばれました。7月26日－8月7日には国内とトルコで行われる強化合宿に参加します。

主務の伊勢裕介さん(体育学科4年)

メンバーとスタッフが一緒になって雰囲気よく頑張れる事ができたからベスト4までいくことができたと感じます。今大会ではこれまでより攻撃的な布陣で臨み、自分達の攻撃サッカーが全国で通用した事は大きな自信になりました。今年のチームの目標はベスト4だったので、今大会で達成することができました。これに満足することなく、インカレでは決勝の舞台に立てるようにチーム力をあげて頑張りたいです。



大会最多得点 奥埜博亮さん(体育学科3年)

全日本大学選抜に入ることは目標の一つであったので、選ばれたことはたいへん嬉しいです。来年開催されるユニバーシアードのピッチに立てるように、これからも努力を続けてアピールしていきたいと思います。引き続き、応援宜しくお願いします。



ボートのU23世界選手権で7位入賞



7月22－25日にボートのU23世界選手権がベラルーシ共和国で開催され、本学から日本代表として、漕艇部の西村光生さん(みつお／体育学科3年)と池内風さん(わたる／体育学科2年)の2名が出場しました。

西村さんは2年連続の出場で、去年は同種目で史上初の銀メダル獲得に沸き、今年は初の金メダル獲得も期待されていましたが、7位入賞という結果となりました。しかし、レースの内容や、2年連続の入賞は大健闘であり評価できる内容であったようです。

各サークル代表者へ 体力測定システム説明会



7月13－15日にサークル代表者に対して体力管理システムの説明会が行われ、I Cカード自己管理システムオフィサーである横川教授が利用方法について説明を行いました。

1年生は既に「導入演習」の中で体力測定が実施され、システムの利用方法を熟知していますが、2年生以上の学生はシステムを利用することが少ないため、利用を促進する事が今回の大きな目的です。今後は、サークル単位でシステムを有効活用していくことが期待されます。

杜の都大学女子駅伝(10月開催)の東北学連選抜チームに本学から2名が選出



7月18日(日)に第28回全日本大学女子駅伝対校選手権大会が行われ、本学は東北福祉大に次ぐ2位となり、10月に行われる杜の都大学女子駅伝の出場権を得ることはできませんでした。しか

し、東北福祉大学以外の記録優秀選手が東北学連選抜チームを結成し、同駅伝に出場します。このメンバーに志賀愛香さん(運動栄養学科4年)と片桐亜子さん(体育学科1年)の2人が選出されました。志賀さんは4年連続の東北学連選抜入り、1年生の片桐さんはもちろん初めての選出ですが、高校時代には全国都道府県対抗女子駅伝の宮城県高校生代表にも選ばれています。両名の華麗なる激走に期待しましょう。

志賀愛香さん(運動栄養学科4年)

4年間の集大成でベストを尽くします。

片桐亜子さん(体育学科1年)

良い緊張感を持ってベストを尽くします。

鈴木保之香さんが2年連続で89ERSチアーズメンバーに

鈴木保之香さん(体育学科2年)が今シーズンも男子プロバスケットボールチーム「仙台89ERS」を応援する「89ERSチアーズ」のトップメンバーとなりました。

鈴木保之香さん

「昨シーズンはダンスを覚えるのに苦労しましたが、ブースター(応援者)との一体感や、名前を覚えてもらえたことが嬉しく、シーズンを通して楽しく踊ることができました。小学校から続けているバ



ントワリングを披露する機会をつくってもらえたことも自分にとって大きな出来事でした。89ERSチアーズには今シーズンからトップチームの他に、社会人チームと高校生チームができたので、新メンバーの見本となれるように頑張ります。

私も一生懸命「仙台89ERS」を応援しますので、皆さん応援に足を運んでください。」

運動栄養学科の卒業生3名が管理栄養士国家試験に合格

第24回管理栄養士国家試験に本学卒業生3名が見事合格しました。昨年、一昨年の合格者2名を合わせて本学卒業生から5名の管理栄養士が誕生しました。なお、管理栄養士国家資格は栄養士養成施設を卒業した後の栄養指導等に従事することが要件となっており、卒業して1年間は受験資格が与えられません。

第24回管理栄養士国家資格合格者

高野絵里さん（19年度卒）、清野 隼さん（19年度卒）、奥友 薫さん（20年度卒）

私はこうして合格した!!

仙台大学運動栄養学科の卒業生

管理栄養士国家試験に合格！

清野隼さんにインタビュー



合格おめでとうございます！率直な気持ちをお聞かせ下さい。
今年の一番大きな目標だったので、嬉しいです。



合格できた理由は何だと思いますか？

- ・これで落ちたら一生受からないだろうと思うくらい勉強したこと。
- ・母親が送ってくれた合格お守り、父と祖母の支え。

管理栄養士を取得したい後輩へ、
自分が勧める勉強方法は？

仕事をしながらだと、すべてを網羅することは非常に厳しいと感じました。内容を覚えることはもちろん大事ですが、ある意味多少は腹をくって、「試験に受かるだけの勉強」も必要だと思います。（いわゆる問題文等の暗記）

**森永製菓株式会社
ウィター・トレーニングラボ
清野 隼 (25)**

本格的に受験勉強を始めたのは
いつ頃からですか？

12月ごろ

今後の夢や目標があれば
お聞かせください
選手とともに成長し続けたい。



仕事と受験勉強の両立はどうでしたか？
本当に大変だった。前日勉強したことを1日仕事に集中することによって忘れてしまうことに一番あせりと腹立たしさを感じた。

勉強時間はどのタイミングでとりましたか？
早番（9時半～18時）の時は7時半～9時半、21時～23時
遅番（13時～21時半）の時は9時半～12時半、23時～24時

模試会場や職場で、仙台大学と、
他の栄養士養成校(もしくは管理栄養士養成校)
の違いを感じることはありますか？
職場でも感じるのですが、圧倒的に生化学や
解剖生理学、栄養学など弱く感じました。

仕事から帰って、勉強に勤しんでいても、
眠気が襲ってくることもしばしば・・・
そんなときの眠気対策は？
眠くなったら寝て、朝早く起きることを心がけました。

⑪最後に一言！

自分にとって今やるべきことは何なのか、しっかり足元を見つめて日々前進あるのみ！

提供： 仙台大学 管理栄養士国家試験「合格修練会」 早川 (F206)・竹内・菊地 (助手研)

本学OB小野勇太さんが 難関資格JASA-AT資格を取得

～ トレーナーコースから初のJASA-AT資格者が誕生 ～



7月28日、OBの小野勇太さん(平成20年度体育学科卒)が超難関といわれる日本体育協会が有するアスレティックトレーナー検定試験に見事合格し、大学に喜びの報告のため訪れてくれました。本学においては現行のトレーナーコースを開設してから6年目で初の合格者で

す。小野さんは柴田町出身。白石高校卒業後に県外の専門学校で2年間学んだ後、本学の体育学科トレーナーコースに編入学しました。在学中は主にATルームで学生トレーナー活動を行い、ハワイ州立大学のスクーリングにも参加し

て知識を高めてきたそうです。

日本体育協会がアスレティックトレーナー資格を創設して15年、合格者が全国で1,356名のみ(H21年10月現在)と資格取得は超難関で、宮城県では現在13名しかこの資格を保有していません。小野さんは現在も柔道整復士の国家資格を取得すべく現在も学びつづけています。

指導教員の小西准教授も「知識を蓄えるだけでなく、実践力が問われることが多いので、小野さんがこれまで色々な場所で学び実践してきた結果がようやく実を結んだ。」と話しています。

<資格取得をめざす後輩に向けて>

「なぜ」と一つ一つ疑問に思うことが重要。それが着実に身につく知識となります。

スケルトン競技でオリンピック3大会に出場した越和宏さんが来訪



7月12日(月)に、スケルトンの第一人者として冬季オリンピック3大会に出場した越和宏さん(昭和61年度卒)がバンクーバーオリンピックの結果報告と、引退報告のため朴澤学長のもとを訪れました。越さんはバンクーバーオリンピック後、現役引退を表明し、現在は長野で指導者としての新たな一歩を踏み出しています。

朴澤学長は「長年にわたっての活躍お疲れ様でした。」と労いの言葉をかけられました。

越さんは日本オリンピック委員会(JOC)が任命するスケルトン専任コーチの有力候補にも挙がっており、日本を代表するスケルトン指導者としての活躍が期待されています。

平成22年度 仙台大学同窓会代議員会



7月10日(土)にサンシャイン青葉(柴田町内)において「平成22年度仙台大学同窓会代議員会」が行われ、平成21年度事業報告・会計報告と平成22年度の事業案・予算案について審議されました。

会議後には同会場で懇親会が行われ、懇親を深めました。

本学OB植松鉦治選手 (KONAMI所属体操競技部)、朴澤学長を表敬訪問



7月7日、世界選手権への出場決定報告と、体操ジャパンカップにおいて種目別鉄棒で優勝し日本チームのV2におおきく貢献した本学OBで、KONAMI体操部所属の植松鉦治さん（平成21年3月卒業）が、本学を訪れ朴澤学長に報告をしました。

朴澤学長は「今後も期待しています。」と激励し、植松選手からも「また金メダルをもって、仙台大学に報告に帰ってきたいと思います。」と話されました。

同日の夕方には、本学体操競技場で卒業後初めてという練習を後輩とともに2時間じっくり行い、さわやかな汗を流しました。

植松選手は「新鮮な感じがします。みんなの楽しい雰囲気が伝わります。」と、笑顔を見せました。後輩たちも植松選手からアドバイスを受け、真剣な眼差しで聞き入り練習に励んでいました。

植松選手へinterview

問／卒業後はじめて、大学で練習をするそうですが、いかがですか？

植松／大学のみんなと練習をして、ひさびさに新鮮な感じ。楽しい感じが伝わってきます。

問／改めて、体操競技部の後輩へのメッセージ

植松／楽しい雰囲気を作っていることは、とても良いこと。でも楽しいだけではだめ。競技をやる中で高い目標を持って頑張してほしいです。

問／特に期待している後輩は？

植松／やはり、亀山耕平、宗像陸、石原大には頑張してほしいですね。

問／体操の名門、コナミに就職し社会人になった今、大学時代を振り返ってみると、どんなことが見えてきましたか？

植松／正直、今の環境と比べても仙台大学の施設は整っているとおもいます。大学時代にこの施設

で練習を重ねていけることは非常に恵まれているし、すごいことだったとあらためて感じます。学生達はもっともっと、うまくなれるはずです。

問／在学中は、運動栄養サポート研究会のサポートを受けていましたがどうでしたか？ほかによく利用していた施設などがあれば。

植松／食事管理という面では、試合の時に食べるべきものや、逆に食べてはいけないものなどを教えてもらい参考にしていましたし、心強いサポートでした。在学中はケガなど少なかったのですが、ATルームの交互浴のプールは、よく利用していました。

問／10月の世界選手権（オランダ・ロッテルダム）にも出場が決まりましたが、抱負などお聞かせ下さい

植松／今の自分の実力でいけば、種目別鉄棒では、優勝を狙えると思っています。チーム全体としても順調。この3ヶ月で調整し日本チームみんなの「和」を強め「金」を狙います。金メダルをもってまた仙台に帰ってきたいです。

問／23年前には小西総監督が奇しくも、同会場のロッテルダムで開催された世界選手権に出場し、団体5位、メダルなしの、「史上最悪の結果」になってしまったそうですが。

植松／そうだったんですか。それなら「史上最高の結果」にして帰ってきますよ。と小西総監督に。

問／体操競技でオリンピック出場の仙台大学第一号になるために本学へ入学した植松さん。ロンドン五輪に向けての、今現在の「想い」は？

植松／目標はあくまで、ロンドンで金メダルを獲ること。それまでは着実に12月の全日本選手権、トヨタ国際の代表に漏れないことだと思っています。

在学中と変わらずに、礼儀正しく笑顔のまぶしい植松選手でした。

なお、学長表敬の様子は同日のミヤギテレビでも2度放映されました。



Monthly Report 13

Monthly Report

Vol.51 / 2010 Aug.

平成23年4月より「現代武道学科」が新設

～運動栄養学科収容定員増認可申請も受理～

本年6月、文部科学省に届出及び認可申請していた「現代武道学科の設置届出・収容定員増認可申請」と「運動栄養学科収容定員増認可申請」が8月末日で正式受理され、平成23年4月に開設する運びとなりました。現代武道学科は①「平成24年度からの中学校武道教育の必修化に伴う道徳教育と安全教育のできる武道専門指導者の育成」、②「日本の伝統と文化に立脚した武道修得を土台とした社会の安全・安心を確保する専門家の育成」を目標とした従来の武道系学科にはない、新しいコンセプトを持った学科です。

入学定員は30名(3年次編入学定員10名)で、運動栄養学科の収容定員増(入学定員60→80名)とあわせると、1学年の入学定員は500名となります。



詳細については随時、ホームページ等で紹介してきます。

現代武道学科のパンフレットはこちら(http://www.sendaidaigaku.jp/pdf/gbd_1.pdf)からご覧いただけます。

◆文部科学省HP＜平成23年度からの私立大学等の収容定員の増加に係る学則変更予定一覧＞

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/daigaku/toushin/_icsFiles/afiedfile/2010/08/20/1296722_2.pdf

◆文部科学省HP＜平成23年度開設予定の大学の学部等の設置届出一覧（平成22年6月分）＞

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/08/_icsFiles/afiedfile/2010/08/30/1297126_1_1.pdf

目次

現代武道学科設置認可	1
オープンキャンパス 1日学科体験会	2
生活習慣病予防運動教室 JOC認定看板	3
今年も2名が中国国費留学	4
タイからの留学生送別会	5
ドイツスポーツ少年団 フィンランド留学	6
国際スポーツ情報カンファ レンス	7
学生の活躍	9

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email: kouhou@scn.ac.jp

2010年仙台大学オープンキャンパスを実施



8月8日（土）にオープンキャンパスを開催し、暑い中学生・保護者あわせて約1000名の方々にご来場を頂きました。暑い中ご来場下さった皆さま、有難うございました。

仙台大学ならではの各学科、特徴ある施設・設備を使った体験会や模擬講義、個別入試相談会などを実施しました。オープニングプログラムでは、卒業生3名から「OBからのメッセージ」と題した講演を行い、現在の職場での活躍や大学で培った経験が今に生かされていること、本学在学中のエピソードなどをお話頂きました。アテネオリンピック陸上競技4×400mリレーで4位入賞した佐藤光浩氏（平成14年3月卒、現富士通株式会社）からは、高校生へ向けたメッセージとして「他人と比較するのではなく、自分がどうすれば輝けるようになるかを常に考えて欲しい。自分が輝くことができる大学を是非、選択して下さい。」との話しがありました。高校生達に大学生活や卒業後のイメージをして頂けたのではないかと思います。

教職員・補助学生の皆さまたいへんお疲れ様でした。

<当日行われた主なプログラム>

- ◆ OBからのメッセージ
 - ・佐藤光浩氏—富士通（株）元オリンピック選手
 - ・清野隼氏—森永製菓（株）スポーツ栄養士
 - ・櫻井直樹氏—白石市立小原中学校保健体育教諭
- ◆ 仙台大学とオリンピック・プロスポーツに関する展示会
- ◆ ミニ講座「保健体育の先生の仕事」
- ◆ 進路紹介「スポーツ選手を支える仕事—体育大学からの進路」
- ◆ 新体操競技部演技披露
- ◆ 入試説明会／保護者対象ガイダンス
- ◆ キャンパスツアー
- ◆ アスレティックトレーニング体験
- ◆ ボート体験
- ◆ 調理実習体験
- ◆ ニュース・番組制作体験
- ◆ ボブスレー・スケルトン体験
- ◆ ニューススポーツ体験

運動栄養学科の学科一日体験会



8月1日(日)に運動栄養学科の学科一日体験会を開催し、生徒60名の方々に参加いただきました。学生による大学生活を紹介した後、スポーツ選手に栄養指導するときに使う「栄養指導用リーフレット」をつくったり、サプリメント（補助食品）についての講座を開いたり、運動栄養学科で学ぶ内容をじっくり体験していただきました。

平成22年度生活習慣病予防運動教室が開講



7月8日から柴田町主催で本学教員が講師を務める「生活習慣病予防運動教室」がはじまり、26名が受講しています。この教室は柴田町の健康診断で「骨粗鬆症」、「特定保健指導対象者」「高血糖」の町民を対象に開催しているもので、期間は半年です。受講生は日々、歩数・体重・食事・睡眠時間・運動量などの生活習慣をノートに記録し、1ヶ月毎に講師に報告。講師からは次月に取組むべき課題が示されます。受

講生が本学に集まって行う講習会も月に1度開き、健康講座や普段の生活に取り入れやすい軽運動を紹介し、普段の生活を見直すよう指導しています。8月5日に開催した第2回講習会では「調理・食事指導」をテーマに、摂取カロリーを控える調理方法が紹介されました。受講生のサポートとして運動栄養学科の学生も加わり、実際に調理を行い食事もしました。カロリーを控えても味に遜色がないことで、受講生たちはこれからの調理を工夫していこうと意欲をわかせていました。

第1回 (7月8日)	開講式・検査測定
第2回 (8月5日)	調理・食事指導
第3回 (9月2日)	健康講話・楽しい運動
第4回 (10月7日)	健康講話・楽しい運動
第5回 (11月4日)	検査測定
第6回 (12月9日)	講評・閉講式

「JOC認定競技別(ボブスレー、スケルトン)強化センター」認定看板設置



本学は日本オリンピック委員会(JOC)から「JOC認定ボブスレー・リュージュ(ボブスレー、スケルトン)競技別強化センター」に認定され、認定看板がA棟入口に設置されました。これは、オリンピック強化指定選手等のトップアスリートが強化活動で有効に利用している施設を「JOC認定競技別強化センター」とし、各競技団体の選手強化を選手強化活動が円滑に行えるよう、JOCが施設活用を支援するものです。認定期間は2014年のソチ冬季オリンピック終了時までです。



今年も2名が中国国費留学へ

ばん かずあき いしはら もりたけ

本学卒業生の伴 和暁さん、石原 守剛さんの2名が中国国費留学として、それぞれ上海体育学院、瀋陽師範大学で学ぶために渡中しました。本学では平成20年度から中国国費留学生として毎年派遣し、今回の派遣で合計7名の学生を送り出しています。石原さんが留学する瀋陽師範大学への国費留学は今回が初めてです。

ばん かずあき

伴 和暁さん（留学先：上海体育学院）



中国が世界経済においてなくてはならない存在となった今、その最先端である上海という都市で、自分の可能性をさらに広げて成長したいと考え、今回留学することに決めました。言語をはじめ、中国という国の歴史やあり方、そして、今後の日本がスポーツや経済において、どのように中国や世界と関わっていけば良いかということ、自分で感じてきたいと思っています。

いしはら もりたけ

石原 守剛さん（留学先：瀋陽師範大学）

※馬場准教授提供



中国語を学べるチャンスだと思いました。中国は市場も増えているので、これまで観たことのない世界での生活が楽しみです。私の行く瀋陽は、歴史的にも重要な拠点となった場所なので、それらを含め、日本と中国の違いを重点的に学んできたいと思います。

また、留学中の日野さん、金井さん、安部さんが一時帰国し、大学へ挨拶に訪れました。

ひの こうき

日野晃希さん

修論は仙台大学大学院でのテーマとは別の内容で日中比較をしたいと考え、既に取り掛かっています。残り1年しかないので、中国国内を旅行して見聞を広め、充実した生活にしたいと考えています。今年は東北師範大学への国費



※手土産の兵馬俑

留学生がいないと聞き、大変残念です。日本や欧米と比較して高水準とは言えないものの、図書館は中国全土でもトップクラスの書籍を有しているので、個人の意識次第で自分を高める事は十分に可能です。来年は東北師範大学に後輩が入ることを期待します。

かない ひろのぶ

金井弘順さん

中国語はほぼマスターできたので、これから英語にも挑戦したいと考えています。今は留学生向けコースの「中国語コース」を専攻中ですが、中国人と接する機会を増やしたく、中国人向けの「国際貿易コース」に変更するために東北師範大学に相談したいと考えています。同じ国費留学中の



仙台大学の先輩2人に、お世話になりつつ楽しく過ごしていますが、残り2年しかないので「語学力を伸ばすこと」、「中国の見聞を広げること」、「アクティブに生活すること」を目標に掲げて生活していきたいと思っています。

あべ こうたろう

安部浩太郎さん

子供の体力について研究を進めて行きたいと考えています。1年間は笹井さんと一緒に在中している日本人の子供に対して運動指導をさせて頂いており、指導法や体力について学ぶ良い機会となっています。

上海体育学院は太極拳などの武術で有名な大学で、

私も興味がある分野なので、積極的に学んで行きたいと考えています。中国語については、聞き取ることは大体マスターしましたが、相手に自分の気持ちを上手に伝えることができていないので、今後の課題です。中国語検定であるHSKで高級を取得する事も現在の目標の一つです。



タイ国シーナカリンウィロート大学から科目等履修で留学したカニッターさん送別会



今年4月から科目等履修生として本学と国際交流提携大学であるタイ国シーナカリンウィロート大学から留学していたカニッターさんが、前期授業の科目履修を無事修了し、帰国する運びとなりました。8月26日(木)には国際交流会館(仮称)においてカニッターさんの送別会が開催され、朴澤学長はじめ留学生担当部署の教職員や臨時職員、留学生が参加し、5ヶ月間過ごした仙台大学での思い出等を語り合いました。台湾から留学している曾 鈺倫さんからは、「これからも頑張るね。」との言葉がかけられるなど留学生同士でも良い関係が構築されているようでした。カニッターさんは日本語にかかわる仕事に就くことを目指しています。微笑の国からの留学生らしく笑顔の絶えないとてもキュートなカニッターさんですので、仙台大学で過ごした経験を活かし今後ますますの活躍が期待されることでしょう。

カニッターさん

仙台大学では7つの科目を履修し、空きコマには日本語を教えていただきました。おかげで会話に困らない程度まで、日本語を使えるようになりました。日本で生活するうえで、一番嬉しかった事は仙台大学の留学生支援体制の充実です。留学生寮や食事も学生食堂を安価で提供していただきたいへん助かりました。同時期にシーナカリンウィロート大学の同級生が東京・大阪・山口などの大学に留学していたのですが、仙台大学ほどのサポートはなく、皆から羨ましがられました。学業面でも、先生方が時間を割いて、私が理解できるまで優しく指導してくれたことに感謝しました。仙台大学にもっともっと長期で滞在したいので名残惜しいです。将来は通訳や日本語教師など、日本語を使う職業に就きたいと思っているので、仙台大学で学び経験したことを大きな糧として、今後も日本語の勉強を続けていきたいと思います。ありがとうございました。



※写真提供: 学生支援センター林臨時職員

《カニッターさん直筆のメッセージ》



私は、半年間仙台大学で世話をしました。私にとって、仙台大学は私の一つの家みたいなところ、みんなは私の家族のような感じがします。日本では毎日が充実し、先生方が友達、留学生と出会い、楽しく日本での生活を送る事ができました。

半年間と言う短い期間でしたが、学長先生のおかげでとてもいい経験ができました。タイに帰っても仙台大学での思い出は絶対忘れません。本当にありがとうございました。 カニッター ガンカム

ドイツスポーツ少年団が来訪



8月9日(月)にドイツスポーツユース9名が「日独スポーツ少年団同時交流事業」の一環として本学を訪れ、約2時間の滞在中に学生同士のディスカッションや、軽スポーツ、施設見学等を行いました。ディスカッションではドイツ側の学生と本学学生13名とが、「私たちにできる社会貢献(これまでとこれから)～スポーツ・文化活動を通して～」をテーマに討議し、日独の「スポーツ環境の違い」、「スポーツコーチになるためのシステムの違い」、「スポーツコーチと子ども達の関係」などについて大変有意義な意見交換がなされました。

今回の本学への訪問は、受入を担当した仙南スポーツ少年団連絡協議会から「少年団が同年代の学生であること」と、「スポーツという共通点があること」から申し出を頂いたものです。ドイツを含む諸外国との交流関係を推進している本学としても、学生にとっても素晴らしい交流となりました。

み としゅう じ ディスカッションに参加した水戸秀二さん (体育学科4年)



「日本ではスポーツ指導者と受ける側が師弟関係にあり、指導者が上の立場であることが多いように感じています。一方、ドイツではコーチと子供たちが対等関係にあり、友好的に指導されると聞きました。また、日本では小・中・高と、一つの競技にしぼって習うことが一般的であるのに対して、ドイツでは複数競技を同時期に習い、15歳ぐらいから一つの種目にしぼっていくということでした。複数の競技を同時期に経験することは、他競技との共通点・相違点を知るができ、スポーツの奥深さや楽しさ、自分に合った競技探しにつながるのではたいへん良い事であると思いました。ドイツのスポーツに関する考え方に共感できる点が多く、スポーツコーチを目指すうえで大変参考となりました。」

フィンランドのカヤニ応用科学大学へ短期留学・長期留学



ごう の しげる

郷野 茂さん(体育学科1年)がフィンランド短期留学プログラムで、8月24日～9月21日の日程で、カヤニ応用科学大学で学んでいます。写真は体育学科長のカトリさんのご自宅で撮られたもので、高橋まゆみ准教授よりご提供いただきました。同大学には、高橋悠さん(スポ情3年)が8月31日～2011年5月27日の期間、長期留学することにもなっています。異国の地で多くのことを学んで成長した2人に会う日が楽しみです。

たかはしゆう



第3回国際スポーツ情報カンファレンス、閉幕

＜スポーツ情報マスメディア研究所より＞

仙台大学主催・東北放送（株）共催の第3回国際スポーツ情報カンファレンスが8月27～29日の3日間、仙台大学とエル・パーク仙台を会場に行われました。「トップスポーツの今を解く」をメインテーマに、のべ180人を超える全国のスポーツ関係者や学生が参加。日本のトップスポーツを率いる著名な講師陣のもと、参加者たちは新たな視点でたがいのスポーツ観を語りあっていました。主管となったスポーツ情報マスメディア研究所（ISIM）の勝田隆所長は「トップスポーツにはdecide（決断）と

responsibility（責任）が求められる。厳しい環境を乗り越えてきた者は本物の厳しさを与えることができる」と語り、今を生きる私たちはどんなスポーツの価値を未来につなげられるか、一人一人に託されていると伝えました。

なお、ISIMでは、このカンファレンス開催にあわせ『ISIM Journal スポーツを「ジャーナルする力」』を発刊しております。興味のある方は、ぜひISIMまでお問い合わせください。（内線：657）



2日目の会場となったエル・パーク仙台（仙台市青葉区）



ラグビー元日本代表監督
平尾誠二氏



勝田ISIM所長と日本アンチ・ドーピング機構会長 河野一郎氏



オリンピック招致のレガシーを引き継ぐ学生シンポジウムも開催。次回会場の筑波大学 大林太朗さんと朴澤学長

「第4回スポーツを考える会」開催

＜スポーツ情報マスメディア研究所より＞



スポーツ情報マスメディア研究所は2010年7月29日（木）、仙台市青葉区川平にある研究所分室において「スポーツを考える会」を実施しました。今回で4回目を迎えるこの勉強会には、平日の昼間にもかかわらず20名が参加。県内のマスメディアや自治体、スポーツ関係者などが集まり、貴重な意見交換を行いました。

まず、本学のマーティ・キーナート副学長か

ら歓迎の挨拶が行われたあと、研究所の勝田隆所長より、先日、文部科学省から示された『スポーツ立国戦略（案）』や8月14日からシンガポールで始まる初のユースオリンピック競技大会（14歳以上18歳以下）について情報提供がなされました。続いて、スペシャルオリンピックス日本・宮城（知的障がい者の自立支援を行うボランティア組織）の佐藤田鶴子氏から、競技レベルに応じて誰もがスポーツを楽しめるユニークなシステムが紹介されました。参加者からは、「さまざまなスポーツの形をみた」「新たな刺激をもらった」という声が寄せられました。会場には、車いすバスケットボール日本代表でキャプテンを務める藤井新悟選手（宮城MAX）の姿もあり、障がい者スポーツを支える指導者の重要性を訴えていました。次回は、年末の開催を予定しています。

運動栄養学科の卒業生3名が管理栄養士国家試験に合格

前号でも紹介しましたが、第24回管理栄養士国家試験に本学卒業生3名が見事合格しました。前回号で紹介できなかった2名を紹介します。

私はこうして合格した!!

「平成22年度管理栄養士国家試験」に合格した卒業生、 高野絵里さん・奥友 薫さんにインタビュー



(株) エアーライト

たかの えり

高野絵里さん (25)



仙台市立生出小学校
学校栄養職員

おくとも かおる

奥友 薫さん (24)



管理栄養士を取得したい後輩へ、自分が勧める勉強方法を3つ挙げるなら？

- 1、大切な仲間を作る (社会人になっても大きな励みになります)
- 2、管理栄養士の問題集を解いてみる (講義でやる部分は限られているので、まだ習っていないでも勉強できます)
- 3、運動栄養サポート研究会 (栄養や食に関することで興味があることが見つかるのでは？それだけで意欲アップ！)

勉強方法に関して言えることは、復習が何より大切です。私の場合、どんな問題でもできなかったところは何度も復習しました。1冊の問題集を4回はやっただけでしょうか…。12月頃から2月にかけて模擬試験も4回ほど受験しました。復習することで自分の弱点も見えてきます。

勉強時間はどのタイミングでとりましたか？

平日、1日40分の時は午後6時から行い、2時間に増やしたときは午後8時から10時まで。休日は自分のタイミングで、あまり時間にとられずに行っていました。

今後の夢や目標があればお聞かせください

今後は、いつか大学院に行って食をとりまく環境や文化について、生活科学、家政学を勉強してみたいです。それまでもう少し、いろいろな現場で管理栄養士としての経験値を広げていきたいと思っています。

最後に一言！

本試験まで模擬試験を4回受けましたが、一度も合格点 (120点) に達したことはありませんでした。正直不安もありましたが、その時に初めて毎日積み重ねてきた1年半という年月が私の大きな自信となりました。勉強だけでなく、仕事もこなしてきたんだという自信です。勉強もしなければいけないという1年間の実務経験の中で、辛い時間もたくさんあると思いますが、決して諦めることなく、最後まで自分を信じて頑張ってください。

合格できた理由は何だと思えますか？

丹野先生が受験を勧めて下さったこと、早川先生が卒業生に対して配慮して下さいしたこと、同期に色々協力してもらったこと、両親や職場の先輩の理解があったことです。

勉強時間はどのタイミングでとりましたか？

平日の仕事後はアカデミーやスタバ、ジャスコで4時間を、休日はアカデミーや宮城県図書館で8時間を目標に勉強しました。

管理栄養士を取得したい後輩へ、自分が勧める勉強方法を3つ挙げるなら？

- 1、今から過去問を解く
- 2、実習や栄養サポートでの実践で培われる知識を確実に身につける
- 3、気力&体力をつける

「栄養士」から「管理栄養士」になって、一番変わった点は？

仕事に対する意識が変わりました。給与も若干、上がるようです。

今後の夢や目標があればお聞かせください

次は、知識を行動に移すこと。まだまだ勉強を続けて、多くの人の出会いの中で自分の力を発揮したいです。

最後に一言！

仙台大卒の管理栄養士が1人でも多く誕生し、活躍できることを祈っています。私も、仙台大卒の管理栄養士として活躍できるように頑張ります！

体操競技部が創部初の団体戦インカレ準優勝



8月21、22日に秋田県立体育館で開催された「第64回全日本学生体操競技選手権大会（インカレ）」において、本学男子体操競技部は団体で過去最高成績となる2位となりました。個人総合でも亀山耕平（体育学科4年）が、種目別あん馬で1位記録（15.450）を出すなどして3位入賞しました。

なお、今大会はU-21強化選手選考も兼ねており、2日間の合計点で上位12位（4年生を除く）に入った宗像 陸（体育学科3年）、富澤祐太（体育学科2年）、佐藤 亘（体育学科3年）、石原 大（体育学科3年）の4名が権利を獲得しました。

男子団体総合

第2位（433.950）

男子個人総合（入賞者）

第3位 亀山耕平（87.000）

第7位 宗像 陸（86.350）

第8位 富澤祐太（86.300）

種目別

<あん馬>

第1位 亀山耕平（15.450）

第8位 佐藤 亘（14.350）

<つり輪>

第3位 佐藤 亘（14.850）

第5位 宗像 陸（14.450）

第7位 早瀬幸樹（14.400）

<ゆか>

第7位 宗像 陸（14.950）

<跳馬>

第2位 山本収一（13.700）

<平行棒>

第6位 富澤祐太（14.300）

第8位 宗像 陸（14.150）

<鉄棒>

第4位 富澤祐太（14.700）

第6位 石原 大（14.450）

柴田ボート協会の声援を受けて漕艇部がインカレで男女ともに表彰台



8月19日～22日の4日間、埼玉県戸田漕艇場を会場に第37回全日本大学選手権大会（インカレ）が開催され、本学漕艇部は男子が「エイト」と「舵手なしフォア」の2種目で第2位に、女子が「ダブルスカル」と「舵手なしペア」で第3位となりました。

ボートの花形種目である男子エイトでは、3年連

続の準優勝で優勝こそ逃したものの、本学と優勝校である日本大学の2校がこれまでのコースレコードを上回る記録を出し、社会人チームのタイムを凌ぐ、たいへん高レベルのレースとなりました。

ライバル校として互いに切磋琢磨し、日本ボート界のレベルを引き上げている学生の活躍にこれからも応援ください。

また、今年も柴田ボート協会ご一行約40名が大会に足を運んでくださり、温かい声援で選手を後押ししていただきました。



※写真提供：菊地担当課長(事業戦略室)

夢を追って渡米した色川冬馬さんが帰国



メジャーリーガーになることを夢見て5月に渡米し、カリフォルニア州で行われるサマーリーグに参加していた色川冬馬さん（体育学科3年）が帰国し、一回り大きく成長した姿を見せてくれました。

結果としては、色川さんが目指していた「他球団からの誘い」はなかったのですが、本人は真剣に野球に打ち込み、野球以外のことでもたくさんのことを学ぶ事ができた3ヶ月を過ごしたようです。野球への情熱は今まで以上に大きくなったようで、今後も夢に向かって努力を重ねていくそうです。

明成高校インターハイで大躍進

明成高生が沖縄で行われた平成22年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）で大躍進しました。佐藤久夫准教授率いる男子バスケットボール部の準優勝をはじめ、女子バスケットボール部も全国大会で最高成績となる第3位になりました。最近、力をつけてきている陸上競技部でも男子5000mで8位入賞を果たすなど、今後の活躍に期待が持てる素晴らしい成績を残しました。

競技結果の詳細は右の通りです。



男子バスケ部		【第2位】
決勝	66 vs 67	八王子（東京）
準決勝	70 vs 67	京北（東京）
準々決勝	84 vs 53	市立船橋（千葉）
女子バスケ部		【第3位】
準決勝	65 vs 72	中村学園（福岡）
準々決勝	83 vs 74	精華女子（福岡）
3回戦	92 vs 79	富士学苑（山梨）
体操部		
男子団体総合	【第14位】	
男子個人総合	【第50位】	仰 郁人
女子個人総合	【第42位】	大友さつき
陸上競技部		
男子5000m	【第8位】	村山 謙太

仙台大学同窓会東海支部総会が開催される



※写真提供：松下邦雄さん(1回生)提供

8月21日(土)に仙台大学同窓会東海支部(愛知・岐阜・三重・静岡)総会が名古屋市で開催され、同窓生23名もの方々が集結しました。今回で節目の10回目の開催です。本学からも朴澤学長と渡辺入試担当課長が出席し、情報交換するなどして交流を深めました。

東海支部の支部長は、今年3月に本学園の評議員に就任された松下邦雄さんが務めています。

なお、仙台大学同窓会のホームページがリニューアルし、同窓生の住所変更等の受付や各支部の活動紹介などを行っています。是非、ご覧下さい。 <http://www.sendai-aa.jp/>

Monthly Report

Vol.52 / 2010 Sep.

東北リコー(株)との健康増進分野での提携後初の 「ノルディックウォーキング」開催



9月9日、東北リコー(株)において、健康増進分野で相互協力締結後初めての「ノルディックウォーキング」が企画開催されました。20～50歳代の男女社員50名もの多くの方々が参加し、ポールを使っの基礎の歩き方をはじめとし、敷地内のひろい

スペースを利用し緩歩、急歩などを織り交ぜ効果的なウォーキング方法が佐藤久准教授より紹介されました。

東北リコー(株)の工場内で日頃から使用されている「ガイドリーダー」とよばれるイヤホンに参加者全員が装着し、佐藤久准教授の指導を各々しっかり聞きながら約1時間歩いてさわやかな汗を流していました。

ウォーキングロードとよばれる照明つきウォーキング専用コースでは、日頃から昼休みに歩く方もいるそうで、社員の健康増進のため、会社としてもノルディックウォーキングのポールを20組購入して貸し出しをするなど社員の方々の健康管理にこまやかな配慮がなされていました。終業後の時間であるにもかかわらず、自主的に50名が積極的に参加されていることがとても印象的でした。

提携前にも過去3回ほどノルディックウォーキング講座を開催していることもあり、「ノルディックウォーキング」のポールを購入された社員の方もいるようで、浸透してきている様子が伺えました。今後も東北リコー(株)の健康増進分野としての運動指導を本学が継続して支援していきます。

目次

東北リコー提携後初のノルディックウォーキング開催	1
ソマティクス講演・実技	2
海外研修 ハワイ・ロングビーチ報告	3
桜美林大学米国研修報告	5
第5体育館安全祈願祭	7
スポーツ情報マスメディア研究所のこどもスポーツ大学	8
国際スポーツ情報カンファレンス	7
学生の活躍	10

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email: kouhou@scn.ac.jp

台東大学の劉美珠教授によるソマティクス講演・実技



劉美珠教授プロフィール

- ・現職 台東大学 身心整合とレジャースポーツ産業学科教授
- ・学歴 米国オハイオ州立大学心身学博士
- ・学術領域 心身学研究、ダンス教育、身心動作教育と治療、経験解剖学

9月26－30日に国立台東大学から劉美珠教授をお招きし、ソマティクス(心身学)の講演と実技指導をしていただきました。ソマティクスとは、関節や筋肉の柔軟性を高めることによってバランスの取れた姿勢を保ち、健康を維持することができるセルフヒーリング法です。27日(月)には学生向け講演会が、28日(火)には実技指導と教員向け講演会が行われ、合わせて約230名が参加しました。

実技指導には約65名の参加があり、目を瞑って自分の身体の状態を自分で感じる感知能力を養う指導や呼吸法などが紹介され、初めて体験する不思議な感覚に、学生達も興味深げに取り組んでいました。



楽に起き上がる方法・・・重力と身体の構造を理解



呼吸法・・・呼吸は最も良いマッサージ方法である



目を瞑り、自分の持っている感覚能力を高める



筋膜調整・・・施術後は不思議と脚が軽くなる

海を越えて輝く学生達・先生方 Summer 2010

～海外研修終了 カリフォルニア州立大学ロングビーチ校・ハワイ州立大学～

(1)カリフォルニア州立大学ロングビーチ校での「仙台大学2010夏季短期集中プログラム」



8月15日～23日までカリフォルニア州立大学ロングビーチ校 (CSULB) において「仙台大学2010夏季短期集中プログラム」が

実施されました。今回の特色は、昨年が運動栄養のみの研修だったのに対し、今年はアメリカにおける運動栄養とマネジメントの実状と課題を学ぶ「混合プログラム」となった点です。

参加したのは鎌田国際交流センター長、藤井久雄教授、柳講師、千葉学生支援室長、菊地新助手、服部新助手、広報室佐藤の7名及び、学

生は金剛地舞妃さん＝運策4年、東勝哉さん・阿部竜治さん＝マネジメント3年、齋藤良馬さん・樋口遥さん・安部翔子さん・鈴木保之香さん＝マネジメント2年の7名です。

5日間に渡るプログラムでは、アメリカの大学における各競技選手達に必要な栄養素やその摂取の指導方法を学ぶのみならず、実際に選手が競技をしている現場に出向いての視察など、普段、自分達が授業で勉強していることが今すぐ役立つような充

実した時間を過ごしました。

また、マネジメントでは、全米大学フットボール選手権大会の決勝会場であるローズボウル・スタジアムのリノベーションの事例や、サーフィンのUSオープン ハイチントン・ビーチ (カリフォルニア) の事例、全米第2の

都市ロサンゼルスにプロ・フットボールチームを招致するためのスタジアム案についての事例をもとに、カリフォルニアならではのスポーツイベント及びスポーツ施設に関する講義など、多彩なプログラムを展開していただきました。学生達の興味・関心も非常に高く、柳講師のリードの下、講師の方に積極的に質問をしていました。運動栄養から唯一参加した金剛地舞妃さんは「仙台大学でマネジメントの授業を受ける機会がないので、今回海外でこの分野について学ぶことができ大変新鮮でした。どの仕事についたとしても“マネジメント”することは必要であり、今後の就職活動にも研修で学んだことを必ず活かしていきます」と述べていました。

最終日には、学生達が感謝の気持ちを込め、同大学の関係者の前で仙台の「七夕祭り」について英語でプレゼンテーションをするなど、体当たりで学んだ英語の成果も披露しました。修了式でその様子を終始笑顔で見守っていたジェット・ジョシ学科長は「すばらしい発表でした。仙台大学がみなさんにとって第1の母校であるように、このCSULB校が第2の母校になることを願い、次回はもっと長期間滞在し学んで下さい」とおっしゃっていました。



(2)ハワイ州立大学での「AT (アスレティックトレーニング) アドバンスドコース」及び「若手教員のための英語研修」

8月31日～9月6日までハワイ州立大学(UH)において、AT (アスレティックトレーニング) アドバンスドコース及び、「若手教員のための英語研修」の2つが実施されました。参加したのは朴澤学長、渡会助教、白幡新助手、荒木スポーツ情報マスメディア研究所事務課長、岩田講師、菊地講師、石丸講師、早川講師、馬助教、広報室佐藤の10名と全員が体育学科3年の やまぐち なおあき 山口有映さん、ちば のぶたか 千葉宣貴さん、かの よしあき 狩野芳明さん、おおたか みな 大高未来さん、まつしま はるか 松島遥春さん、たなか りな 田中理菜さん、すずき なほみ 鈴木菜穂美さんの7名です。

現地では、着いた初日に全学生と一部の教職員が「献体解剖」を見学しました。対応していただいた遠隔授業の講師である金岡氏をはじめUH関係者の多大なご尽力により、学生達は実際に献体に触る許可も得る事ができ、日本では到底体験できない貴重な学習をしました。



また、ワークショップでは、米国アスレティックトレーニング界で流行しているRolfingという手技を使った筋膜開放について講義を受けました。Rolfingという手法は独自の資格制度があり、ATCのみならず理学療法士など幅広い分野で取り入れられているため、この資格があれば開業することも可能で、NATA (アメリカにおけるアスレティックトレーナー公認資格の認定団体) とは関連せず独自の組織が存在するそうです。筋膜の役割とその重要性に関し、学生達は最新の情報を得ることができ、大変満足していました。

一方「若手教員のための英語研修」に参加した5名の先生方は、それぞれのプロフィールに応じて用意された講義内容に沿い、英語会話のウォーミングアップから実践編にいたるまで中味の濃い、まさしく「英語漬け」の5日間を過ごされました。特に印象に残ったシーンとして、UH学生とゲーム感覚の英会話で交流したことや、フィットネスクラブを見学し、それぞれが考えた3つの質問を発表、それが相手に伝わるかどうかを確認する外部でのアクティビティなどが挙げられるそうです。

英語研修のリーダーをなさった岩田講師は「自分の意志を正確に相手に伝えることに最も苦労しましたが、事前の勉強会などで十分に準備をするのが英語上達に必須であり、今後是非継続して学び、今回のメンバーと互いに英語力を向上させていきたいです」と語っています。

鎌田国際交流センター長によりますと、10月6日(水)16:00～F101において、これら複数の海外研修に関する学生達の合同報告会が開催されるため、参加した全学生は、現在一生懸命その準備に取り組んでいるそうです。自信とやる気に満ち、輝く彼らへの励ましと、より良い研修のためのアドバイスを賜りますよう、一人でも多くの方のご出席をよろしくお願いいたします。

また、同様に岩田講師をはじめとする「若手教員のための英語研修」に参加されたメンバーが10月14日(木)学術会サロンの場で報告なさるそうで、こちらもあわせて先生方にご聴講いただければ幸いです。



桜美林大学大学院のアメリカ研修に教職員2名が参加

本学では、桜美林大学大学院大学アドミニストレーション専攻修士課程（通信課程）に事務職員を派遣して、事務職員のキャリアアップと資質向上を図っています。今年も、庶務課の薮職員がスクーリングに通うなどして単位習得を行って

います。所属する船戸高樹教授のゼミでは、毎年夏にアメリカ研修を行っています。本年度は8月29日から9月5日の旅程で行われ、本学からは笹生講師と薮職員が参加し、全国から集まった船戸ゼミの学生17名でアメリカの高等教育機関の現状を学んできました。

今年度の研修は、バーナード大学、カレッジボード、セントクララ大学、AACRAO（全米大学職員協会）、AGB（大学理事者協会）、ジョージワシントン大学といった様々な機関に所属する方々のお話を伺うという、非常に盛りだくさんのツアーとなりました。内容も、講義の改善や入試、大学が経営危機に陥った場合の対処、理事会の役割、大学評価など、大変バラエティに富んだものでした。

研修全体を通じて感じたことは、アメリカの大学関係者はいずれも「プロフェッショナル」であるという点です。教員は教育のプロであり、理事会は大学経営のプロ、職員は大学運営のプロであるという自負心が強く、お互いがお互いを尊重しつつも、しかし厳しく監視しあうという体制が敷かれていました。そのため、いずれのポジションも任期つきであり、任期内に成果を出さなければ容赦なくクビを切られます。しかし逆に優秀な人材は、次々とより好条件の職場へステップアップしていきます。例えばお話を伺ったAACRAOのJerry Sullivan氏は、30年間で6つの職場を渡り歩いたそうです。大学運営上の権限の線引きが曖昧な大学では、責任の所在があいまいになったり、教職員の職務への妥協につながるという考え方が強いのでしょうか。

また、アメリカの大学は「なぜその地域に存在するのか」という存在意義を強く問われていると感じました。言い換えるならば、地域住民や学生たちが大学に何を期待しているのかを敏感に察知し、それに答えるような教育を行わない限り、すぐに倒産してしまうということです。これはまさに日本の大学の置かれている状況と同じです。人口構造の変化や大学の果たすべき社会的役割を敏感に察知し、「うちの大学は学生に対してこういうものを提供できます」と広く社会に呼びかけていくことが必要だと思えます。

薮職員、笹生講師ともにまだ若く、今後数十年間大学経営に携わり続けると思いますので、若いうちにこのような機会を持てたことは非常に大きな財産となるでしょう。なお、同行した他大学の職員さんたちから「仙台大学さんは、事務職員と教員の仲が良いようであらやましい」と何度も言われたことも、最後に報告しておきます。

（研修参加者／笹生、薮）



カレッジボードにて研修



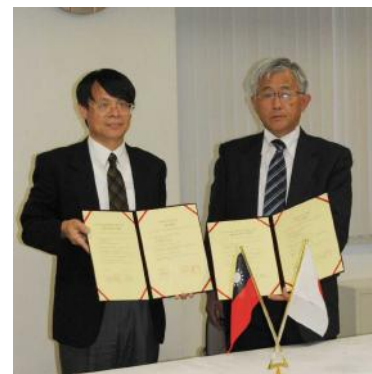
バーナード大学にて。これが全員ではありませんが、他大学にたくさんの仲間ができたことが、最大の収穫でした。



（CAP）ジョージタウン大学の校舎。アメリカの大学はいずれも、建物がとてもきれいでした。

台東大学の梁副学長が来訪

9月17日(金)に台東大学の梁忠銘副学長と施孟隆氏が来学し、国際交流打ち合わせ・国際交流会館（仮称）見学・懇親会などを行いました。国際交流打ち合わせでは、平成15年に両大学で締結した「両大学間における国際交流に関する合意書」の延長するため、調印が交わされました。



留学生2名が日本語能力試験2級に合格



(財)日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験」が7月4日に行われ、留学生の張 坤さん（写真：中）と趙 倩 穎さん（写真：右）の両名が、2級検定に合格しました。この日本語能力試験は、日本語能力を測定・認定することを目的としており、2級検定では、日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる能力が求められます。今回の2人の合格に他の留学生が刺激を受けたようで、既に12名の留学生が12月5日に行われる今年度第2回目の日本語能力試験の受験に申し込んでいるそうです。

留学生が続々と来日



中国と台湾から来日した留学生と、朴澤学長はじめ関係教職員との顔合わせが、9月17日(金)に行われました。

中国から来日したのは23年度大学院入学予定の留学生7名（吉林体育学院2名、上海体育学院2名、瀋陽師範大学2名、東北師範大学1名）です。大学院入学予定留学生には今年から本学の

新たな取組みとして、東北多文化アカデミー(仙台市青葉区大手町)の協力を得て、10～12月の3ヶ月間日本語の教育を受けてもらうこととなりました。これは、大学院の講義についていくためにも日本語の能力を上げることで、講義の内容をより理解しやすくなることが期待されています。この期間、留学生は本学を離れ、同校の寮に入って日本語を学びます。

台湾（台東大学）から来日したのは科目等履修生の7名で、今年度後期から本学の学部生とともに講義を受講します。このうち2名はダブルディグリー（両大学の学位取得）を目的に2年間の滞在、他の5名は交換留学生として1年間滞留します。

14名の留学生は日本語をある程度勉強してきているため、ほぼ全員が自己紹介は日本語で行い、自分の専攻領域や仙台大学で学びたいことなどを話していました。

第5体育館新築工事 安全祈願祭



平成23年度3月31日竣工予定の「第5体育館」の建設工事が始まりました。9月8日(水)には安全祈願祭が執り行われ、柴田町役場や区長などの来賓の皆さまをはじめ、設計・施工業者である鹿島建設(株)と本学の関係者が参列し、工事の安全



完成予定図(鹿島建設)

を祈願しました。この「第5体育館」の建築面積は3,592.41㎡で、観客席(240席)を有するアリーナと研究施設(3階建て)を兼ね備えた施設となります。

就職活動キックオフセミナー



9月22日(水)に第1回就職ガイダンス「就職活動キックオフセミナー」が開催され、学生約400名が参加しました。セミナーは2回に分けて行われ、午前中には3年生の就活塾生を対象とした

SPI試験をF303教室で、午後からはB300教室において3学年の一般学生を対象にした「就職のいろは」についての説明会が開催されました。午後のガイダンスでは、創職作業チームの齋藤博教授より就職活動における心構えについての話しや、佐々木事務局長兼入試創職室室長より今年度の就職状況並びに来年度の就職戦線が引き続き厳しい状況となるであろうという予測のもと、早めに就職活動をすることが何よりも重要であるという説明がなされました。その後、(株)ディスコ東北支社の富田京子氏より就職活動の基本や今後の流れなど、就職活動のポイントについて講演いただきました。学生達はこれからスタートする就職活動への意識が高まったようです。

平成22年度9月期卒業式を挙行

9月29日(水)にA棟大会議室において平成22年度9月期卒業証書・学位記授与式を挙行了しました。今回、卒業したのは体育学科の武者庄一さん1名で、関係教職員が参列する中、朴澤学長より卒業証書・学位記が授与されました。



スポーツの楽しさを学ぶ「こどもスポーツ大学」開催



スポーツ情報マスメディア研究所(ISIM)は9月10日(金)から2泊3日の日程で、「こどもスポーツ大学 in SHIMOKAWA」(北海道下川町)を開催しました。これは、北海道北部の5市町村

＜スポーツ情報マスメディア研究所より＞

(下川、美深、中川、名寄、音威子府)でつくる上川北部広域スポーツクラブからの受託研究として行ったもので、体力テストなどで選ばれた将来性あるSnow Kidsを中心に、小学4年生から6年生まで16名が参加しました。今年は「ユニホック」というニュースポーツのゲームをしながらスポーツの楽しさを学んでもらおうと、そのためのルールや仲間の大切さ、力を合わせてプレーすることの必要性を伝えました。参加したこども達からは「とても楽しかった」「中学生になってもまた来たい」といった声が聞かれました。ISIMの勝田隆所長は「たとえ、こども達が今回学んだことを今、理解できなくても、そのところに学びの種を残せたら」と、その思いを語っていました。

新潟県でも初の「こどもスポーツ大学」開催



9月18日(土)から2泊3日の日程で「こどもスポーツ大学 in NAGAOKA」(新潟県長岡市)が開かれました。これは、「トップアスリートを目指すために学んでおくべきこと」をメインテーマに子どもたちに何か出来ないかと考えた長岡市体育協会が、本学スポーツ情報マスメディア研

＜スポーツ情報マスメディア研究所より＞

究所(ISIM)に委託した研究の一環です。長岡市での開催は今回が初めてとなりました。プログラムにはスポーツ団体に所属する小学生32名が参加し、タグラグビーを通じて、「スポーツを楽しむ力」を学びました。開始にあたり勝田ISIM所長より「外へ出なければ、本当の冒険や経験・発見には出逢えない」ことが伝えられ、子どもたちは少しずつ自分の苦手なことに挑戦し、スポーツができることに感謝する心を育みました。



陸上競技部の佐藤寛大さんがやり投げでインカレ2連覇



9月10日（金）に行われた陸上競技の日本学生対校選手権（インカレ）男子やり投げで佐藤寛大さんが自己新記録の76m57で見事、2連覇を果たしました。9月13日（月）には陸上競技部の藤井部長とともに朴澤学長に優勝報告を行い、「2連覇は今年の目標の一つでしたので、自己記録を更新して優勝できたことにはたいへん満足しています。しかし、もう一つの目標である78mの投擲を達成するために、もう一度気を引き締め、来月（10/4）の国体では更に記録を伸ばせるよう頑張ります。」と話し、次のステップに向けて意欲をみせていました。

柔道部の深谷実紀さんが全日本ジュニア選手権44kg級優勝

～10月開催の世界ジュニア選手権代表に～



9月18日（土）に埼玉県立武道館で柔道の全日本ジュニア選手権大会が開催され、女子44kg級に
ふかや みき
深谷実紀さん（体育学科1年）が出場しました。深谷さんは第1シードの重圧を感じながらも、3試合を危なげない内容（一本勝ち）で勝ち進み、

決勝戦で一本勝ちこそ奪えなかったものの、優勢勝ちで優勝しました。その後の強化委員会において正式に10月末に行われる世界ジュニア選手権大会（モロッコ）の代表選手に選考されました。

9月22日（水）には南條和恵監督とともに学長室を訪れ、朴澤学長に優勝報告を行い、世界ジュニア選手権での必勝を誓いました。

深谷実紀さん（体育学科1年）

5月のフランスジュニア国際大会では優勝したものの、外国人選手の長い手足に対処できず、先にポイントを取られる苦しい内容でした。残り1ヶ月でしっかりと外国人対策を行い、世界ジュニア選手権では自分の持ち味である攻め続ける柔道で金メダルを目指します。

漕艇部が全日本選手権大会2種目で3位に

9月9－12日に社会人・大学チームでボート日本一を決める第88回全日本選手権大会が戸田漕艇場（埼玉県）で開催されました。本学漕艇部は社会人チームとも対等以上のレース運びで大健闘し、「男子舵手なしフォア」と「女子舵手なしペア」の2種目で第3位に入りました。



全日本プッシュスケルトン選手権大会に「伊達なSPORT PROJECT」選手たちが初出場

～2012ユースオリンピックにむけた第一歩～



写真提供：伊達なSPORT PROJECT

今年4月にスタートしました「伊達なSPORT PROJECT」の選手たちが、9月25日(土)に長野県スパイラルで行われた2010全日本プッシュスケ

ルトン選手権大会で、公式大会デビューを飾りました。

この大会は、氷上ではなくレール上でタイムを競うもので、本学学生や日本のトップ選手も参加する中で、ユースオリンピック出場にむけた大事な一歩を踏みました。大会の詳細はこちらで紹介されていますのでご覧ください。なお、男子の部ではOBの高橋弘篤選手(平成19年度卒／(株)システックス所属)女子の部では小室希さん(院2年)が優勝、小林真衣さん(体育学科1年)が3位入賞しました。

【成績】

男子の部

佐藤 弾 さん(柴田高1年)・・・第22位

野倉 大貴さん(柴田高1年)・・・ケガで欠場

女子の部

安藤 早紀さん(柴田高1年)・・・第9位

トライアスロン部 インカレ結果



写真／先頭が上村昌志さん

9月12日(日)に香川県観音寺市で行われた日本学生トライアスロン選手権大会(インカレ)に出場したトライアスロン部は、チームの上位3名の合計タイムで競う男子団体戦で7位(6時間13

分38秒)、個人でも上村昌志さん(体育学科4年)が7位に入りました。今大会の上位3チームには来年5月に開催される学生選抜選手権大会の出場資格、個人上位3名には10月開催の日本選手権の参加資格が与えられるため、この枠に入ることが一つの目標となります。今大会では惜し

くも出場権獲得には至りませんでしたが、今後も出場資格が与えられる大会が残っているため、トライアスロン部の挑戦はこれからも続いています。

上村昌志さん(体育学科4年)

今年のトライアスロン部のスローガンは「一(いち)」で、インカレでも団体戦一位を目指し、部員全員が努力を重ねてきましたし、それを狙えるメンバーでした。結果的には望んだ成績には届きませんでしたが、個々のベストを尽くした結果なので、満足しています。

後輩達は相当な力をつけてきており、来年のチームも楽しみです。特に、来年2月に開催される「学生デュアスロン大会」ではランとバイクを得意としている有力なメンバーが揃っているので是非優勝し、学生選抜大会の出場権を獲得して欲しいです。そして、自分達が達成できなかった“学生日本一”を是非実現してもらいたいです。

自分が出場する大会も残り少なくなってきましたが、10月3日(日)に群馬県で開催される学生スプリント選手権大会も、チーム一丸となって頑張ってきます。

本学OB田中美衣選手、朴澤学長を表敬



柔道世界選手権東京大会に出場し、女子63kg級で堂々の銀メダルを獲得した、田中美衣選手(ぎふ柔道クラブ24/H22年3月卒)が、本学を訪れて朴澤学長に大会の報告を行いました。大会会場まで応援に駆けつけた朴澤学長からは、決勝で前回チャンピオンの上野順恵選手(三井住友海上火災)に判定で惜しくも敗れたもの

の、1回戦から準決勝までを、すべて一本勝ちした田中選手を讃え、次のステップに向けた金メダルへの期待の言葉が述べられました。田中選手も「応援ありがとうございました。仙台大学からの声援は試合中も聞こえ、励みになりました。今後、勝てる試合は必ず勝っていきます」と誓っていました。今大会で獲得したポイントも含めると、田中選手の世界ランキング(9月15日現在)は6位、2年後のロンドンオリンピックも見えてきました。

翌日には柴田町の滝口町長を表敬訪問し、町長から「田中選手の活躍は、仙台大学と所在する柴田町民の良い励みとなります。今後の活躍も楽しみにしています。」との激励をいただきました。



＜田中美衣選手ヘインタビュー＞

問 柔道世界選手権銀メダルおめでとうございます。そしてお疲れ様でした。今回、世界選手権へ出場しての感想をお聞かせください。

美衣 恩師である南條和恵監督が出場された1997年パリの世界選手権大会での結果(3回戦敗退)の結果を越えたいというのが今大会の目標でした。和恵監督からは「記録は抜くためにあるもの」と言われていました。決勝で勝てなかったのが悔しいです。大学からも学長をはじめ沢山の応援団が会場に駆けつけてくださり、試合場でも声が届いて心強く後押しとなりました。後輩たち、そして先輩たちも多く会場に来て応援くださったのがありがたかったです。

問 南條総監督、和恵監督から試合前にいただいたメッセージなどがあれば。

美衣 南條監督の声は、試合中もよく聞こえました。どんな喧騒でも聞き分けられるので。決勝前に、「舞台は整った。ここで勝つことは意味が違うぞ。」と南條監督、和恵監督に激励を受け、決勝戦に臨みました。

問 仙台大学を卒業して、今年社会人1年目ですが現在の環境には慣れましたか？

美衣 代表海外遠征が多く、まだ落ち着いていないものの、現在住んでいるつくば市には関東に強いチームや、実業団など練習相手が多く、出稽古に出掛けられるので非常にありがたい環境です。ナショナルチーム強化指定ということもあり、JISSでも毎週トレーニングをしています。

問 柔道部の後輩へ、あらためてメッセージを。

美衣 卒業してもコンスタントに仙台大学の柔道場に帰ってきているのは、南條総監督、和恵監督の教えを請いたいからです。後輩たちの頑張りをみて私も良い刺激を受けているということがあります。6月の全日本学生選手権大会もよく頑張ったと思います。練習場所は違いますが一緒に切磋琢磨できればと思っています。そしていつか後輩のだれかと、講道館杯で対戦したいです。

問 今回の結果で、女子63kg級で国内2位のポジションを得ましたが、1位になるためにこれからの目標は？

美衣 国際大会で安定した結果を確実に出していくこと、一戦一戦を大事に、勝てる試合は確実にものにしていきたいと思います。

OBの植松鉦治選手(コナミ)が体操の全日本社会人選手権で男子個人総合初優勝



社会人日本一を決める体操競技の全日本社会人選手権が9月10日(金)に行われ、OBの植松鉦治選手(コナミ/平成20年度卒)が得意の鉄棒で16,300点の高得点をマークするなどして男子個人総合で初優勝を果たしました。植松選手は10月に行われる世界選手権代表にも選ばれており、日本を代表する選手として今後益々の活躍が期待されています。

同窓会情報

＜丸山大学院研究科長より情報提供＞



9月8日、教育実習の巡回指導で北海道の標津高校へ行ってきました。その晩、仙台大学同窓会の根室・釧路支部の支部長・外山浩司氏(標津町立薫別中学校校長, 第7期, 水泳部, 写真中)、事務局長の林良彦氏(標津町総合体育

館館長, 第8期, 卓球部, 同右)、および標津高校校長の宮崎真彰氏(第11期, ラグビー部, 同左)が歓迎会を開いてくれました。

昔話に花が咲くと同時に、同地区には同窓生がかなりいる事(町内在住の教員だけでも8名)、同窓会を毎年5月に開催するなど、支部活動が活発な事、さらに来年10月に、第5回全国スポーツクラブ会議(スポーツクラブ・サミット)が標津町で行われ、現在、林氏を中心に準備を進めていることなどが話題となりました。クラブサミットの件では、講演やシンポジストで大学の協力を依頼されました。具体化しましたら連絡が来る事になっております。その節にはご協力をお願いします。

肝心の教育実習生(健康福祉学科, 田中麻美)も高い評価を得て、実習を行っていました。

Monthly Report

Vol.53 / 2010 Oct.

第2グラウンド サッカー・ラグビー場の天然芝が 順調に生育



これまでクレイ(粘性砂質土)だった第2グラウンドのサッカー・ラグビー場を天然芝生化するために、塩釜方式を採用して天然芝を育てておりましたが、芝は順調に生育し、グラウンド一面を覆いつくすまでに成長しました。この期間一切の立入を禁止しておりましたが、11月上旬に竣工式を経て、ラグビー部の練習を手始めに使用を認めることとなりました。練習による芝の損傷をみながら維持管理を続け、正式に使用が可能と確認されれば、一般の立入規制が解除されます。

グラウンドの芝生化は、世の中のニーズとともに全国の小中学校などで広がりを見せており、これはスポーツの現場でも同様です。天然芝になることで、選手のケガ予防やパフォーマンスの向上、体育施設管理士養成のための芝生に対する知識向上などが期待されます。

目次

天然芝が順調に生育	1
日本生涯スポーツ学会	2
9月期修了式 科学研究費補助金研修会	3
海外研修合同報告会	4
English Club	5
介護浴槽2台設置 第5体育館紹介	6
仙台大学公開講座 ゼロ災トライアル達成	9
OB・学生の活躍	10

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email: kouhou@scn.ac.jp

本学を会場に日本生涯スポーツ学会第12回大会が開催される



日本生涯スポーツ学会第12回大会が、仙台大学を会場に10月23日（土）・24日（日）の2日間開催された。東北地方で開催されるのは初めてで、学内における会員である仲野先生（理事）が大会組織委員長、柳先生が大会事務局を務めた。本学会大会は、日本生涯スポーツ学会が主催、仙台大学が共催という形で開催され、体育学科スポーツマネジメント・コース並びに健康福祉学科の教員を中心に学生スタッフとともに運営に当たった。

大会テーマは、「障がい者のスポーツ実践と社会的意義～アクティブ宮城の生涯スポーツ」であり、ベガルタ仙台事業部の貝田真氏による「サッカーJ1 ベガルタ仙台的地域貢献活動～バリアフリーサッカー活動の実際～」の基調講演では、ベガルタ仙台が取り組んでいる活動が具体

的に紹介された。また、シンポジウムでは「障がい者のスポーツ実践と社会的意義」のテーマで、「研究、障害者スポーツ、スペシャルオリンピック」のそれぞれの立場からのお話があった。この基調講演とシンポジウムは無料の一般公開であり、柴田町民をはじめとする学会員以外の方も多数参加した。

ワークショップでは、健康福祉学科、CO-ACT、UNITYの協力を得て、「健康づくり運動サポーターの養成」「足こぎ車椅子を用いた障害者スポーツの実際」が紹介された。

本大会における研究発表演題数は38題（口頭発表・26とポスター発表・12）であり、61名の一般参加者と10名の学生が参加した。なお、来年度の第13回大会は、大阪産業大学が担当校として開催会場・期間・テーマなどを企画し運営することになっている。

（情報提供：スポーツマネジメント・コース主任 馬場宏輝）



平成22年度9月大学院修了式



10月5日（火）にA棟大会議室において大学院の修了証書・学位授与式を挙行之、小室希さんに朴澤学長から修了証書が手渡されました。小室さんはバンクーバーオリンピック日本代表となるため2年生後期を休学してスケルトン競技に

専念、ワールドカップで上位入賞するなどして見事、五輪代表に初選出されました。これらの功績を称えて、学長賞と記念品も贈呈されました。小室さんは10月1日付けで本学の研究生となり、既にワールドカップ出場のため海外遠征に出発しています。今シーズンも小室さんの活躍から目が離せません。

小室 希さん

今シーズンはカナダのウィスラーで開催されるワールドカップ第1戦からの参戦となります。今シーズンは競技で“全大会ベスト10入り”を目標にしていますが、競技以外での情報収集も重要になってくると考えています。自分に活かせることはどんどん取り入れて行き、応援して下さい皆さんの期待に応えたいです。

平成22年度 科学研究費補助金研修会 開催



10月8日（金）、A棟大会議室において日本学術振興会研究助成第一課課長代理 江藤直行氏を講師に招き来年度の科学研究費補助金獲得に向けた研修会が開催されました。

今回のような企画は、本学にとって初めての試みで「科学研究費補助金制度の最近の動向」と題して、主に補助金の応募に係る制度の変更点や審査方法、研究計画調書作成上の留意事項等非常に参考になるお話を頂きました。来年度の応募を前に、参加された先生方からは前向きに取り組もうとする意欲が感じられた研修会でした。

明成高校 大河原地区教育懇談会



9月30日（木）、A棟大会議室において明成高校の「平成22年度大河原地区教育懇談会」が行われ、宮城県南地区に所在する中学校21校の校長先生に出席頂き、明成高校の教育方針や特色ある取り組みについての紹介がなされました。明成高校教員と共に、本学からもキーナート副学長はじめ校長職を経験している諸先生方が出席しました。所用で出席できなかった朴澤学長の代役としてキーナート副学長が挨拶を行い、本学の取組みの紹介と、「明成高校の卒業後は是非、本学に進学してもらいたい」と挨拶を述べられました。

海を越えて輝く学生達 Autumn2010 (海外研修・短期留学合同報告会)



10月16日(水) 16:00～F101教室において、国際交流センター主催の学生達による海外研修・短期留学合同報告会が開催され、朴澤学長、キーナート副学長、鎌田国際交流センター長他、総勢48名が参加しました。最初に朴澤学長より「数年前までは単発で実施していた海外研修の報告会を、こうして合同で実施できるようになったことは、本学が世の中の動きにあわせて国際化を進めている証でもあり、参加した学生達は引き続き英語も含め勉学に努めてほしい」とのご挨拶がありました。

①ベラルーシ研修会

最初に発表したのは6月13日～20日までベラルーシ体育スポーツ学院などで学んできた新体操部の5名で、現地の新体操部の学生とは骨格や柔軟性に違いがあり、彼女達が複雑でよりダイナミックな動きができることに感心したそうです。また、新体操はベラルーシで最も人気のある競技であり、選手達は花嫁候補になるとの楽しいエピソードも紹介されました。滞在中、学生達が現地のテレビ局から取材され放映されたビデオが流れると、参加者より「ほうっ」という驚きの声があがり、映像に食い入るように見入っていました。

②カリフォルニア州立大学ロングビーチ校研修

2番目に発表したのは、8月15日～22日までカリフォルニア州立大学ロングビーチ校で短期研修を行った7名です。運動栄養とスポーツマネジメントの混合プログラムに取り組んだ学生達は、一般的にアメリカ人は日本人よりもプロフェッショナル意識が高いことや、試合においても競技そのもののみならず、エンターテインメント性を織り込み、いかに観客が楽しめるか、リピーターになって何度も競技場に足を運んでくれるか、も含めて重要な要素であるなど、プ

ロススポーツをビジネスの視点で捉えつつ、数多くのことを学んだそうです。また、通訳を介するとどうしても情報が限られてしまうので、もっと英語を学び、次回ではできるだけ自分で理解することができるようにしたいとの率直な声もありました。

③ハワイ研修州立大学ATアドバンスコース研修

3番目に発表したのは8月31日～9月6日までハワイ州立大学でアスレティックトレーナーのアドバンスドコースに参加した7名です。初日に今回の目玉の一つである「献体解剖」を見学した学生達は、対応していただいたUH関係者の多大なご尽力により、実際に献体に触る許可も得られたそうで、日本では到底体験できない貴重な学習をしたそうです。また、ワークショップでは、米国アスレティックトレーニング界で流行しているRolfingという手技を使った筋膜開放についての講義を受け、筋膜の役割とその重要性に関し、最新の情報を得ることができたとのことでした。今回の海外研修に際しては、保護者会からのご理解とご支援があったことについて、心よりお礼申し上げますとの挨拶がありました。

④カヤーニ応用科学大学短期留学

最後に発表したのは、8月24日～9月21日までフィンランドにあるカヤーニ応用科学大学に短期留学をした1名です。(体育学科1年 郷野茂さん ※後述「English Club」でも紹介) 海外が初体験となる郷野さんの目標は、自ら英語を話す環境に置き、語学力をあげることで、海外の友達をつくること、日本とフィンランドの授業の違いを肌で感じるなどだったそうです。前半部分を果敢に英語で発表するなど、郷野さんは学んできたばかりの英語をさらにレベルアップさせるため、毎日コツコツ努力している様子が伺えました。郷野さんは、世界各国から集まってきたクラスメートと共にスポーツやレジャー、解剖学、生理学などを学びつつフィンランドの野球を経験するなど、講義と実技の両方に体当たりで臨んだそうです。日本の漫画が「MANGA」として大人気であり、合気道愛好者が多いことも新たな発見とのことでした。郷野さんは、来年の9月から再び留学することを希望しており、1年間かけてどの国で学ぶかをじっくり検討したいと話していました。

“English Club” has just started.



ご存知でしたか？毎週木曜日、11:50～13:30頃にかけて、学食奥の左手パーテーションで仕切られた場所より、なにやら「英語」で話す楽しげな声が聞こえてきます。

10月7日からマーティ・キーナート副学長による「English Club」が始まりました。これはキーナート副学長が毎回スポーツビジネスジャーナルやジャパントイムズなど、スポーツに関する英語記事を配布し、この内容について全員で話しあったり、自分の意見を英語で簡単に書いて次週に持ち寄るなど、ランチを取りながら気軽に英語を学ぶための試みです。学生、教職員、誰でも参加は自由で、毎回平均して12名程度の出席者が時間の許す限り「生の英語」を聞き、ブラッシュアップしています。これまで3回開催され全て出席している「皆勤賞」の郷野 茂さん（体育学科1年）は「8月末～約1ヵ月程度、一人でフィンランドにあるカヤー二応用科学大学に短期留学をしましたが、自分にとっては初海外だったので、せっかく学んだ英

語を日本に戻り忘れることがないよう、英語を話す環境を望んでいました。こういう機会を作っていただきとてもありがたいです。キーナート副学長は日本語でも説明して下さるので分かりやすいですし、慣れてきたらたとえばずっと英語漬けでもおもしろいと思います。あいにく英語で映画を鑑賞する会はアルバイトの関係で参加できないため「English Club」の方はこれからも顔を出し、学んでいきたいです。」と話しています。

郷野さんは、中学から高校にかけてALTに積極的に話しかけたり、NHKラジオで「英会話」を聞いたり、もともと英語には興味を持っていたものの、いわゆる幼少から英語を学ぶような特別なことは一切していないそうです。海外に長期留学をしなくても、本人の志と努力があれば少しずつ語学を身につけることができる頼もしいお手本として、今後の活躍が楽しみです。みなさんも是非、昼休みのひととき「English Club」に参加なさってみませんか？



English Movie Nights with Marty ～後期も始まりました～

<教職員用> 18:00～ 学生食堂

- 11月29日（月）「インビクタス・負けざる者たち」（2009ー ラグビー）
- 12月20日（月）「グローリー・ロード」（2006ー バスケットボール）
- 1月24日（月）「ルディ」（1993ー アメリカンフットボール）

<学生用> 16:30～ B203教室

- 11月30日（火）「インビクタス・負けざる者たち」（2009ー ラグビー）
- 12月21日（火）「グローリー・ロード」（2006ー バスケットボール）
- 1月25日（火）「ルディ」（1993ー アメリカンフットボール）

入浴実習室に新しく介護浴槽2台設置

入浴実習室の浴槽の老朽化、および、新カリキュラムに伴う生活支援への対応を踏まえ、新しい浴槽2台が設置されました。

1つは、専用の車椅子に乗ったまま入浴できるタイプ、もう1つは座っている状態から降りて入浴するタイプです。浴槽のサイドが一部下がるため楽々と浴槽内に入ることができます。浴槽内に入った後、タンクからお湯が一気に溜まる仕組みとなっています。ほとんどの介護施設では、このような設備を入れているため、これまで以上に実践に近い状態での実習が可能となりました。

10月18日（月）には業者による説明会が行われ、入浴実習などを担当する大山准教授、庄子講師、山野講師、後藤講師と管理課職員が立ち会いました。

介護浴槽ボランティア HK-775



浴槽内に置いた回転式の円盤（移乗シート）に座ると身体の方角を変えることが可能。要介

護者が浴槽内に入ると手前下の扉が上がり、お湯を溜められる状態となる。その後、タンク内のお湯を浴槽内に移動させて入浴する。

※製品の詳細は↓↓↓

<http://www.og-giken.co.jp/product/item/bath/hk-771775.htm>

介護浴槽 HK-825



専用の車椅子に座ったまま浴槽するタイプで、浴槽内で車椅子を固定した後、扉を閉め、奥のタンク内のお湯を浴槽内に移動させて入浴する。

※製品の詳細は↓↓↓

<http://og-giken.co.jp/product/item/bath/hk-825.htm>

建設中の第5体育館を紹介



- ・敷地面積 63,837.50m²
- ・建築面積 3,592.41m²
- ・延床面積 4,789.30m²
- ・建物の高さ 17.6m

2010.10.18撮影

大学講義棟の東側に新築するため9月に着工した第5体育館は、現在順調に工事が進められています。この体育館は、バスケットボールコート3面、バレーボールでは4面が同時利用きるアリーナと、3階建ての研究棟を持ちます。

アリーナには240人収容できる観客席を配置。競技データを収集するため、天井や壁面にカメラを接続することが可能となっており、集めた情報は研究棟内の研究室で分析できます。研究棟にはこの他、ロッカー、シャワールーム、小規模教室を設置予定で来年3月完成予定です。

「伊達なSPORT PROJECT」の教育プログラムを紹介



2012年1月13日～22日までオーストリア・インスブルックで開催される「第1回冬季ユースオリンピック大会」へ向けての選手発掘・育成・輩出を目的として今年4月にスタートした「伊達なSPORT PROJECT」のプログラムが着々と進んでいます。

日々トレーニングを重ね、高校生3名（佐藤弾さん・野倉大貴さん・安藤早紀さん、いずれも柴田高1年生）のスケルトン競技レベルも着々と向上していますが、今回はスケルトン以外の教育プログラムを紹介します。

「伊達なSPORT PROJECT」では各種教育プログラムを取り入れ、スケルトンの技術面を鍛えるだけでなく、知徳・徳育・体育および食育を含めた「生きる力」を構築することもねらいとし

ています。

この教育プログラムの一環「みやぎの地場産業・地産地消 食育プログラム」では、協賛企業から提供いただいている食品の製作工程見学のため10月2日には蔵王酪農チーズ工場を訪れ、チーズやバターづくり体験や、製品行程の見学を行いました。

また、翌3日には、田植えでもお世話になったエム・オー・エー商事東日本販売と自然農法丸森普及会の方々にご指導いただきながら稲刈りを体験しました。稲刈り後は、丸森普及会婦人部の方が昼食を用意してくださり無農薬の新米や野菜をご馳走になり、地域の方との交流を深めることができました。

3名からは、『協賛企業の方々が手間隙かけ作ったものを提供いただいているので実力をつけて結果を出さなければいけないと思いました。』『協賛企業の方々と交流し、自分たちが多くの方々に支えられていることを実感しました。』などの声がきかれ、多くの方々がこのプロジェクトに関わっていることを再認識したようです。

その他の教育プログラム「ランゲージプログラム」では、キーナート副学長の「Marty's Movie Night」も英語で本学の学生と共に鑑賞しています。



管理棟1Fに田中美衣選手のサイン入りタオルを展示



9月に行われた「柔道世界選手権2010東京大会」女子63級に初出場し、銀メダルを獲得した田中美衣選手（ぎふ柔道クラブ24／平成21年度卒）の快挙を称え、本人のサイン入りタオル（額入り）がA棟1Fに飾られました。

「見えたぞロンドン」の声援と共に2012年ロンドンオリンピックへの出場を賭け、南條充寿先生・和恵監督の熱い指導を胸に田中選手がいよいよ世界に羽ばたきます。

みやぎまるごとフェスティバルに運動栄養サポート研究会が参加



片岡のぞみさん（運動栄養学科3年）

私達のテーマは「LIFE WITH VEGETABLE ～親子で楽しむ野菜～」で、健康な生活を過ごすために欠かせない“野菜”に着目し、「リーフレットの配布」、「野菜入りのケーキの無料提供と作り方の実演」、「野菜に関するゲーム」などを行いました。普段実践している運動栄養サポート研究会で培った経験を活かしたと思います。準備は夏休み前からはじめ、学年に関係なく全員で協力することができました。想定していた150名を超す約300名の方々に来場いただけたのが嬉しかった反面、用意した野菜入りケーキが足りなくなり、全員に配ることができなかったのが心残りです。

今回、運動栄養サポート研究会のブースに来てくれた方々の野菜に対する関心が少しでも大きくなってきていたら嬉しいです。今後も地域の方と触れあうイベントなどに積極的に参加していこうと思います。

多彩な「味」や「技」が一堂に会し、宮城県をまるごと体感できるイベント「（第11回）みやぎまるごとフェスティバル」が10月16、17日に宮城県庁及び勾当台公園で開催され、本学からも運動栄養サポート研究会（<http://www.sendaidaigaku.jp/gakubu/eiyo/support.html>）の学生12名が参加しました。本学の参加は4回目、今年も宮城県保健福祉部健康推進課が担当する17日の食育コーナーで活動を行いました。学生達は年齢層も様々な地域の方との交流を楽しんだようです。

運動栄養学科 包丁支給・調理技術講習会

<提供: 菊地新助手>



9月28日、30日に運動栄養学科1年の調理学実習Ⅰの授業内で、個人の名前が彫られた包丁が支給されました。包丁支給は、運動栄養学科の伝統的行事であり、今年度で8回目となります。

包丁の支給には、ただ栄養の知識を持っているだけではなく、自らが包丁を握り、おいしい食事を作ることのできる栄養士を目指してほしいという意味が込められています。包丁を受け取った学生は、自分の名前を確認し、次回から始まる授業を楽しみにしているようでした。

また、授業内で『亀縞の郷 今昔庵（岩沼市）』の齋藤勝氏を講師に招き、調理技術講習会が開催されました。調理に携わる者としての心構えや、包丁の研ぎ方、基本の切り方などを学びました。講習会の終わりには、代表の学生が「包丁の基本をしっかりと身に付け、これからの調理実習も頑張っていきたい」と述べ、これからの授業への意気込みを感じました。

仙台大学公開講座「体育大学からの提案」が開講

～学都コンソーシアムサテライトキャンパス～



平成22年度学都コンソーシアムサテライトキャンパス仙台大学公開講座「体育大学からの提案」が開講しました。学都コンソーシアムサテライトキャンパスは仙台市市民活動サポートセンター（仙台市青葉区一番町4-1-3）を会場に毎週土曜日に開催されており、加盟している団体が持ち回りで教室を担当しています。10月23日から3週は本学が担当し、加賀洋平新助手、高橋陽介新助手、白幡恭子新助手がそれぞれの専門分野の講義を行います。

初回（23日）となった加賀新助手が担当した

「勝つ準備方法～S & Cコーチからの提案～」には中学校教員やスポーツ団体の方々の参加があり、たいへん高い評価を頂いています。これから開催される講座への申込みはまだ間に合いますので、ご興味をお持ちの方は是非お申込み下さい。（担当：事業戦略室）

◇講座1 「勝つ準備方法

～S & Cコーチからの提案～

担当：加賀洋平新助手

平成22年10月23日（土）

①13:00～14:30 ②15:00～16:30

◇講座2 「スポーツにおける膝前十字靭帯損傷予防プログラム」

担当：高橋陽介新助手

平成22年10月30日（土）

①13:00～14:30 ②15:00～16:30

◇講座3 「アスレティックトレーナーの仕事

～日本とアメリカの違いについて～

担当：白幡恭子新助手

平成22年11月6日（土）

①13:00～14:30 ②15:00～16:30

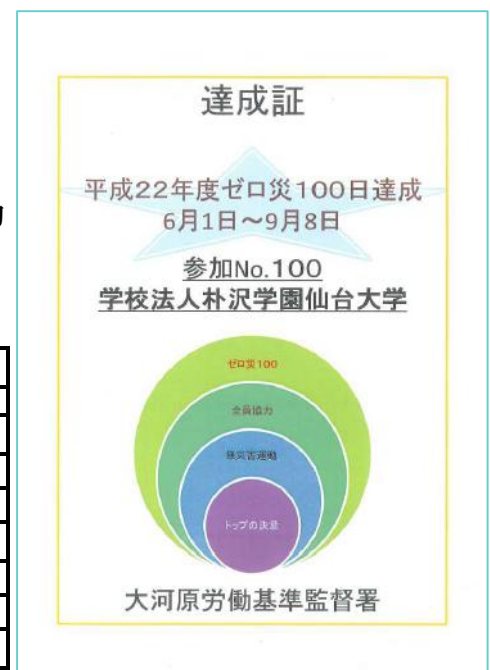
「ゼロ災トライアル100」達成証

大河原労働基準監督署が労働災害の撲滅に向けて6月1日～9月8日の期間「ゼロ災トライアル100」と称する100日間無災害運動を実施し、目標である100日間無災害を達成した本学にも「達成証」が交付されました。今年の「ゼロ災トライアル100」には、大河原労働基準監督署管内の105事業場が参加し、90事業所で目標を達成したとのことです。今後も本学での労働災害ゼロが続くように各々が心掛けて就業しましょう。

労働災害発生状況

平成22年1月～9月末

業 種	大河原署管内			宮城県管内		
	死傷	死亡	前年比	死傷	死亡	前年比
製造業計	38		+7	326		+13
食料品製造業	14		+4	168		+20
機械金属製造業	17		+4	90		+6
建設業	14		-3	206	4	+5
土木工事業	4		-1	62	2	+5
建設工事業	8		±0	117		-7
運輸交通業計	3		-4	211	6	-5
道路貨物運搬業	3		-4	176	4	+1
商業	12		-3	253		+26
全産業計	108		±0	1521	15	+109



初代表の植松鉦治選手が世界体操競技選手権大会で大活躍



植松鉦治選手(平成20年度卒/KONAMI所属)が10月16―24日にオランダで開催された世界体操競技選手権大会に初代表として出場し、得意の鉄棒で16点台をマークするなど堂々の演技で日本代表の団体銀メダル獲得に大きく貢献しました。また、個人総合でも8位入賞するなど総合力の高さを示してくれました。金メダルの期待がなかった種目別鉄棒では得点を伸ばせず8位に終わりましたが、種目別平行棒で5位となるなど世界に「植松鉦治」の名を刻んでくれました。2012年のロンドンオリンピックに向けて、これからの活躍から目が離せません。

男子バスケットボール部が7年ぶりにインカレ出場権を獲得



男子バスケットボール部が第11回東北大学バスケットボールリーグで2位となり、7年ぶりとなるインカレ出場権を獲得しました。1位との勝敗は同率で、僅かなポイント差による2位です。今年、チームが大きく成長した大きな要因として、今年から監督兼コーチに就任した村田健一氏の存在が大きいと選手達は話しています。

村田氏は選手としても社会人チームの三菱電機で活躍し、指導者としても同社の監督などを務めた経験をお持ちで、豊富な経験から戦術の組み立てや選手の特徴をこの短期間で引き出してくれているようです。

主将 渋谷 翔さん(体育学科4年)



多くの人たちに支えてもらいながら7年ぶりのインカレ出場が果たせてたいへん嬉しく思っています。特に、今年から村田監督が就任したことでチームが大きく成長したと感じています。その一つが意識面で、練

習中も試合をイメージして取組むようになり、同じ時間でも質の高いものとなっています。もう一つが技術面で、些細な動作でも重要となるポイントを指摘していただけた、それが試合中に活かされていることを選手たちは実感しています。監督から新しい事を吸収するためにも同じことを2度言われぬように意識して練習に取り組んでいます。また、監督は選手とのコミュニケーションを大事にし、話し合いの場を多くつくって下さるので、部員たちは監督に全幅の信頼を寄せています。このチームはまだまだ成長段階にあり、11月29日に開催するインカレまで更にチームのレベルアップを図りたいと考えています。そして近年、東北のチームが超えられていない1回戦の壁を突破することを目標に頑張ります。

なお、女子も3年連続で第2位となり、インカレ出場を決めております。女子のインカレは男子よりも1週間早い11月22日から大阪市中央体育館(大阪府)で開催されます。

結果の詳細、個人賞はこちらに掲載されています。

東北大学バスケットボール連盟

<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife/4126/10-1-2-results.html>

創部4年目の女子サッカー部が初優勝



創部4年目の女子サッカー部が、10月9－11日に弘前市で行われた「第19回全日本大学女子サッカー選手権大会 東北地域大会」において、大会18連覇中の山形大学を1-0で下し、初優勝しました。これにより、11月26－28日に大阪府堺フットボールセンターで行われるインカレの初出場が確定しました。全国大会でも持ち前の組織プレーで飛躍してもらいたいものです。

14日には学生が佐伯部長、黒澤監督とともに朴澤学長に優勝報告を行いました。朴澤学長からは、「初優勝おめでとうございます。インカレでも頑張ってきてください。」との声が掛け

られ、学生も全国大会での活躍を誓っていました。

キャプテン **小田千絵美さん**(経情4年)

副キャプテン **石田智子さん**(体育4年)



創部メンバーとして、最終学年で初優勝できたことは本当に嬉しいです。創部当初はメンバーが揃わずにチームを組めないこともありましたが、佐伯部長と黒澤監督の下、年々選手層が厚くなり、現在は25名の選手とチームを陰で支えてくれる5名のサポートスタッフがあり、先輩後輩の垣根もなくファミリーのようなチームです。今年は「インカレ出場、インカレ1勝」をチームの目標として練習に取り組んできました。一つの目標であったインカレの出場権は獲得したので、もう一つの目標であるインカレでの1勝を果たすため、大会までの1ヶ月でチーム力をさらに上げたいと思います。インカレは4チーム総当りによる1次リーグを行い、1位のみがベスト4進出となるので、1勝することは大きな結果につながる可能性が十分にあります。チーム一丸頑張りますので、応援よろしくお願いします。

第51回全日本新人選手権大会



10月15－17日に全日本新人選手権が埼玉県戸田市にて行なわれ、男子エイトで準優勝、女子クォドルプルで第3位に入りました。

男子エイトメンバー

上段／畠山惇史さん、赤池恵介さん、赤間拓哉さん、池内風さん、川村歩さん

下段／外崎海舟さん、阿部大貴さん、納城紘一さん、福田海人さん



女子クォドルプル

前田佑美さん、山崎可奈子さん、大角真央さん、宮本明子さん、依田光さん

Monthly Report

Vol.54 / 2010 Nov.

2010 スポーツシンポジウムを開催



11月17日(水)、仙台市、河北新報社、仙台大学主催でせんだいメディアテークにおいて、今年度もスポーツシンポジウムを開催し、約220名の来場がありました。今年のテーマは「これからの青少年スポーツ教育について」で、はじめの基調講演にはバレーボール女子全日本代表で元主将の吉原知子氏が、「私とバレーボール～夢をあきらめない～」と題し、女子バレーの主将として長年に亘りチームを牽引した経験談や競技生活でぶつかる様々な分岐点において「決してあきらめなかったこと」などが話されました。つづいて本学

の阿部篤志講師（スポーツ情報メディア研究所・研究員）から、シンガポールで開催された、14歳から18歳までを参加対象年齢とする初のユースオリンピック（YOG）視察で得た情報をもとに、競技のみならず言葉の壁を越え他国を知るさまざまな文化交流がはかられた教育プログラムなどが紹介されました。



パネル討論では、宮城県高校体育連盟理事長金田幸夫氏、宮城県体育協会事業課長土生善弘氏（仙台大学大学院1期生）、仙台市市民局文化スポーツ部長武田均氏と阿部篤志講師による「これからの青少年スポーツ教育」について、宮城県や仙台市の今後やジュニア期のスポーツを醸成していくための方針や取組などの話が討論されました。世界の舞台に視線を向けた選手育成のあり方について話し合われた今回のシンポジウムは、世界では、若い世代へのスポーツを通じた教育に大きな期待が寄せられていること、身近なところでは宮城県でも、若い世代へのアプローチをどのような方向性で今後進めていくべきか注目していることなど、「未来のトップアスリート育成」や「スポーツによる地域の活性」などこれからの青少年スポーツへの新たな動きを感じる講演となりました。全国の「タレント発掘事業」に深く関わる仙台大学が持つノウハウなどの知的財産が、宮城県や仙台市のスポーツ振興にとっても財産となりうる可能性を秘めた討論となりました。



目次

2010スポーツシンポジウム	1
保護者のための就活セミナー 天然芝グラウンドお披露目	2
運栄SPが「みやぎ食育活動 優良実践者表彰」優秀賞	3
2010大学祭 第5体育館立柱式	4
柴田町ダンベルサークル フォローアップ研修会	5
国際交流	6
OBの活躍	7
第15回新体操演技発表会	8

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email: kouhou@scn.ac.jp

「保護者のための就活セミナー」を開催



バブル崩壊後の大氷河期といわれた就職環境以上の厳しさとなっている現在の就職線において内定を勝ち取るためには、「保護者の正しい理解と協力が不可欠」となっています。

11月27日(土)に3学年の保護者を対象に「保護者のための就活セミナー」が本学としては初めて開催されました。セミナーには遠く三重県をはじめ3年生の保護者190名(121家族)に参加頂きました。ガイダンスは2部構成で進められ、第1部ではCDA(キャリア開発・プロフェッショナル・アドバイザー)有資格者である佐々木事務局長(兼 入試創職室室長)より、大学における就職支援の立場から「大学生の就職活動今昔と仙台大学生の就職の現状」について説明がなされました。近年の就職活動の環境変化や、仙台大学の就職対策と学生

の実態についての説明後、「就職後も納得して働くには、学生が自ら職種を選択し、必死になって厳しい就職活動に立ち向かう必要があります。そのためには、大学だけでなくご家族のご協力が必要不可欠です。大学では学生だけでなく保護者からの相談に対しても常時、相談に乗る体制を整えておりますので、大学と家族の共同戦線を張り、お子さんを支えていきましょう。」と話しました。

第2部では(株)ディスコ東北支社の菅野健郎氏により、専門家の立場から「大学生を取り巻く就職環境と就活における親の関わり方」題し様々なデータを元にお話を頂きました。「交通費などの就職活動費用は近年、企業側負担ではなく、本人負担が原則です。親に相談した学生ほど希望通りの就職先に入っているというデータがあります。これらは、家族の協力が学生の就職活動に大きく関わっていることを示します。是非、学生個人だけに任せるのではなく家族で立ち向かって下さい。」との話がありました。

保護者の方たちも、ガイダンス終了後も創職作業チーム教員に熱心に相談する姿が多数みられました。

本学では今後も保護者向けガイダンスを開催し、学生の就職活動に保護者と協力して全力で取組んでいきます。

県南地区初の塩釜方式天然芝グラウンド お披露目式



塩釜方式を採用し、整備を進めていたラグビー・サッカー場(第2グラウンド)の天然芝が青々と敷き詰められ、使用が可能となりました。11月26日(金)にはオープニングセレモニーを行い、朴澤学長、小幡忠義氏(塩釜FC理事長)、関係教職員、ラグビー部員とアメリカンフットボール部員が参列しました。

朴澤学長の挨拶では「学生たちには練習だけでなく、天然芝の管理方法についても学んで欲しい」と述べ、小幡氏は「激しいプレーなどにより、芝が傷むことは避けられないが、そこに土と芝の種を撒けばやがて自然と元通りになる。」

学生たちには自分たちの使うグラウンドに愛情を込め、手入れする意識と、育てていくという意識を持って欲しい。」と話されました。セレモニー後にはラグビー部が早速、練習で汗を流し、芝の感触を確かめました。



運動栄養サポート研究会がみやぎ食育活動優良実践者表彰で「優秀賞」



11月9日（火）に「第4回食育推進県民大会」が白石市文化体育活動センター（ホワイトキューブ）で開催され、各自治体の関係者など約600人が参加しました。この大会は、食育を県民運動として展開することを目的に開催されているもので、みやぎ食育活動優良実践者表彰、記念講演、事例発表が行われました。

みやぎ食育活動優良実践者表彰では、本学の運動栄養サポート研究会が、宮城県下における優れた食育活動実践者として「優秀賞」が授与されました。

事例発表では、運動栄養学科の高橋杏奈さん（4年）と片岡のぞみさん（3年）が研究会を代表し「アスリートを栄養でサポート～学生から学生への食育～」を発表しました。それらは主に運動栄養サポート研究会が普段行っているサークルへのサポート内容の他、高校生への栄養指導、毎年参加している「宮城まるごとフェスティバル（主催：宮城県福祉協議会）」の活動報告などです。引率した丹野准教授によりまずと、事例発表後には、栄養教諭をされている先生から「まるごとフェスティバル」で独自制作した教材への質問や、「サポート研究会の学生さんは、うちの学校にも来てくれるかしら」という声が聞かれるなど、多方面からたいへん好評を得たそうです。

みやぎっ子ルルブル推進会議総会で栗木教授が講演

＜情報提供：菊地志織新助手＞



11月22日（月）に宮城県庁において「みやぎっ子ルルブル推進会議総会（主催：宮城県教育委員会）」が開催され、ルルブルパンフレット執筆者の栗木教授が「からだを動かすってこんなに面白い！」という演題で講演をされました。

宮城県教育委員会が推進している“ルルブル”とは、子どもの健やかな成長に必要な「しっかり寝ル・きちんと食ベル・よく遊ブで、健やかに伸びル」の“ルルブル”からとられた言葉で、県内の小学生全員に『ルルブルパ

ンフレット』を配布するなどの活動で、文部科学省の「早寝・早起き・朝ごはん」と共に宮城県内で推し進められている活動です。

『ルルブルパンフレット』には、成長期の子供たちに大切な生活習慣が身に付くよう、各家庭で取り組むためのヒントや解説が分かりやすく紹介されています。

今回の総会では、子どもの基本的な生活習慣確立に向けて、家庭・学校・地域・企業・民間団体など、社会総がかりで取り組んでいくことを目的として開催され、みやぎっ子ルルブル推進優良活動団体の表彰式と事例発表、『ルルブルパンフレット』の紹介が行われました。

栗木教授のご講演では、ご自身の体験をもとに体を動かすことの大切さをお話された他、アイスブレイクを取り入れるなど、参加者を魅了する楽しい講演内容となっていました。

2010仙台大学大学祭



10月30日、31日に柴田町と共同で「2010仙台大学大学祭・スポーツフェスティバルin柴田」が開催されました。台風の影響で、両日とも悪天候だったにもかかわらず、家族連れなどで各会場が賑わいを見せました。毎年恒例のスポーツ講演会にはアテネ五輪体操金メダリストの富田洋之氏と、その感動を日本に伝えた刈屋富士雄アナウンサーにご登壇頂き、アテネオリンピックを振り返っていただきました。刈谷氏の「富田選手の緊張をほぐす方法は？」との質問に、富田氏は「演技前に会場を見渡し、自分が会場のどこにいるのかを確認することで緊張がほぐれます。これは、小学校の時のコーチに教わった方法です。金メダルの期待を一身にあびた最終演技（鉄棒）の際も、しっかり会場を見ることができたので自信を持って臨むことがで

きました。」と語りました。一方、メディアとして伝える側の刈谷氏は、有名になった「日本にまた日が昇りました」というフレーズは、日本体操が1998年に大敗した際にフランスの解説者が「日本の体操は二度と日が昇ることはないでしょう」と発言したのを聞いてから、日本体操復活の際には必ず言おうと心に決めていたとの裏話も披露されました。

この他、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校Health and Human Services学部のケネス・ミラー学部長による国際交流講演会、お笑いライブ、障がい者スポーツ交流会、ニュースポーツ交流会、グランドゴルフ大会など、「スポーツフォアオール」をモットーとする本学らしく、誰もが楽しめる内容が多く盛り込まれ盛会裏に終了しました。

第五体育館の立柱式



第5体育館の建設工事で、「杭打ち作業」、「掘削」、「捨コン」、「基礎配筋」、「型枠組立」などの基礎の土台をつくる作業が終了し

ました。鉄骨工事に入るにあたり、11月8日（月）に、建設中の第5体育館の立柱式が執り行われ、施工業者である鹿島建設㈱の関係者と丸谷課長が立会いました。立柱式とは、地上に構成される一本目の柱を建てる際に、お神酒と塩とで清め、建物の永遠堅固を願う儀式です。この柱を皮切りに、工事は着々と進捗し、第5体育館の全容がわかるほど骨組みが組みられました。（下の写真は11月25日撮影）



柴田町ダンベルサークルフォローアップ研修会 本学で開催



11月15日（月）に第一体育館を会場に柴田町・地域包括支援センターが主催する「柴田町ダンベルサークルフォローアップ研修会」が開催され、約200名が参加しました。このサークルは、最近、全国的に注目を集めている、玄米ダンベル体操のサークルで、柴田町でも気軽に取組める介護予防として普及啓発に取り組んでいます。今回の研修会は、サークルを運営しているグループリーダーが運営方法を学習し、楽しくダンベルサークルを運営するために行われたもので、平成22年度に柴田町との委託契約事業の一環として本学で開催されました。研修は2部で構成され、第1部の「健康講話・楽しい運動」では、橋本教授による「身体のバランスを整える運動“操体法”」の講話が行われ、健康に生きるための自然法則として①呼吸、②食、③身

体の動かし方、④精神活動、⑤環境の5つが相互に密接に関連しているとの話しがあった後、受講生とともに身体の動きの基本である前屈・後屈・側屈・左右捻りなどを実践しました。受講生は軽い運動を意識して行うことだけでも、筋肉の緊張がほぐれる事を実感していたようです。

小池教授の「健康づくりの活動に役立つレクリエーション」指導では約45分間にわたって身体を動かし、終始笑顔が溢れていました。このような講座が本学で開催されることは、地域の方に仙台大学の取組みを知っていただくためにも大変素晴らしい機会であると再認識しました。

第2部では柴田町介護予防普及サポーターが講師となり、創作ダンベル体操をリズムにのせて身体を動かし、研修は終了しました。

仙台大学 管理栄養士国家試験 「第2回受験者激励会」を開催



<情報提供：仙台大学管理栄養士国家試験「合格修練会」>

11月21日（日）国家試験に臨む卒業生が母校・仙台大学に集い「受験者激励会」を開催しました。

朴澤学長、藤井久雄運動栄養学科長をはじめ関係教職員も激励に駆けつけ、OB合格者である清野隼さん（2期生）、高野絵里さん（2期生）、奥友薫さん（3期生）による心のこもった体験談が披露され、参加者たちは真剣に聞き入っていました。また、東京アカデミー小田嶋講師による特別講義では、合格に直結する具体的なポイントが示されました。懇親会も行なわれ、参加者たちは仙台大卒の誇りと使命感を新たに燃やし、皆が意気軒昂にその場をあとにしました。

韓国女子柔道ジュニアチームが本学で強化合宿



韓国女子柔道ジュニアチームが強化合宿のため、11月6～11日の日程で本学を訪れました。来訪したのは、将来のオリンピック候補選手15名（15～16才）と指導者3名で、昨年まで本学の女子柔道コーチをしていた李馥熙（イ・ボクヒ）氏の姿もありました。今回の本学での強化合宿を開催するに至ったのも、李氏を外国人コーチとして招聘していたことで本学との交流があったからようで、李劉徳監督は本学学生との合同練習を経て「日本の自主的に練習に取り組む、姿勢を学ばせることができた」と話されており、日韓両国の若い世代のスポーツによる交流がなされ、学生たちにとっても有意義な1週間となりました。

上海体育学院の戴理事長が来訪



11月10日（水）に国際交流協定締結先である上海体育学院の戴理事長をはじめとする5名が本学へ来訪しました。

今回の訪問は、理事長に就任した戴 健氏の理事長就任のご挨拶が主目的でした。飛行機整備トラブルで仙台空港到着が大幅に遅れてしまい、残念ながら国際交流会議等は中止になってしまったものの、歓迎懇談会は盛会裏に終えることができました。

今後も益々の交流発展が期待されます。

みやぎ大菊花展柴田大会



柴田町の秋を彩る「みやぎ大菊花展柴田大会」が10月20日～11月10日の期間、船岡城址公園で開催され、県内の菊愛好家が手塩にかけた菊2300鉢が出展されました。

本学では毎年この大会に協力しており、昨年からは仙台大学学長賞が設けられました。11月26日に行われた表彰式では学長代理として、事業戦略室の小室室長が出席し、庄司平氏の「大菊国家秋舞台」の作品に仙台大学学長賞を授与しました。



田中美衣選手と南條充寿講師が文部科学省の「国際競技大会優秀者等表彰」を受賞

11月1日(月)に文部科学省の「スポーツ功労者顕彰及び国際競技大会優秀者表彰式」が東京都で行われ、ユニバーシアード競技大会での女子団体戦優勝や世界選手権で第2位となった田中美衣選手(ぎふ柔道クラブ24所属／平成21年度卒)が受賞しました。また、南條充寿講師(日本柔道連盟女子シニア強化コーチ)も田中選手を育てた優れた指導者として、受賞されました。

写真：昨年12月の東アジア競技大会



OBの植松鉦治選手(KONAMI体操競技部 所属)が来学



過日行われた世界体操競技選手権大会で日本チームの銀メダル獲得に大きく貢献したOBの植松鉦治選手(平成20年度卒／KONAMI所属)が10月30日(土)に来学し、朴澤学長と恩師の小西准教授に大会の報告を行いました。来年は世界選手権が東京で開催され、2012年にはロンドンオリンピックが控えています。植松選手には本学体操競技部で初のオリンピック誕生と、その大舞台での活躍に大きな期待が寄せられています。

今回、植松選手より、世界選手権で使用したユニフォームと直筆サインが大学に寄贈されました。ユニフォームは学長室に、直筆サインはKMCHに展示してありますので、是非ご覧下さい。



快挙 OBの大元英照選手がアジア大会で2大会連続の金メダル獲得

本学OBの大元英照選手(おおもと ひでき／アイリスオーヤマ)が「第16回アジア大会 ポート競技：軽量級男子舵手なしフォア」の決勝レースが11月18日(木)に行われ、見事、金メダルを勝ち取りました。大元選手は、前回の「第15回アジア大会 ポート競技：軽量級男子ダブルスカル」に引き続き、2大会連続の金メダル獲得です。

軽量級男子舵手なしフォアのクルーは以下の通り

- 片岡 勇 選手(明治安田生命)
- 佐藤芳則選手(明治安田生命)
- 須田貴浩選手(アイリスオーヤマ)
- 大元英照選手(アイリスオーヤマ／仙台大学平成18年度卒)



第15回 新体操演技発表会



11月28日（日）に第15回新体操演技発表会が開催され、278名の来場がありました。昨年までの発表会は、日頃の成果を音楽にあわせて踊ることを保護者に観て頂く事がメインでした。しかし、第15回の節目となった今回は、全ての演目をストーリー仕立てにしたことで、より表現力のある演技で、観客が今まで以上に楽しめる内容となり、来場者からも「すべての作品にストーリーがあり、これまでの発表会にも増して素晴らしかった」との声があがっていました。また、「挑戦」をメインテーマとして、各々ができることよりも少し高いレベルの演技に構成したことで、演技者の達成感も増したそうです。

このイベントには撮影や進行役としてスポーツ情報マスメディア学科の学生がサポートに入り、イベントを裏方として支えました。また、本学OBが代表を務め、今年全日本クラブ団体選手権で初優勝したインタークオレスや、聖和学園高校の男女新体操部も賛助出演し、会場に華をそえて頂きました。全ての演目を手がけた丹羽講師は「基礎能力を更に強化し、世界へ繋がるように飛躍したい」と話していました。

Monthly Report

Vol.55 / 2010 Dec.

全国初

荒井龍弥教授が公立中学校校長に4月から就任 ～宮城県教育委員会と連携協定締結～

12月21日(月)、宮城県庁行政庁舎において、宮城県教育委員会（小林伸一教育長）と仙台大学（朴澤泰治学長）は学校教育の振興や教員養成等で協力する連携協定を締結しました。その一環として、荒井龍弥教授が平成23年4月から3年間の任期で公立中学校の校長に就任することになりました。大学教授が公立学校の校長に就任するのは全国でも初めてのことです。



締結式には、宮城県教育委員会の小林伸一教育長、菅原久吉教育次長、高橋仁教育次長他15名が、本学から朴澤泰治学長、渡邊宣隆教授、荒井龍弥教授、藤田努常務他6名がそれぞれ出席致しました。

最初に小林教育長より「この度、新たに大学の知的資源を活用した学校運営の進展を主旨として、学校教育に関する高度な専門知識を有する大学関係者を公立中学校長に採用できることは大変大きな喜びであり、仙台大学の朴澤学長をはじめ、関係する方々に深くお礼申し上げる」との挨拶がありました。

続いて朴澤学長から「教育基本法の改正により、大学が教育や研究のみならず第3の使命として社会貢献も明確に求められる今、公立中学校校長への大学教員任用という全国初の事業に対し荒井教授が登用されたことは、本学にとって大きな社会貢献となる。教育現場とより密接な連携が図れることは、大学教育の効果の検証、教育現場との情報の共有など貴重な機会であり、大学を挙げてバックアップしていきたい」などが話されました。

宮城県教育委員会は2003年から公立学校の校長に民間人を起用しており、これまでも企業出身者3名が公立高校の校長職に登用されています。荒井教授は「教師と生徒が一体となって作り上げる授業はとても大切なものであり、双方がやりがいがあったと思えるような授業づくりのサポートができる校長を目指していきたい。実際に生徒達と接するのが楽しみ」と、意気込みを語っています。桜の花びらが舞う季節、いよいよ校長先生としての第一歩がスタートします。荒井校長先生のご活躍を心より祈念するとともに、中学校という教育現場から生の声をお寄せいただくことを楽しみにお待ちしております。



目次

荒井教授が公立中学校長に4月から就任	1
エコプロダクツ2010 低酸素トレーニング	2
スポーツ栄養セミナー 楽天・池田副社長講演	3
おかげさまプロジェクト 県警より高橋さんに感謝状	4
クリスマスパーティー 札幌近郊同窓会	5
コ・アクト宛の御礼状 オリジナルグッズ紹介	6
学生・OBの活躍	7

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email: kouhou@scn.ac.jp

吉井講師が日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2010」に出展



吉井講師を中心とする研究グループが、2010年12月9日（木）～11日（土）に東京ビッグサイトで開催された日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2010（第12回）」に、研究中の振動床を出展しました。この振動床は、スポーツ活動（運動）をすることで起きる地面や床の振動エネルギーを電気エネルギーに変えて発電させる、新しい試みです。研究グループは（株）音力発電が開発した「発電床®」の技術を、世界で初めてスポーツ

（運動）分野に応用。その第一弾として、人工芝の下に「発電床®」を入れてその上で運動を行い、それによって起きる振動で発電することを実証しました。他の運動系発電技術と比較すると、地上での運動の種類や方法に制約を受けないところに最大の特長があります。地上で行う屋内外のあらゆるスポーツに発電可能性があるため、将来的にはスポーツ施設の電力の一部を利用者自身の自由なスポーツ活動でまかなうというビジョンを構想しています。エコプロダクツの主催者側からも注目ブースとして紹介されたこともあり、本学のブースには3日間で300人を超える来場がありました。

この様子はTBSをはじめBS放送、NetRushTV (<http://www.netrush.jp/>)、ラジオ2局でも紹介されました。

この様子はTBSをはじめBS放送、NetRushTV (<http://www.netrush.jp/>)、ラジオ2局でも紹介されました。

ベガルタ仙台のコーチが本学で低酸素トレーニング



ベガルタ仙台は、エチオピアで植林活動を行っているNPO法人「フー太郎の森基金」（福島県相馬市）と共同で、来年1月にエチオピアにコーチ2名を8日間派遣し、現地の子ども達を対象としたサッカー教室を開催します。エチオピアが標高2400mの高地であることと、派遣コーチが両名とも本学OBであることから、本人達か

ら事前トレーニングの依頼が大学にあり、今回のトレーニングを実施したものです。コーチは、井上和徳さん(平成5年度体育学科卒、平成11年大学院修了)と福田直人さん(大学院平成17年度修了)で、内丸講師の指導下で行われました。

12月16日(木)には低酸素状態の中でエルゴメーターを用いたトレーニングを体験、21～23日には、標高2400mと同等の酸素濃度に設定された低酸素室で宿泊し、高地環境での滞在や運動することへの馴化を目的に行われました。

井上さんは「実際に低酸素状態での運動がどれほどきついか体験できただけでも、この経験は大きいです。何の準備もなしに現地に赴いていたらコーチとして運動することはできなかったと思います。母校の仙台大学に低酸素の施設があったことと、それを利用させていただけた事に感謝します。」と、話していました。

東北多文化アカデミーの修了発表会



東北多文化アカデミーで日本語を3ヶ月間学んでいた留学生8名（平成23年4月入学予定）のプログラムが無事に終了しました。12月22日(水)にはプログラムの締めくくりとして1人約5分間の修了発表会が行われ、朴澤学長も出席するなか、留学生たちが日本語学力の修得成果を披露しました。留学生を担当している林臨時職員(学生支援室)は「留学生たちはしっかり頑張ってくれたようで、日本語学力が格段に伸び、素晴らしい発表でした。」と、多文化アカデミーでの学習の成果に感心していました。

スポーツ栄養セミナーを開催



12月7日（火）にB300教室において運動栄養学科が毎年企画するスポーツ栄養セミナーが開催され、運動栄養学科の学生、約250名が参加しました。今年のセミナーではサプリメントの製

造・販売を行い、栄養面からプロスポーツチームのサポート活動も行なっている(株)ボディプラスインターナショナル(所在：仙台市宮城野区)から講師を招き、「スポーツサプリメントとその普及における活動」と題して講演していただきました。講師は、仙台89ERS (bjリーグ) のサポート活動を行っている和久 夕紀子さん（仙台大学平成15年度卒）と、管理栄養士の湯目 恵理さんで、それぞれの立場からサプリメントの効果や摂るべきタイミングの話や、仙台89ERSに帯同して実際に行なっているサポート活動の紹介などについて話して頂きました。

学生たちはサプリメントについて大変興味を示し、講演後も多くの質問が飛び交う、たいへん有意義なセミナーとなりました。

楽天野球団・池田副社長の講義「スポーツとマスメディア」

～プロスポーツの成り立ちとそのゆくえ～

12月10日（金）、F303において（株）楽天野球団取締役副社長である池田敦司氏を迎え「スポーツとマスメディア」というタイトルでの講義がなされ佐藤宏専務理事、マーティ・キーナート副学長をはじめとする学生・教職員35名が聴講しました。

最初に佐藤宏専務理事より、池田氏の紹介を兼ね、楽天の歴史も含め今日は興味深いお話を期待しますとのご挨拶がありました。続いてご登壇した池田氏は、楽天が2005年にThe Baseball Entertainment Companyを理念に「強いチーム」「地域密着」「健全経営」をミッションに掲げた野球プロ集団であり、最低でも毎年プレイオフに出場できることを目指す上昇球団である旨、説明されました。プロ野球はかつて、最大の収益をあ

げることが最も大きな目的だったのに対し、今は良い試合を快適な環境で楽しく観戦することにより、リピーターを増やすことが大切だそうでプロスポーツがビジネスとして成り立っていく上では、緻密な戦略が欠かせないことを熱心にお話しくれました。

時間の関係上、星野新監督を迎えて来期にかけの意気込みに関してはまたの機会となりましたが、熱血監督のもと心機一転をはかる楽天チームの奮闘ぶりが、なお一層楽しみです。



生活習慣病予防教室閉講式



柴田町が主催で本学教員が講師を務めた「生活習慣病予防教室」の閉講式が12月9日(木)に行われ、橋本教授より受講生一人ひとりに修了証書が手渡されました。この教室は柴田町の行う特定検診等の結果に問題点が指摘された26名を対象とした教室で、7月から半年間に渡って行われました。月に一度、運動指導や健康講話、調理・食事指導を行い、生活習慣の改善を促してきました。また受講生に歩数計を貸し出して毎日の歩数や血圧を記録してもらい、その数値についての個人指導を実施しました。個人差はあるものの、参加者のデータは改善がみられ、教室は修了しました。

「リスペクト！おかげさまプロジェクト」が白石川河川敷でゴミ拾い



12月2日（木）に「リスペクト！おかげさまプロジェクト」のファミリーとして活動する5名の学生が、白石川河川敷の清掃活動を行いました。「リスペクト！おかげさまプロジェクト」は、普段私たちが自由にスポーツを楽しめる環境を支えている人やモノに対して、常に敬意と感謝の心を持ち、「おかげさま」の気持ちを伝え合うことによって、その価値を確かめ、広めていこうという取り組みです。

仙台大学の他にもベガルタ仙台・宮城県サッカー協会・ベガルタ仙台ホームタウン協議会が加わって様々な推進活動を行なっています。

今回は、普段お世話になっている船岡の街に感謝の気持ちを伝えようと、学生自身で河川敷のゴミ拾いを企画し、実行しました。白石川の河川敷は、漕艇部の練習場となっている他、春は花見、夏はバーベキューや花火、秋には芋煮会など年間を通してお世話になっている場所です。とくに、川沿いにゴミが多く、洗剤のボトルや納豆のパック、肥料の袋など思いがけないゴミの数々に、活動した学生からは驚きの声が上がりました。2時間半で柴田町指定のゴミ袋（大）約8袋分のゴミが集まりました。限られた時間でしたが、活動した学生の表情からは達成感を感じ取ることができました。

「リスペクト！おかげさまプロジェクト」ブログ
<http://respectokagesama.blogspot.com/>

高橋絢子さん（運動栄養学科）に宮城県警より感謝状



宮城県警察本部生活安全企画課が、振り込み詐欺被害を防ごうと、詐欺グループの電話の手口を再現した音声ドラマ3作（息子の名乗る手口編、警察官の名乗る手口編、架空請求詐欺編）を制作しました。この音声ドラマに声の吹き込みという形で協力した高橋絢子さん（運動栄養学科3年）に対して、宮城県警より12月6日に感謝状が贈られました。高橋さんが今回の制作に携わるきっかけになったのは、宮城県内のボランティア学生で組織され、本学でも8名が登録している「みやぎマモルンジャー」に制作協力の依頼があったもので、高橋さんは副代表を務め

ていることもあり、率先して手を挙げたそうです。

高橋絢さんは騙され役として出演しています。この音声ドラマは下記の宮城県警ホームページでも聞くことができる他、県警が主催する防犯講話などで活用される予定となっております。

宮城県警察ホームページ↓↓↓

<http://www.police.pref.miyagi.jp/hp/seian/gaitohanzai/hurikomesagi/dorama/onsei.html>

高橋絢子さん（運動栄養学科3年）



学生で組織する「みやぎマモルンジャー」の活動は、防犯パトロールや振り込み詐欺被害防止の呼び掛けなどです。将来、警察官を志望しているため、防犯に携わることができるこのボランティアに強い興味が湧き、活動に参加しています。今回参加した音声ドラマでは、騙される役を演じたのですが、振り込み詐欺の手口の巧妙さに驚かされました。制作した音声ドラマによって、注意喚起が促され、振り込み詐欺被害の抑止になることを望んでいます。

学生支援センター主催クリスマスパーティー



12月21日（火）に学生食堂において学生支援センター主催のクリスマスパーティーが行われ、教職員・学生あわせて約70名が参加しました。このイベントは、ボランティア学生の慰労と反省会、留学生との交流を目的として開催されています。会では、ノートテイクボランティアチームによる手話当てゲームや、留学生による歌や大道芸などのパフォーマンスなども披露されるなど、笑顔の絶えない交流が深まるパーティーとなりました。

札幌近郊同窓会



12月4日（土）にホテルポールスター札幌を会場にして札幌近郊同窓会が開催されました。同窓生約50名が集まり、総会では支部名をこれまでの札幌支部から北海道道央支部への変更することが審議・承認されました。本学からも穴戸教授、鈴木（清）教授、佐々木事務局長、渡辺入試担当課長、三浦職員が出席し、大学の近況報告や同窓生教員推薦入試等の説明等を行い、今後益々の協力・支援を要請しました。その後に行われた懇親会でも情報交換などして交流を深めることができました。

仙台大学学生食堂の愛称&ロゴマーク大募集

<主管:運動栄養学科、学生部>

～食を学ぶ場、癒しの空間～

仙台大学では、将来、体育・スポーツを基盤とする諸分野において、専門的な知識と技能を体得した専門家を目指して多くの学生が学んでいます。

ところで、学生食堂は、毎日の食事を通じ、実際に生きた教材を用いて「食を学ぶ場」で、仙台大学自己管理（健康・体力・栄養）システムの一環として自分自身の食事管理が出来る環境も整っています。一方、学生食堂は、学生や教職員にとって交流の場として「癒しの空間」という役割もあります。このように「食の学びの場」、そして「癒しの空間」である学生食堂に愛称をつけることにより、更なる学食としての役割の向上が期待できるでしょう。

そこで、「食を学ぶ場、癒しの空間」をポリシーとした学生食堂の愛称とそのロゴを仙台大学学生及び教職員から広く募集致します。奮ってご応募下さい。

＜応募要項＞

応募対象: 仙台大学学生・教職員

応募期間: 平成22年12月1日（水）～
平成23年1月31日（月）

応募方法: 学生食堂の愛称・ロゴマークを所定の応募用紙に記入し、応募用ボックスに投函して下さい。

※応募用紙・応募ボックスは、学生食堂及び学生課前にあります。

副賞: [学 生]→平成23年度海外短期集中プログラム無料招待

[教職員]→賞金一万円

備考: 採用された愛称・ロゴマークは学食の出入口に掲示します。



西多賀支援学校からの 御礼状



西多賀支援学校において、本学のOGでもある西多賀支援学校体育科の富樫(旧姓：安田)玲子先生(仙台大卒・大学院1期生)から恩師である健康福祉学科長の小池先生へ相談があったことが契機になり、小学校から高等部まで30人ほどの「スポーツ交流」に仙台大学から授業のお手伝いに伺いました。これまで支援学校では小学校は小学校と、中学校・高等部もそれぞれの年代ごとの体育の授業はあったものの、全体で「スポーツ交流」の授業を実施することは初の試みだったそうです。

西多賀支援学校は、病弱児・生徒が病気を治療しながら通う支援学校です。今回は小池学科長、関矢先生と当日授業が重なっていない学生のコ・アクトメンバー7人が派遣されました。支援学校先生方の指導の下、体育館で安全面と衛生面に配慮しながら「フロート」とよばれるサイコロ型バルーンを使って4チームに分かれゲームを実施。時間内に手元にフロートが残ったチームに自己紹介をしてもらったそうです。日頃顔をあわせることのない小学生から高校生まで、お互いを知る場となって楽しい交流ができ、こどもたちも楽しく活動できたそうです。

また、病室から出ることができず参加できない

子ども達へも、西多賀支援学校で普段コミュニケーション手段として利用している「スカイプ」で互いに様子を知らせたり、だれもが楽しめる授業を展開していることに驚き勉強になったそうです。なにより支援学校の先生方があたたかく元気に盛り上げてくださったそうで、そのパワーがただただすごいと思った。と話してくれました。

さまざまなハンディキャップを持たれている方へ、「スポーツを通じ楽しくコミュニケーション」を実践しているコアクトのメンバーたちです。今後のますますの活躍が期待されます。

横山宗平さん(健康福祉学科3年)



僕たちをおもいうかべながら、一生懸命に御礼状を書いたり作ってくれたことをおもうと感激です。この企画のお話を伺ってから大学の先輩でもある富樫先生と何度も事前打ち合わせをさせていただきました。

当日子どもたちと実際に接してみると、新たな発見もあり、もっとできたかもしれないと、こどもたちの可能性を感じました。西多賀支援学校の先生方には、とても貴重な経験をさせていただき感謝しています。



仙台大学オリジナルグッズ新商品紹介／ピンバッジ



仙台大学オリジナルグッズとして、ピンバッジ(直径2.6cm／400円)が新しく追加されました。駐輪場の横にあるタカトモスポーツ(冬休み中は学生支援室)で購入する事ができます。

仙台大学オリジナルグッズプロジェクトチーム(P/T)では学内の承認のもとでグッズを製作しております。今後もより良いグッズを製作しますので、皆さまのご提案がございましたらP/Tメンバーにお声掛けください。

男子バレーボール部が全日本選手権(天皇杯)ファイナルラウンド初出場 価値ある勝利



12月16－23日にバレーボール日本一のチームを決する「天皇杯・皇后杯 全日本選手権大会 ファイナルラウンド」が国立代々木競技場体育館(東京都)で開催され、宮城県予選、東北ブロック大会を勝ち抜いた男子バレーボール部が初出場しました。この大会の予選には、全国で531チームが出場しており、その中でファイナルラウンドに出場できるのはブロック大会を勝ちあがった僅か16チームと、プレミアリーグ8チームを含めた全24チームだけです。ファイナルラウンドに出場するまでも困難な大会であり、ここで戦える事はたいへん名誉あることです。

本学は1回戦で国際武道大学(関東大学リーグ1部)と対戦し、フルセットの末、勝利しました。全国でも国際武道大学がいる関東大学1部リーグ

は非常にレベルが高く、11月のインカレではベスト8に6校が入っており、インカレでは本学も明治大学に敗戦を喫しています。バレーボール部が目標にしている「インカレでベスト8」を達成するためには、関東1部リーグ勢から勝利することが課せられるため、今回の勝利は目標達成に向けて、たいへん価値ある勝利となりました。

続く2回戦では昨年の同大会を制しているパナソニック(プレミアリーグ)と対戦。ストレート負けしたものの、3セット中2セットで20得点をあげるなど、監督・選手ともに、「全国レベルで十分に戦える」との自信を深めた大会となったようです。

本学男子バレーボール部のベンチ入りメンバーには雄物川高校(秋田県)出身の学生が4名おります。大会前に、庶務課の川村課長を通じて全日本キャプテンの宇佐美大輔選手(パナソニック/雄物川高校出身)より雄物川高校出身の学生に向けて、「後輩と試合ができることを楽しみにしています。1回戦を突破して是非、2回戦で対戦しよう。」とのコメントを頂戴しました。この言葉で選手のモチベーションもあがったようです。偉大な先輩との対戦を経て、今後の精進に磨きがかかることでしょう。

全日本体操競技団体・種目別選手権で菊池收祐さんが跳馬で3位

12月3－5日に山口県スポーツセンターで行われた全日本体操競技団体種目別選手権大会において、菊池收祐さん(体育学科1年)が種目別：跳馬で3位入賞を果たしました。高校では日本人では菊池さんにしかできないF何度の大技「タマヨ」を武器に、ゆかと跳馬のスペシャリストとして注目されてきた菊池さんですが、大学入学後は今回が初の表彰台です。

菊池收祐さん…

北海道旭川出身。関西高→仙台大
2009全日本体操競技選手権種目別選手権ゆか2位、跳馬5位。
2010モントリオール国際大会種目別ゆか優勝、跳馬2位。

菊池收祐さん(体育学科1年)



植松鉦治選手(コナミスポーツ/平成20年度卒)の演技に憧れ、植松選手が育った大学で競技に打ち込みたいと思い、仙台大学に進学しました。足に自信があるため、跳馬とゆかは得意ですが、足を使わない4種目(あん馬、鉄棒、つり輪、平行棒)については

苦手です。今後、この4種目を強化し、仙台大学を上位に導く選手、世界で戦える選手を目指したいです。

OBの大元英照選手がアジア大会での優勝報告のため来学



12月3日(金)に、過日行われた「アジア大会
(広州)・軽量級男子舵手なしフォア」で金メ
おおもとひで き

ダルを獲得した大元英照選手(アイリスオーヤマ
所属/仙台大学H.18年度卒)が、阿部肇講師(仙
台大学漕艇部監督 兼 アイリスオーヤマボート
部コーチ)と共に、朴澤学長の元を訪れ、アジ
ア大会優勝の報告を行いました。

朴澤学長は「前大会の軽量級男子ダブルスカル
に続いて、アジア大会2大会連続優勝おめでと
うございます。ロンドンオリンピック出場に向
けて今後の活躍にも期待しています。」と述
べ、大元選手は「アジアでは中国が飛び抜けて
実力が高く、今大会でも男女あわせて14種目中
10種目で中国が優勝しました。私が出場した男
子舵手なしフォア種目に中国チームは出場せ
ず、“中国チームを破って優勝する”という目
標は叶いませんでした。しかし、2年後のロンド
ンオリンピックに向けて、今のチームで優勝で
きたのは大きな自信となりました。」と話して
いました。

なお表敬の様子は、ミヤギテレビ、河北新
報、朝日新聞、読売新聞で紹介されました。

大元英照選手 (アイリスオーヤマ(株)/平成18 年度卒)

2年後のロンドンオリンピック
に出場するためには、2011年8月
にスロベニアで開催される世界
選手権で11位内に入り、日本の
出場枠を勝ち取らなければなり
ません。これが現時点での最大
の目標です。

オリンピック3大会に出場して



いる阿部コーチの存在は大きく、仙台大学に進
学を決めた理由でもありました。今の自分がある
のも阿部コーチのお蔭で、強みとしているリ
ズムの刻み方も、阿部監督の背中を見ながら漕
いで学んだところが大きいです。

普段は仙台大学の後輩たちと練習をしている
ので、漕ぐ技術や練習に取り組む姿勢などにつ
いて、見本とされる先輩でありたいと思ってい
ます。

阿部肇氏(仙台大学漕艇部監督、アイリスオー ヤマ漕艇部コーチ)

大元選手は技術・体力面で素晴ら
しい素質を持っており、チームの漕
ぐリズムと出力のタイミングをコン
トロールするストローク(整調)
という大変重要な役割を担っていま
す。さらに彼が凄いのは、限界のリミッターを
自ら外せることです。普通は、全力を出し切っ
たと思っていても、辛くなると脳が静止するよ
うに指示するため、大抵の場合は余力を残して
いるものです。

しかし、彼はそのリミッターを外し、ゴール
したときには自分の持っている全てを出し切っ
てしまうこともあります。その時、ゴール後は
意識が朦朧とし、一步も動けない状態に陥って
しまい、病院に搬送されたことも数回ありま
す。おそらく、トップアスリートとはそういう
ことができるからトップでいられるのだと思い
ます。

今大会で優勝した、舵手なしフォアのメン
バーは素晴らしいチームワークで互いに刺激し
あい、個人の能力を高めあっています。必ずオ
リンピックの出場権を日本にもたらしてくれる
と信じています。



大元英照選手・・・

宮城県塩釜市出身。塩釜高校→仙台大学→アイ
リスオーヤマ(株)。大学1年からU-23日本代表。アイ
リスオーヤマ(株)入社後からナショナルチームシニ
アエリートメンバー。

2006アジア大会(カタール・ドーハ)・軽量級男子ダ
ブルスカル優勝。2010アジア大会(中国・広州)・
軽量級男子舵手なしフォア優勝。

Monthly Report

Vol.56 / 2011 Jan.

韓国 龍仁大学校と交換留学に関わる事項で締結



12月27日、韓国の龍仁（ヨンイン）大学校において、金正幸総長以下10名、本学は朴澤学長、斎藤浩二教授、朴准教授が出席のうえ、調印が執り行われ、学生の交換留学に関わる事項の締結がされました。これは、昨年1月21日に同大学校と学術交流に関する協定が締結し、その後、学生の交換留学に関わる事項について両大学で協議した結果、本学は体育学科・現代武道学科、龍仁大学校は武道・体育大学の学生交流を目的とする合意が得られたためです。

調印終了後本学一行は、龍仁大学校の武道大学警護学科等の施設を視察し4月の本学の現代武道学科開設に向けて、資料収集と情報交換を行いました。

（斎藤浩二教授より情報提供）

龍仁大学との交流については次頁でも紹介→

目次

龍仁大学との交換留学に関わる事項締結	1
東北リコー(株)支援事業	2
楽天の選手が本学で低酸素トレーニング実施	3
管理栄養士 対策合宿講座 避難訓練を実施	4
学生の活躍	5
東京事務所が移転 オリジナルグッズ紹介	6
仙台大のタカマスカ登場 明成高のお弁当が商品化	7

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email: kouhou@scn.ac.jp

ヨ イン チョン ソン スク キ ム ジン ファン

龍仁大学の鄭 成淑学科長、金 鎮煥教授が来訪



1月27日（木）に龍仁大学の警護学科長である鄭 成淑教授と、金 鎮煥教授が来訪し、両大学の国際交流に関することや、本学が平成23年4月に開設する現代武道学科に関する打ち合わせを行いました。また、鄭 成淑教授と金 鎮煥教授に講演（龍仁大学校警護学科の教育概要）を頂きました。講演会では、はじめに龍仁大学の紹介VTRが放映され、同大学が誇る「国際大会も開催できる芝生運動場」、「国際セミナー等を開催するコンベンションセンター」、「オリンピックなどの国際大会で学生が獲得したメダルなどが展示された武道・体育展示館」、「地域開放している大型ゴルフ場」、「大学博物館」などの施設や、「韓国一の奨学制度」、「各方面へのスクールバスの整備」などの充実した教育環境が紹介されていました。VTRからは龍仁大学が「学生のための大

学」、「人間中心の大学」というメッセージが伝わってきました。その後、鄭学科長より龍仁大学警護学科の教育概要の説明があり、金教授からは、韓国の公的警備と民間警備の現状と課題や、本学において武道警護学を展開するに当たった留意点のアドバイスがありました。

お二方とも、龍仁大学の警護学科において、一年生からまず身につけさせることとして、一番重要で、最優先に教えるべきことは、「人間性の涵養」と「道徳性」を身につけさせることであると強調されていました。

講演会には、新学科開設にあわせてあらたに4月より教員に着任する先生方にも出席いただき、龍仁大学の先生方と活発に意見交換するなど、たいへん有意義な講演会となりました。

東北リコー(株)支援事業



1月28日(金)に山口講師が東北リコー(株)で社員を対象にリフレッシュ体操の指導を行いました。これは、平成22年3月に締結した「健康増進支援協力」事業の一環であり、佐藤久准教授のノルディックウォーキング講習、篠田講師のリ

フレッシュ体操、橋本教授の健康教室に続いて、今回が4回目の実施です。

東北リコー(株)の社員は健康に対する意識も非常に高く、お昼休みには同社の敷地内に設置された約1.5kmのウォーキングロードを歩く社員の姿が頻繁に見られるそうです。今回行ったリフレッシュ体操は、仕事の合間にできる体操をと、山口講師が考案したものです。今後も地域に根ざした仙台大学となるべく、今後の地域交流・地域貢献が進められていきます。



東北楽天ゴールデンイーグルスの選手が本学で低酸素トレーニング実

新人選手7名



東北楽天ゴールデンイーグルスの新人選手7名(塩見選手、美馬選手、阿部選手、榎本選手、勸野選手、木村選手、川口選手)が本学に1泊2日(1/17、18)の日程で、体力測定および低酸素トレーニングを行いました。17日には身長・体重・体脂肪率・動体視力などの基礎測定と、専門機器を使用して最大酸素摂取量と膝屈曲伸展の計測を行い、夜は標高2500mと同等の酸素濃度(約15.4%)に設定した低酸素室に宿泊しまし

た。18日には、低酸素状態でバイクトレーニングを行い、さすがの選手たちも終わった後には辛そうに横たわっていました。今回行った低酸素トレーニングは、血液の酸素運搬能力の向上や筋肉の酸素消費能力を改善し、基礎体力を向上させる効果が期待できるものです。本学でトレーニングを実施した新人選手の飛躍が期待されます。

なお、このもようはNHK仙台放送などの報道関係前13社からの取材を受け、NHK全国版でも放映されました。



西村 弥選手、川岸 強投手



昨年に引き続き、東北楽天ゴールデンイーグルスの川岸 強投手と西村 弥選手が、1月28日まで高橋弘彦教授、内丸 仁講師のもとで低酸素トレーニングを実施しました。

西村選手は1月20日から、川岸投手は25日から本学に入り、夜は標高2500mと同等の酸素濃度(約15.4%)の低酸素室に宿泊。起床後は低酸素状態でバイクとランを行った後、クリネックススタジアム宮城に戻り、練習を行うというハードな毎日を送りました。低酸素状態でのトレーニングは想像以上に苦しいものですが、さすがは昨年も経験している両選手。「つらい」、「しんどい」という言葉はもらすものの、普通であれば音を上げるメニューも淡々とこなしていました。自主トレも終盤、本学でのトレーニングが2011年シーズンの活躍に繋がる事を期待したいものです。

管理栄養士国家試験対策 第2回合宿講座開催



仙台大学としては2年目（2回目）となる管理栄養士国家試験対策・合宿講座が昨年同様の日程で1月9日～10日に開催されました。

学内宿泊ということでセキュリティ面やインフルエンザ等への注意を徹底し、参加者全員が無事故・健康で終えることができました。

参加者からは、合宿全般について「費用が安く良い」「卒業してずっと一人だけの勉強を強いられてきたので、卒業生同士が久しぶりに懐かしい母校で再会し合宿勉強できたことは大変刺激となり、モチベーションも上がって

ます。絶対合格するぞとの思いで最後まで挑んでいきたいと思います」ということや、期間中に行なわれた東京アカデミー講師による特別講義については「独学での限界を感じていた分野が今回の講義でポイントがわかりやすく入ってきた。」「あいまいにしかわからなかったところが明確に理解できるようになった」等々の感想が寄せられました。

参加者：7名（昨年は9名）

- ・新助手3名（昨年は4名）
- ・大学院生1名（昨年も1名）
- ・上記以外の卒業生3名
（昨年は4名<このうち2名が国試に合格>）

<仙台大学修練会より情報提供>



避難訓練を実施



仕事納めの12月28日（火）に柴田消防署の指導の元、避難訓練を行いました。D棟（25記念館）の調理実習室が火元という想定で訓練は行われ、サイレントと校内アナウンスの後、教職員が一斉に噴水前に非難し、担当職員は避難経路の確認と放水を体験しました。総括では、柴田消防署の方より、「大学には学生も多く在籍しているので、万が一火災が起きたときは教職員の方々には冷静な判断を心掛けていただきたい」との話がありました。



スケルトン・ボブスレー全日本選手権大会



12月25、26日にスケルトン・ボブスレー全日本選手権大会が行われ、スケルトン男子では高橋弘篤選手（システックス／仙台大学平成18年度卒）が初優勝。女子は小室 希選手（仙台大学大学院）が2大会連続3度目の優勝、大向貴子選手（長野市役所／仙台大学平成18年度卒）が2位に入りました。
ボブスレー男子4人乗りでは、鈴木寛選手（マ

ネックス証券／平成7年度卒）と今井功太選手（体育学科2年）が同じチームとして出場したソリが優勝しました。

今大会には「伊達なSport Project」（<http://www.sport-project.jp/>）の柴田高校生3名が初めて公式大会の場を踏み、2012年の行われるユースオリンピックに向けて、大きな第一歩を踏み出しました。

スケルトンのアメリカンズカップに学生3名が参戦



スケルトンのアメリカンズカップに参戦している谷藤祐貴たにふじゆうき（体育学科3年）、小沢まりこざわ（体育学科4年）、米倉理絵よねくらりえ（運動栄養学科2年）の3名が、国際舞台でも好成績を残しています。1月14日に行われた第5戦レイクプラシッド大会では、小沢まりが6位入賞、続く第6戦カルガリー大会では、谷藤と米倉がそれぞれ男子・女子の部で6位入賞を果たしました。アメリカンズカップも残り3戦。更なる上位入賞の報告を聞かせてくれることでしょう。

2011年 初漕ぎ ～漕艇部員が優勝の決意表明～



1月6日（木）早朝に、漕艇部の初漕ぎ会が白石川で行われました。

会には早朝にもかかわらず朴澤学長も参加し、「今の練習環境があるのは先輩方の活躍があったからこそです。今年は創部10年の節目の年でもあるので、皆にも先輩達以上の活躍を期待します。」と選手を激励しました。

選手も一人ずつ土手の上から今年一年の決意にしむらみつおを述べ、その中で西村光生主将（体育学科3年）は「創部10年目。全身全霊を込めてインカレ・全日本選手権で必ず優勝します」と力強く誓いました。

その後、選手はそれぞれの艇に乗り、今年初めてのトレーニングを行いました。

仙台大学東京事務所を移転

～遠隔授業による東京からの情報発信が可能に～

平成19年に設置された仙台大学東京事務所（文京区）が、本郷から湯島に12月1日(水)に移転しました。住所こそ変わりますが、旧事務所から数分のところ。最寄駅は、地下鉄丸ノ内線及び大江戸線の「本郷3丁目駅」からも7分程度のところ。東大の竜岡門から数分のところに位置し、静かな環境のマンションの一室です。右図に示す通り、以前よりもスペースが広く、部屋数も多いため、

- ① マルチメディア利用による東京からの仙台大学本部への遠隔授業が可能となり、首都圏の講師陣からの最新の学術・研究情報をタイムリーに収集し提供が可能になると期待されております。
- ② また、地下鉄丸ノ内線の東京駅から本郷3丁目駅まで7分でアクセスでき、そこから徒歩で7分程度の好立地にあり、また、上野駅からのアクセスも容易です。従って、学生の皆様の就職活動拠点としての利用も念頭に置き、新事務所では、学生の皆さんの就職活動に必要なデスク、コンピュータも揃えております。
- ③ 更に、学生の皆様、教職員の皆様の希望・要望に応じ、機能の拡充を図っていく予定です。

住所は・・・ 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-10 フドウ山本ハイツ404号室
電話番号（FAX兼用）03-3814-9769（旧事務所と同様の番号です）最寄駅からのアクセスの地図は、右の通り。



大学オリジナルグッズ 新商品

大学オリジナルグッズプロジェクトチーム（P/T）では新商品を企画・製品化しています。この度、新しいグッズ2点が新発売となりましたのでご紹介します。

～仙台大学限定～
キューピーストラップ
¥500

定期券入れ
¥1500



チョットいい話・・・仙台大学のタイガーマスク登場

1月31日(月)、柴田町役場の平間課長より、事務局長室に一本の電話がはいりました。

1月29日の土曜日、今シーズン一番の大雪が降るしきるなか、町役場の玄関前に「仙台大学有志」の名前でランドセル1個と、文房具が「児童福祉施設に渡してください」とのメッセージとともに届けられたそうです。

柴田町役場では、町内に児童福祉施設はないので県と相談して県内の児童福祉施設に早速届けることにしましたとの連絡がありました。

メッセージには「来年もきます」と書いてあったそうです。

御礼を含め、上記の連絡がありました。

平成23年1月31日
事務局長 より



※画像はイメージ

明成高校が県知事賞を受賞／高校生お弁当コンテスト



県知事賞受賞：明成高校「おにぎりサンド弁当」

宮城県主催の第1回 高校生お弁当コンテストで、明成高校調理科の「おにぎりサンド弁当」が県知事賞（優勝）を受賞しました。宮城県内の食材をふんだんに使い栄養バランスの取れたお弁当に仕上がっています。このお弁当が、県内のセブンイレブンで期間限定（1/25～2/7）で販売されています。是非、ご賞味ください。

なお、明成高校では高校入試(2/3)の際に、引率される中学校の先生方に配付し、ご賞味いただくこととなっています。



期間限定でセブンイレブンから販売されている
「おにぎりサンド弁当」

Monthly Report

Vol.57 / 2011 Feb.

第5体育館 完成間近

建設中の第5体育館の外観を覆っていた足場やネットが外され、巨大施設の全容が見えてきました。東側側面には「仙台大学」の文字が見て取ることができます。完成まではあと1ヵ月となりました。待ち遠しい施設です。



目次

第5体育館 完成間近	1
学生相談室主催研修会 伊達PRO海外合宿	2
宮城県栄養改善学会 ジュニア・アスリート指導者研修会	3
短期留学プログラム 仙台大学高校会	4
中国国費留学生	5
修士論文最終発表会	6
DAN DAN DANCE & S PORTS 7th	7
学生・OBの活躍	8

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email: kouhou@scn.ac.jp

学生相談室主催研修会

「発達障害を抱えるまたは疑われる学生の理解と支援」

＜学生相談室より＞

2月15日、A棟2F大会議室にて、宮城教育大学
教職大学院教授・特別支援総合研究センター長

せきぐちひろひさ

である関口博久氏をお招きして、「発達障害を抱えるまたは疑われる学生の理解と支援」をテーマに教職員への研修会を開催し、学生含め教職員約40名の参加がありました。

今研修では、まず特別支援教育についての解説があり、現在どのように発達障害という言葉が使われているかなど基本的な説明がありました。その上で50人に1人程度は、発達障害を抱える、または診断は受けてなくても疑われる学生とのことでした。つまり「凄く特別なことではない」ということでした。

また架空事例3例を通し、実際にどのようなことで困っているかについての解説がありました。発達障害と言っても、一人一人抱えている問題は異なります。そのため発達障害の特徴を理解した上で、その学生が何に困っているかを知る必要があるとのことでした。さらに宮城教育大学内での、発達障害を抱えた学生への支援事例の紹介もありました。両親とのコミュニケーションの重要性、周囲の学生の理解や、本人の意思を何より大切にしたい関わりについての内容でした。

発達障害を抱える学生の支援においては、①



理解がなければ、支援は出来ない。知識を深めることが重要。②診断名でその人を見ないこと、人の性格特質の一つ。③その時々困っていることに寄り添うこと。④本人の希望を大切にする。本人が気づくのを待つこと。などが重要になるとのことでした。このことは発達障害を抱える学生だけではなく、すべての学生支援に繋がるものと考えられました。学生一人一人を理解し、その時困っていることに寄り添い、本人の気づきを見守るような学生支援が、求められているのではないのでしょうか。

学生相談室主催の研修も、今年で3回目となりました。その時々にあった内容をと考えておりますので、取り上げて欲しいテーマがありましたら、是非ご指案下さい。

「伊達なSPORT PROJECT」海外合宿



「伊達なSPORT PROJECT」の選手がオーストリア・インスブルックで強化合宿を行っています。インスブルックは、このプロジェクトが目標しているユースオリンピック（2012年1月）の開催地です。実際のコースを体験すること、海外選手と共に練習する事で多くのことを学び取ることが今回の合宿の目的です。合宿は19日から26日で、現地での様子は「伊達なSPORT PROJECT」ホームページでご覧いただけます。

「伊達なSPORT PROJECT」アスリートブログ

<http://www.sport-project.jp/athleteblog/11-2/athleteblog11-2.html>

第45回宮城県栄養改善学会



2月19日（土）に（社）宮城県栄養士会は主催する「第46回宮城県栄養改善学会」がフォレスト仙台で開催され、本学からは津吉講師と高橋杏奈さん（運動栄養学科4年）が発表を行い、丹野准教授が司会を務められました。この学会は県内の栄養士が一堂に会し、日頃の研究成果の発表や意見交換・交流することにより資質の向上と栄養改善に寄与する事を目的に、毎年開催されているもので、約100名の参加がありました。

津吉講師の発表では「大学生アスリートに対する栄養サポート活動が選手に与える影響」と題して、栄養サポートの対象となっている運動部に所属する学生へのアンケート調査結果から、栄養サポート活動が選手の食生活や競技生活の一部に望ましい影響を与えていることを紹介し、今後の課題として居住形態や性別なども考慮した栄養サポート活動を実施していく必要があり、それらに対応したサポートプログラムを開発していきたいと話しました。聴講者からは「小学生・中学生への運動栄養のアプローチが必要」という声や、「子供向けパンフレットを作ってほしい」との大学への要望も出されていました。

高橋さんの発表では「競技力向上に貢献するための栄養サポートのあり方に関する一考察」と題して、日頃の運動栄養サポート研究会の取組みを紹介したとともに、B・L・S部で行った栄養摂取状況が身体組成及び競技成績に与えた影響について調査した結果を報告しました。

「平成22年度 宮城県ジュニア・アスリート指導者研修会」開催

～宮城県体育協会・スポーツ情報マスメディア研究所連携事業～



2011年2月19(土)・20(日)の2日間、仙台大学を会場に宮城県ジュニア・アスリート指導者研修会が開催されました。研修会には、様々なスポーツで活躍する宮城県内の小中学生とその指導者、合わせて20名が参加しました。

この研修会のテーマは、「トップアスリートを目指すきっかけづくり」です。1日目は、仲間の大切さを認識し、協力することを目的とした体験的なプログラムや世界の同世代のアスリートの活動を知るプログラムを行いました。2日目



には、コミュニケーションの基礎となる伝え方や質問をすることを学ぶプログラムや食育プログラムとして調理実習が行われました。最後に宮城県のスポーツの未来を考えるためにディスカッションが行われ、「競技力だけではなく、アスリートの幹となる部分を育てたい」

「研修会で学んだことを発信し、宮城県全体で情報を共有したい」など、多くの意見が参加者全員から出されました。

台東大学、カヤーニ応用科学大学へ短期留学



朴澤学長に出発の報告(2月9日)

学生4名が短期留学プログラムを利用して、本学が国際交流協定を結んでいる台東大学（台湾）とカヤーニ応用科学大学（フィンランド）に短期留学します。台東大学には永井希（体育学科3年）が2月28日から3月28日、カヤーニ応用科学大学には中津範洋（大学院1年）、恒田三加（運動栄養学科2年）、狩野良介（体育学科1年）の3名が2月21～3月15日まで滞在します。留学中は講義に参加するとともに、学生との交流を深める予定です。4名ともに国際交流と語学への興味を持っており、一回り成長して帰ってくることでしょう。

永井 希

平成21年9月の日本大学生訪中団員として中国にわたってから外国語に興味を持ち、独学で勉強してきました。今回の留学では自分の語学力がどれだけ通用するかを試し、更に向上させてきたいと思っています。

中津範洋

世界中の注目を集めているフィンランド教育と、その社会の側面を直接肌で感じてみたいと思ったのが留学を決めた大きな理由です。フィンランドで教えられている教育学を学び、グローバル化が進む中での教育の在り方を探てきたいと思います。

恒田三加

英語が好きで、今回の機会を活用したいと思い、参加を決めました。また、フィンランドではフロアボールが授業に取り入れられているほど盛んで、世界選手権では常に上位にいる強豪国です。私はフロアボール同好会に所属しているので、どのような練習に取り組んでいるのか楽しみです。

狩野良介

カヤーニ応用科学大学には高橋悠さん（スポ情3年）が長期留学中なので、心強いです。私も留学中は積極的にフィンランドの学生と交流を持ち、語学力を伸ばすように努めたいと思います。フィンランドがどういう国なのか、また、海外からは日本がどう見えるのか楽しみです。

仙台大学高校会 総会・懇親会



2月19日（土）にホテル白萩(仙台市)において、「仙台大学高校会」の総会・懇親会が開催されました。この「仙台大学高校会」は宮城県内の高校に勤務する本学卒業生が会員となり、高校における体育活動の健全な普及発展と、母

校である仙台大学の発展並びに教職を目指す後輩の育成に寄与するために組織されています。

当日は高校会から36名と本学から教職員18名が出席し、今年3月で退職される遊佐 悟先生（3回生／鶴谷特別支援学校）に対して会長の滝川雅啓先生（4回生／石巻支援学校）より花束が贈呈されるなど、終始和やかな雰囲気の中で会は進行しました。朴澤学長はじめ本学関係者の挨拶では、本学の取組みの紹介や同窓生教員推薦への協力が確認されました。最後は本学名誉教授の熊坂繁太郎先生の万歳三唱により大学と同窓生教員との連携強化を確認し、盛会裏に終了しました。

中国に国費留学中の日野さん、金井さん、安部さんが一時帰国

東北師範大学に国費留学中の日野晃希さんと金井弘順さん、上海体育学院の安部孝太郎さんが一時帰国し、元気な姿を見せてくれました。

ひのこうき

日野晃希さん（東北師範大学大学院）



仙台大学大学院を3月で修了し、東北師範大学大学院を7月で修了する予定です。3年目となる今年は中国文化にも中国語もマスターし、生活するうえで不自由することもなく、中国国内を旅行して歴史や風土に触れ、楽しんでいます。

東北師範大学は北京や上海のように留学生が大勢いないので、中国人の中でどっぷり中国語を学べる環境にあり、実際、北京や上海の留学生が、母国語で生活できる環境がありすぎて中国語を使う機会が少ないので、長春に転入してくる場合もあるほど。留学生のための中国語のレベルを分けてシステムが整っているところは良いので是非、東北師範大学留学をお奨めしたい。

かないひろのぶ

金井弘順さん（東北師範大学）



現在3年で残り1年半。9月で日野さんが修了するので、仙台大学からの東北師範大学留学生は2人になってしまうので、向井智さんと頑張っていきたいと思っています。

仙台大学の諸先生方には昨年

10月から遠隔授業をしていただき、たいへんお世話になっています。栄養士の単位と教職科目、一般科目を私一人のために授業してくださるので、たいへん有り難いです。

仙台大学の同級生は今年3月で卒業を迎えるので、卒業式まで日本に残り、皆を見送ってから中国に戻ります。

あべこうたろう

安部孝太郎さん（上海体育学院大学院）



中国滞在中も2年目で、中国語にはだいぶ慣れ、上海体育学院に国費留学している3人で切磋琢磨して頑張っています。

南京大学に留学中の日本人学生が中心となり、中国のハンセン病患者の隔離施設「ハンセン病村」でのボランティア活動をしている。ハンセン病は感染力・発病力は非常に低く、隔離する必要はない病気であることは知られているが、かつて30万人を超すハンセン病患者を指摘された中国では、未だに全国で600以上の「ハンセン病村」が存在している。私は同じく上海体育学院に留学中の伴 和暁さんとともに南京にある村でのボランティア活動に加わり、これまで3回、長い時で8日間にわたって滞在して交流を行い、道路舗装や野菜の収穫の手伝いを行いました。この活動は今後も続けていこうと思っています。

女子サッカー部監督の黒澤尚新助手が2大会連続でユニバーシアドGKコーチに就任



2011年8月に開催される第26回夏季ユニバーシアド深圳大会の日本女子サッ

くろさわたかし

カー代表のゴールキーパー（以下=GK）コーチに黒澤尚 新助手が就任しました。ユニバーシアドGKコーチを務めるのは2年前のベアグラード大会に続いて2度目です。前大会では決勝戦で韓国代表に敗戦を喫しているだけに「チーム目標は金メダル獲得。私の役割はゴールキーパーを中心とした守備面の強化を任されているので、今後の代表合宿で強化に励んでいきたい」と話しています。

平成22年度 修士論文最終発表会



2月15日(火)E301教室において平成22年度修士論文最終発表会が開催されました。発表者はいずれも2年コース終了予定者で、現在北海道美深町職員の前田研吾さん(元スポーツ情報マスメディア研究員)や、中国国費留学中の日野晃希さんも一時帰国しこれまでの研究の成果を発表しました。今年度の発表者は以下表のとおりです。(写真は石川琢磨さん)

また、前大学院研究科長の佐藤佑名誉教授にもおいでいただき最後までそれぞれの院生の研究成果発表に耳を傾けて下さいました。大学院の先生方からも活発な質疑がなされ、丸山研究科長からの総評をいただき今年度の発表会が終了しました。

発表者 (2年コース)

宮本 学	日本における国レベルのスポーツ政策形成過程に関する研究
前田 研吾	子どものスポーツ活動の促進に向けたスポーツ振興の検証と課題 ー北海道美深町における子どもを対象としたスポーツ振興の取組み指導からー
唐 志豪	中国におけるスポーツ・ニュースウェブサイトの発展過程と利用者の意識に関する一考察
及川 直人	体育における「楽しさ」の取り扱い方の変遷に関する研究
日野 晃希	生涯スポーツを志向する体育学習における「手段的/目的価値」の取り扱いに関する研究 ～「楽しい体育」論を手がかりとして～
安達 崇晃	呼吸筋ウォームアップが自転車運動におけるパフォーマンスと呼吸循環応答に及ぼす影響
祁 聖傑	バスケットボール、サッカーおよび陸上競技短距離選手の足関節筋力 および関節可動域から見た競技特性
渡邊 斌	S高校男子バスケットボール選手の体力特性と運動強度
難波 昇吾	低酸素気吸入がその後の呼吸循環器系に及ぼす影響
黄 聡	低酸素トレーニングの個人差
南條 佑太	中高一貫教育校の現状と課題 ー中等教育学校、併設型中高一貫教育校を対象にー
大道 有起	特別支援学校における自然体験活動の阻害要因 ー障がい種別に着目してー
佐藤佳代子	『保健だより』に関する一考察 ～雑誌『健康教室』に掲載された機能の推移と1987・2010年の製作実態に関する比較～
馬 冬梅	ネット・コミュニティーマーケティングの分析 ーナイキとレノボの対策を事例にー
高野 洋平	受傷した選手のソーシャル・サポートと受傷時の心理状態の認知構造との関連について
平良 拓也	食事摂取タイミングおよび栄養バランスが食事中および食事後のエネルギー代謝に及ぼす影響
高橋 大輔	コンプレッションウェアの着用が運動及び休息時に与える影響について
石川 卓磨	テーピングが膝前十字靱帯再建術後の運動機能に及ぼす影響に関する検討
別府 晃至	円皮鍼刺激がボート選手の長時間のローイングパフォーマンスに及ぼす影響について
畑中 佑介	野球の投球運動における映像自己観察に伴う指導の事例研究 ー自己観察能力およびパフォーマンスへの影響ー

DAN DAN DANCE&SPORTS 7th



2011年1月29日（土）今回で7回目となる「DAN DAN DANCE & SPORTS 7th」が、大河原町えぞこホール（仙南芸術文化センター）において、えぞこ芸術のまち創造実行委員会の共催で開催されました。

本会の実行委員メンバーは、本学の在学生および卒業生で構成され在学生会は篠田研究室のゼミ生とブレイキン同好会、そしてダンスII（講義）を受講した学生に加え、丹羽研究室の新体操部員、男子新体操同好会ほか、ボランティアも合わせると総勢41名で本会の運営を支えました。

例年ご参加いただく団体のほかに地域の方々にも参加を呼びかけ、当日は約400名を超える方々

にご来場をいただきました。仙南地区や仙台を拠点に活動するダンスグループなど全30組が出演し日頃のパフォーマンスを披露しました。本学からは新体操競技部、体操競技部、ブレイキン同好会、チアリーディングチームほか賛助作品が多数出演し、華麗、かつパワフルな演技で会場を魅了しました。

ご出演いただいた皆様、そしてご来場いただきました皆様、本会にご参加いただく為に多くの時間を割いていただきましたこと心より感謝申し上げます。有難うございました。

来年度は、2012年1月28日（土）同会場で開催いたします。奮ってご参加ください。

湧くわくダンス

コーチング実習（ダンス）の一部としても開催されている「湧くわくダンス」は、DAN DAN DANCE & Sportsの舞台で、一般の方にも気軽に参加していただき、学生が振り付けや指導までを担当する参加型ダンス企画です。今年は、幼稚園児～70代までの幅広い年齢層で構成された46名が集まり「7th湧くわくダンスチーム」が結成されました。12月2日から毎週2時間計7回の練習・リハーサルを経て「DAN DAN DANCE」の本番で無事成果を発表することができました。



浜崎あゆみ「SUN RISE」の曲にあわせて

振り付けを担当した緑川 隆さん （体育学科3年）



今年は小さい子も多かったので、楽しめる音楽を選曲しました。振り付けでは、盛り上がるところは弾け、静かなところには静かにと動静の曲調や歌詞の言葉の意味を表現し、いろいろな動きを組み合わせで振り付けました。完成後、イメージが伝わっているか篠田先生をはじめブレイキン同好会のメンバーにも確認して、より楽しく、より分かり易い内容に仕上げたつもりです。

練習日の初回は、集まってくれたメンバー全員の交流を図ることをメインにし学生側から積極的にかかわってこうと学生全員で心がけました。その甲斐あって、メンバー同士が本番までよいチームワークで練習を進めていくことができ、毎回一生懸命振り付けを覚えていく様子や休憩中にも交流の輪が見られ、教える側として、メンバーの成長がとても嬉しいことでした。本番は真剣そのもので一番よい演技ができたのではないかと思います。

これまで、泉区の児童センターで「ブレイクダンスを教えてほしい」との依頼で小学生を教えた経験があったこともあり、指導者をめざす自分にとって子どもと接する場をいくつも踏めたことはとても貴重な経験となりました。イベントやボランティアなど、要請があったら積極的に参加し、様々な経験を後輩へもつなげていけたらと思っています。

学生が鬼首小学校でスキーサポート



学生ボランティア有志が1月28日、2月4日の両日、大崎市立鬼首小学校（村石好男校長：本学11期生）の児童40名に対してスキー指導を行いました。豪雪地帯にある鬼首小学校では全校を挙げてスキー活動（クロスカントリー、アルペン）に力を入れて取り組んでおり、今回、指導の充実を図ろうと、体育大学である本学に支援の要請があり、実現したものです。

スキー実習はオニコウベスキー場でクロスカントリースキーが行われ、学生たちは「元気に頑張ろう」と声を掛けながらコースを滑り、上達を促しました。今回、ボランティアを行った学生の中には教員志望や4月から小学校教諭となる学生も複数名おり、「指導の現場を経験で

き、子供たちから元気をもらった」という声も聞かれ、小学生との交流が楽しかったようです。4日の指導終了後には感謝の意をこめて、村石好男校長よりボランティア活動証明書が学生一人ひとりに手渡されました。同校への支援は今後も引き続き行っていく予定です。

学生ボランティア

しむら かずや
志村 和哉（体育4年）
えんどう けんた
遠藤 健太（体育4年）
たくさり ひかる
田鎖 光（体育4年）
ほし しょうご
星 昭伍（健福4年）
いとう りょうへい
伊藤 良平（体育3年）



奥埜博亮が3年連続でJFA・Jリーグ特別指定選手に承認



おくのひろあき
奥埜博亮さん（体育学科3年）が3年連続で大学に在籍しながらJリーグの試合に出場できる「JFA・Jリーグ特別指定選手」に承認され、2011シーズンもベガルタ仙台の一員としてプレーすることが決まりました。

奥埜さんは明成高校・ベガルタ仙台ユース出身。中学から各年代の選抜チームでプレーし、2002年のU-13日本選抜、2005年のU-16日本代表などに出場しています。大学でも中心選手として活躍し、今年8月に開催される「第26回夏季ユニバーシアード深圳大会」の候補選手が集まる全日本学生選抜にも名を連ねています。奥埜さんの益々の活躍が望まれます。

なお、奥埜さんが全日本学生選抜として出場する3月4～6日のデンソーカップ（会場：J-GREEN 堺）には「北海道・東北選抜チーム」として平野洋輔、木内瑛、蜂須賀孝治、黒田涼太、森田光哉の5名が出場しますので、是非ご注目ください。

ベガルタ仙台ホームページ

「仙台大学・奥埜博亮選手 2011年JFA・Jリーグ特別指定選手として承認のお知らせ」

http://www.vegalta.co.jp/contents/news/press_release/2011/02/-2011jfafaj.html

体操のスタンフォード・オープン2011に4名が出場



※日本体操協会HPより

日本体操協会のU-21強化選手に指定されている佐藤亘さん（体育3年）、宗像陸さん（体育3年）、石原大さん（体育3年）、富澤祐太さん（体育2年）の4名が、2月19日に米国サンフランシスコで開催されるスタンフォード・オープンにU-21日本代表として出場しました。宗像さんが跳馬で最高得点（16.300）をマークするなど各々が持ち味を存分に発揮し、日本チームの優勝に貢献しました。

得点の詳細は日本体操協会ホームページでご確認ください。

日本体操協会ホームページ

<http://www.jpn-gym.or.jp/artistic/2010/result/pdf/11stan.pdf>

U-21強化指定選手

いしはら ひろし

石原 大（体育学科3年）

むなかた りく

宗像 陸（体育学科3年）

さとう わたる

佐藤 亘（体育学科3年）

とみざわゆうた

富澤祐太（体育学科2年）

船山弘希が全日本学生スノーボード選手権大会2連覇



写真：スクール校長のブログより
※手前が船山弘希さん

1月29、30日に長野県白樺湖ロイヤルヒルスキー場を会場に第23回全日本学生スノーボード選手権大会が開催され、船山弘希さん（健康福祉学科3年／スノーボード同好会）がジャイアントスラローム（GS）とスラローム（SL）の2種目で2連覇を果たしました。

船山さんは塩釜高校（宮城県）出身。4歳から父親の奨めでスノーボードをはじめ、スラロームの虜に。その才能は直ぐに花開き、高校3年時に全日本ジュニア選手権（18歳以下）で優勝す

るなど頭角を現した。そして、幼少の頃から憧れの存在であった鶴岡剣太郎選手（平成8年度卒／トリノ冬季五輪代表選手）の母校である本学に進学した。

プロスノーボーダーを目指し、週末は日本スノーボード協会（JSBA）の公認競技会を転戦している。2月に行われた全日本の予選会第29回全日本スノーボード選手権大会東北地区予選デュアルスラロームレース」を優勝、ポイント獲得のために遠征した「関東地区予選デュアルスラロームレース」でも優勝した。ポイントランキングは2月18日現在で6位としており、「プロ資格の条件であるシーズンランキング8位以内に入るために3月に開催される全日本選手権で結果を残す」と意気込んでいる。これからも船山さんの滑りに注目したい。



ポイントランキング（2/18現在）日本スノーボード協会HP

http://www.jsba.or.jp/rankings_all/2010/tour/tour_sl_m.pdf

青年海外協力隊のOG・齋藤まりさんからの便り

本学卒業後、JICAの青年海外協力隊として2年間、マレーシアの施設を巡回してニュースポーツやレクリエーション指導・提供を行っているOGの齋藤まりさん（平成21年度運動栄養学科卒）から小池教授に届いたメールを紹介します。（本人了承済み）



~~~~~  
マレーシアに来て8カ月が経ち、活動の方にももだいぶ慣れ、素晴らしい環境で日々学ぶことができる生活に、とても感謝しています。日本を出てチャレンジして本当に良かったと思えるほど毎日、多くのことを吸収し、成長できていると感じています。時々、ワーカーとのコミュニケーション不足で悩むこともあります。とても良い環境で「悩めるなんて幸せなことだ！」と気持ちを切り替えて頑張っています。残る任期は約1年ですが、私が帰国した後も継続して、地元の人たちで行っていきけるようなアプローチをしていきたいと考えています。学生みなさんもそれぞれの夢に向かって諦めず、チャレンジしてもらいたいです。

卒業式シーズンで小池先生はお忙しい時期かと思いますが、くれぐれもお体にお気をつけてください。  
齋藤まり  
(一部抜粋)  
~~~~~

JICA「世界の笑顔のために」プログラム活動に御礼状

本学では学内で不要となった物品（主にスポーツ用品）を学生が主体となって回収し、JICAを通して開発途上国の子どもたちに届け、役立てていただいております。本学が提供した物品が届けられたミクロネシア連邦から御礼状が届きましたので一部ご紹介します。



仙台大学学生支援センター 御中

私はウトエセンターポイントの代表として、この素晴らしい贈り物をくださった皆様やその周りの協力的な日本の方々へ深い感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。本当にありがとうございます。

ウトエセンターポイントは、政府に属さず利益を追求しない新しい組織で、ミクロネシア連邦コスラエ州ウトエ地区にあり、自然環境やその周りのエコシステムの保全、伝統的な習慣や文化の保護、またスポーツの普及やレクリエーションプロジェクトの促進などを行っています。

皆様から寄贈いただいた野球道具は、現在私たちの地域の野球チームによって行われている健康促進プロジェクトの大きな一助となると共に、これから野球を始める子どもたちに対して道具の有効活用についてアドバイスを行うことができます。このすばらしい寄贈に対してお礼を申し上げる言葉が見つかりません。

是非とも周りの方々の前でこの手紙をお読みいただき、どれほど私たちが感謝し喜んでいるかをお伝えくだされば幸いです。

この寄贈により、皆が手を取り合い「世界の笑顔のために」新しい友好関係を築いていくことができると私は信じています。

ウトエセンターポイント代表
Anderson Tilfas

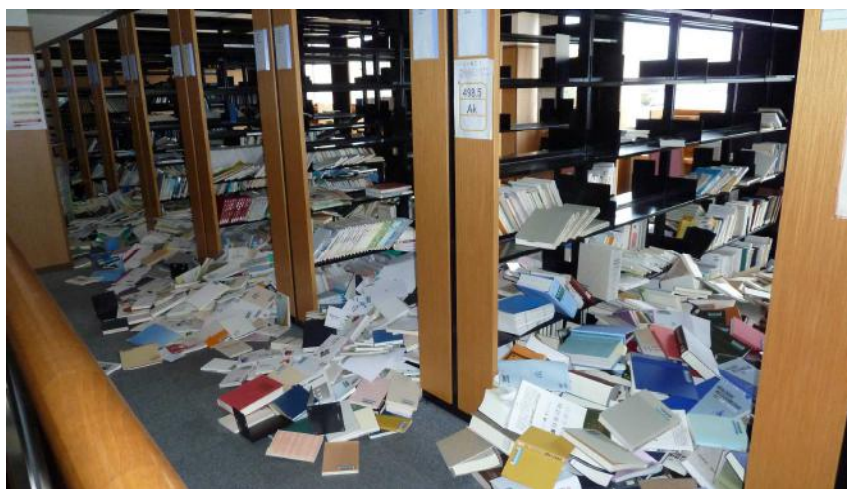
Monthly Report 震災特別号

Vol.58 / 2011.03.31

がんばろう 日本

東北地方太平洋沖地震 (東日本大地震)

日本国内観測史上最大の巨大地震 (M9.0)、
大津波で太平洋沿岸部は壊滅的な被害



写真／仙台大学付属図書館

3月11日 (金) 14時46分頃、宮城県沖を震源とする東日本大地震が発生しました。1000年に一度といわれる未曾有の巨大地震で、日本国内観測史上最大のM9.0という値を示しました。

この地震により、最大で10メートルを超える大津波が発生し、岩手・宮城・福島県の太平洋沿岸部は壊滅的な被害を受けました。死亡者と行方不明者はあわせて2万8000名を越え、本学でも学生2人の尊い命が奪われ、1人が行方不明 (3/31現在) となっており安否の確認を急いでいます。この他、学生や教職員の自宅やご実家が倒壊・半壊・浸水などの被害にあっていることが報告されています。また、大津波によりコントロールを失った福島第1原発の避難勧告、屋内待機地域にご実家がある学生・教職員もおります。本学は福島第1原発より直線距離で約74kmあるため、直接的な被害はないとされる距離に所在していますが、米国をはじめ諸外国は80km圏内に住む自国民に対して避難指示を発していることもあり、今後も予断を許さぬ状況で、一刻も早い収束が待ち望まれます。

～被災された皆さま～

平成23年3月11日 (金) 午後2時46分に発生した東北地方太平洋沖地震 (東日本大地震) におきまして、お亡くなりになられた方に深く哀悼の意を表しますとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

本学に対し、多くの皆様より物心両面に渡る励ましのお見舞いを頂戴し、心より厚くお礼申し上げます。

弔意



3月30日 (水) に実施した教授会の冒頭で、東北地方太平洋沖地震で亡くなられた方々に深く哀悼の意を表し、全教職員により黙祷が捧げられました。

未だ行方不明の方々の安否と、被災されました皆さまの1日も早い復興を心より祈念いたします。

仙台大学地震発生時の記録

震災当日、本学は一般後期試験日でしたが、地震発生時には試験は全日程が終了しており、学内には教職員のみが残っていました。

<14:46 地震発生>

緊急地震速報により、学内に設置された緊急地震速報を知らせるブザーおよび、各人の携帯電話に緊急地震速報が鳴動。その数秒後に地震が発生、立ってられないほどの大きな横揺れが数分間続き、机や棚の引き出しは全開、散乱した。その後、すぐに停電(後に、水道の供給停止も確認)。教職員は地震が一度おさまるのを確認して噴水付近に全員が避難。その後も余震は続き、建物内に入れる状況にないため、教職員は約1時間、噴水前で待機した。その間、男性職員は手分けし、学内に残っている者がいないかを確認。学生には



昨年度開設した「たよれーる携帯緊急メール」により、安否確認のメールが発信された。教職員は16時に解散指示により、船岡に居住する一部の職員以外は帰路に着いた。この時、停電のため電車も信号機も動かない状態であり、大きな余震が何度も訪れる中、道路はすでに大渋滞であった。

仙台大学の被害状況

本学では耐震工事が全ての建物で完了しているため、建物の倒壊など極めて大きな被害はなかったものの、数10箇所の施設・設備に破損が確認されました。

◇主な被害は以下の通り

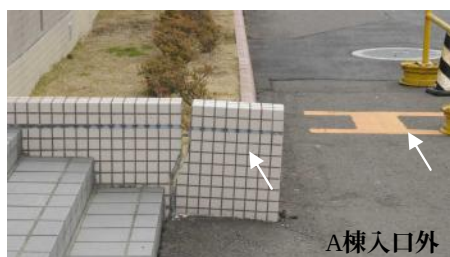
- ・第1体育館のガラス枠の破損（落下の危険性）
- ・第2体育館の天井の一部破損・落下
- ・第4体育館2Fの照明が全て落下
- ・附属図書館と第2図書館の本の散乱
- ・B棟の外壁に亀裂・E棟の壁面タイルの落下
- ・C棟の教室・研究室のガラス破損
- ・構内の複数箇所の地面に陥没と亀裂



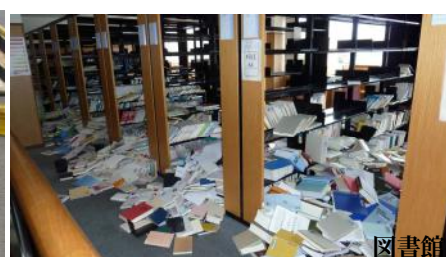
E301教室



E棟外壁



A棟入口外



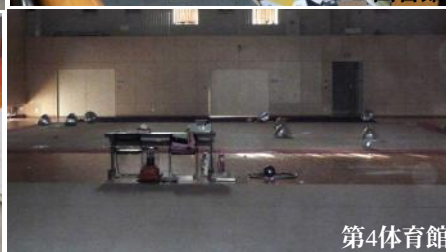
図書館



第2体育館



B棟とE棟の間にある自動販売機前



第4体育館



第3体育館外

避難所として施設を開放

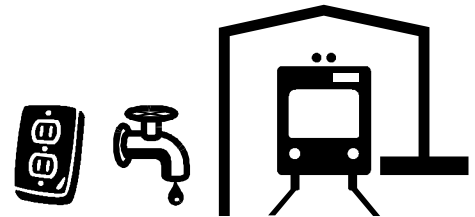
本学は災害時の避難場所となっているため、建物の被害がなかった学生食堂（D棟）を避難場所とし、近隣の住民および学生約300名を受け入れました。

地震発生から朴澤学長、佐々木事務局長、管理課の高田課長・鈴木職員、学生課の高橋課長・平井職員・石森職員、教務課の三浦職員・我妻職員、学生支援室の南條臨時職員・林臨時職員が大学に泊まり込むなどして、休日返上で避難所および大学としての対応を図りました。



地域のライフライン復旧状況

地震により電気・水道のライフラインがストップしましたが、船岡地区は地震から4日目となる15日（火）には電気が復旧。19日（土）に水道が復旧しました。JR東北本線についても、4月上旬に福島駅～仙台駅間の運行が再開する予定となっており、復興に向けて着実に前進しています。



卒業生・在学生・新入生への対応

<在学生への対応>

1. 安否確認について

- (1) 教員がクラスおよび部活動単位で学生の安否を確認。その他の学生には学生課を中心に職員が手分けして学生の携帯電話および自宅に連絡。
- (2) 3月18日現在で安否が確認されている学生名に○印をつけてホームページに掲載。○印のない学生の情報がいないかを呼びかけた。

2. 授業等について

4月末まで休講とし、新学期のオリエンテーションは5月7日（土）・8日（日）、前期の授業開始は、5月9日（月）からスタートとした。

3. 大学敷地内への立ち入りについて

体育館及び建物に立ち入る場合は管理課へ届出を義務づけ、余震が続いているため、安全確保に十分努めるように指導。

4. その他

各種問い合わせは担当部署で対応。

<平成23年3月卒業生への対応>

3月19日（土）に予定していた卒業式は残念ながら中止。卒業証書等の配布物については、大学から安否確認をかねて卒業生（届出の実家住所）宛てに往復はがきを郵送し、返信ハガキに送付先の住所を記入し、返信することで対応。家屋が被災され郵便が届かない場合は、電話などでの連絡を呼びかけた。

<平成23年4月入学者への対応>

4月2日（土）に予定していた入学式は新幹線など交通機関の復旧を前提とし、朴沢学園創立記念日の5月6日（金）に延期。オリエンテーションについては5月7日（土）・8日（日）の2日間を設定。

OBはじめ多くの皆さまから支援・メッセージが寄せられています

今回の震災では、全国各地から被災地に支援物資が送られ、国内外関係なくスポーツ選手や俳優などが支援を呼びかけ、多くの物資・復興基金が赤十字などを通じて贈られています。

本学でも地震当日、熊本県天草市でキャンプを行っていた硬式野球部には天草市のボランティアの協力で部員が大学に戻ってからの食料などをいただいた他、天草市地域の方々から多くの救援物資が寄せられ、これは柴田町社会福祉協議会を通じてより多くの被害を受けた被災者の元へ届けられました。

また、本学のOBも箕輪選手が自身のブログで心配するコメントを寄せたり、電話で大学や恩師である本学の先生方の安否を心配する声が多く寄せられました。

仙台大の卒業生もブログで、仙台大学OBの安否情報を掲載しています

仙台大 ラグビー部OBブログにて安否確認 (OBが中心となって情報集約)

http://blogs.yahoo.co.jp/sendai_col_rugby/19390289.html

サッカー部OBの箕輪義信さんのブログにて安否確認や、被災地に向けてのメッセージ発信中

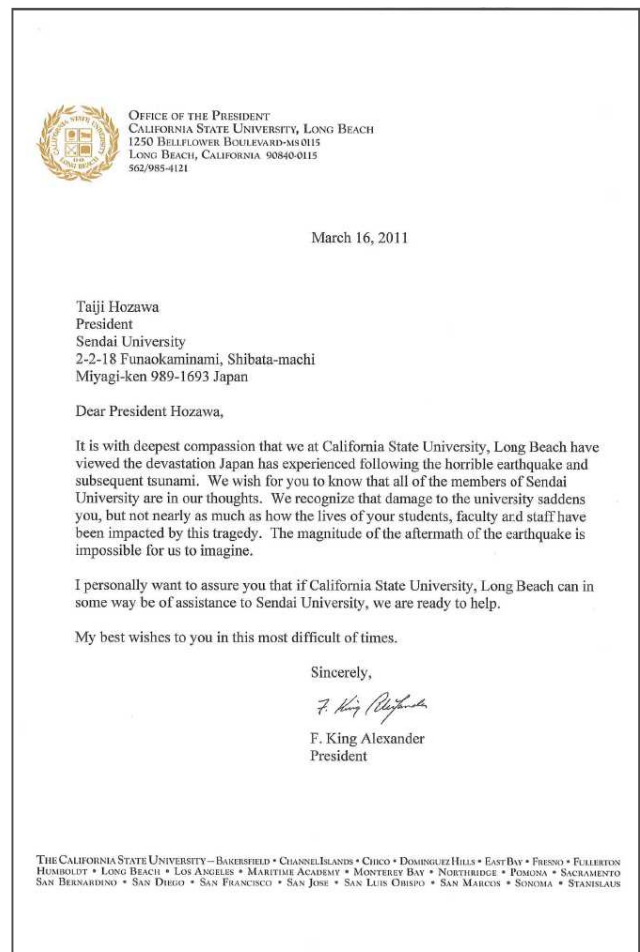
<http://ameblo.jp/minoyoshi/entry-10829832826.html>

理事長・学長宛のお見舞い状

～国内外から寄せられた応援メッセージ～

大震災後、朴澤理事長・学長宛に、国内外の関連各位、提携している大学他より大変親身なメッセージが多々届いています。(3月30日現在：国内＝15、海外＝18)

その中の一つであるカリフォルニア州立大学ロングビーチ校学長のキング・アレキサンダー氏からは「この度の震災に際し、心からお見舞いを申し上げ仙台大学の学生・教職員、関係者みなさんが無事であることを切望します。私達がみなさんと共にいることをどうぞ忘れないで下さい。1日も早い復興を心よりお祈り致します。」との書面をいただきました。また、中国青海省体育研究所の馬研究所長からは「仙台大学に是非寄付をしたい」、ハワイ州立大学アウトリーチ校前学部長のピーター・タナカ氏及びアスレティックトレーナー関係者からは「ハワイですでに義援金を募っている」との連絡を頂戴しました。その他、韓国国立体育大学、台東大学、上海体育学院、吉林体育学院、東北師範大学、カヤ二応用科学大学、龍仁大学校、ドイツのオルデンプルグ大学からもあたたかいお見舞い状が届きました。昨年12月まで約2年間にわたり、本学の新体操部を指導していたロシア・ベラルーシ在住のマリア・マカロア氏は「大災害に際しベラルーシ大学も、マカロア個人としても貴校への支援を惜しみません。」とメールを下さるなど日頃より国内外の大学と築きあげてきた信頼の絆は、この大震災という苦境を経てなお一層強いものになっています。



広がる善意の輪・明成高校男子バスケット部の給水ボランティア

～コートの外でも大活躍～



「本当にありがたい、とても助かりました。」「生徒さんが一生懸命水汲みをしてくれて感謝です。」という地域の方々からの声が、明仙・バスケラボに続々と寄せられています。

明仙・バスケラボ施設にある外の水飲み場は、大震災後も水が止まらなかったことから地域の方々に対し、いち早くボランティアでの給水支援活動を開始しました。

これは明成高校付近にある桜ヶ丘消防署に、地震の揺れがおさまったと同時に周辺の方々の水を求め、長蛇の列になっている様子を見た佐藤久夫先生（明成男子バスケット部監督）が速やかに音頭を取り、始めたものです。

先生方のご指導のもと、まず男子バスケット部の生徒達（1～2年生：全部員28人）は水汲みのために早朝から押し寄せた車が整列するのを誘導し、次にポリタンクや空のペットボトルを受け取ると、8つある蛇口をフルに利用してテキパキと水を汲み、車まで運んだり、歩いていらした高齢者の方々には途中まで重い水を持って差し上げたりと、まさに目を見張る大活躍でした。また、訪れたお一人お一人に「こんにちわ」「お疲れさまです」「頑張って下さい」と積極的に挨拶をする礼儀正しさには、多くの方々が深々と頭を下げ、口々に感謝の言葉を述べていらっしゃいました。

川平にお住まいの鈴木さんは「ここでも水を

もらえると聞き、震災翌日から毎日ずっとお隣の方の分も含めて通っています。今まで、近くにいながら明成の生徒さんと接する機会はほとんどなかったのですが、今回こうしてじかに話すことができ、みなさんがとても素直で思いやりの気持ちにあふれていることを知り、本当に励まされました。明成高校は男女バスケットが強いのはもちろんのこと、調理科では美味しいお弁当をいつも作ってくれるそうなので、今年の文化祭には是非家族で来ようと思います。」とおっしゃっています。

率先して生徒と共に給水を手伝った品田新助手は「生徒も自分も大変良い勉強になりました。みなさんからの感謝のお菓子などは、お気持ちだけ頂戴していたのですがある朝、水道の蛇口にキャラメル1箱が置かれているのを見つけ、ささやかであっても全員が力をあわせれば、きっと誰かの役にたてるのが分かり嬉しいです。」と感想を述べました。

水が復旧すると共に日を追って利用者は減ってきましたが、のべにするとこれまで約700名くらいの市民が給水したこととなり、明仙・バスケラボ施設に常駐なさる櫻井理事は「困っている最後のお一人に必要とされるまで、給水場の開放は継続します。」と話されるなど、災害時におけるあたたかい助け合いの精神が、地域の方々との強い絆としてここでも確かに実践されています。

チーム仙台大学として学生が災害ボランティア



本学学生がチームを組んで災害ボランティア活動を行うことになりました。現在、複数の本学学生が個人の意思で災害ボランティアに登録し、それぞれの地区で活動にあたっています。本学で学んでいる体育・健康福祉・栄養等の分野を活かして活動した方がより大きな効果が得られると考えられることから、仙台大学ボランティアセンターで活動可能な学生を集めて実施するものです。

活動場所は、沿岸部に津波の被害を受け、7箇所の避難所に約2,500名が避難している亘理町と、福島原発避難者約400名を受け入れている柴田町です。亘理町からの派遣要請として①瓦礫の撤去作業、②要援護者の見守り、③エコノミー症候群予防の運動指導、④子供の遊び相手と学習支援、⑤物資・衣類の提供と仕分け作業などの申し出がありました。この他、ドクターと看護師の派遣要望が出たため、医師の橋本教授と看護師免許を持つ山野講師、庄子講師、鈴木職員、戸内職員が避難所を巡回する予定となっています。

柴田町からの派遣要請は①仙南中央病院での食事運搬・配膳補助、②被災者住宅の掃除、③援助物資の仕分け、配給補助等です。

学生の取り組みが、被災した方々の心にゆとりを与える活動に期待しています。

『仙台大学震災復興基金』受付について

義援金について～災害義援金の受付をいたします～

今回の大震災では、本学の多くの学生・教職員も被災しております。現在、被災状況の詳細な把握と共に、復旧に向けて全力で努力しているところです。

なお、国内外の多くの皆様から災害義援金のお申出を頂き、心から感謝申し上げます。

これらのお申出に対処すべく、下記 災害義援金受付窓口を設けさせていただきました。災害義援金につきましては、本学教育施設の災害復旧および被災した学生を支援するために大切に活用させていただきます。

◆災害義援金 振込口座

七十七銀行船岡支店 店コード 803

普通預金

口座番号 5491550

口座名 仙台大学震災復興基金

出納責任者 佐々木幸夫

義援金をお振込いただく際には、お手数をお掛けしますが、本学代表電話（広報室/0224-55-1121）までご一報いただきますようお願い申し上げます。後日お礼状をお送りさせていただきます。

東北地方太平洋沖地震 (東日本大地震) による宮城県内の被害

石巻地区 (撮影日/3月17日)



写真提供／石森職員

亘理地区 (撮影日/3月29日)



写真提供／橋本教授

Monthly Report

Vol.59 / 2011 Mar.

青海省体育科学研究所と国際交流協定締結



3月7日（月）、本学から朴澤学長、丸山研究科長、内丸講師が中国青海省に訪問し、中国の高地トレーニングのメッカ、そしてナショナルトレーニングセンターとしてマラソンや水泳競技選手の強化を担っている青海省体育科学研究所と国際交流協定を締結しました。この締結により、高地トレーニングや健康・体力に関する研究における学術協力や人材育成の分野で協力を図ることとなります。早速、4月から先方の研究員1名が本学の大学院研究生として1年間学んだ後、大学院1年コースに入ることが予定されています。

なお、今回の調印が青海省体育科学研究所の海外機関との初締結ということで、調印式には現地の報道機関も多数駆けつけ、その様子が中国全土に報道されました。



写真提供／朴澤学長・馬臨時職員

目次

青海省体育科学研究所と国際交流協定締結	1
競技力クリニックを開催 退職者辞令交付式	2
第6回健康福祉研究会	3
仙台大学学生表彰	4
国際交流	6
スポーツ情報マスメディア学科1期生が卒業	8
伊達なSPORT PROJECT 海外合宿	9
学生の活躍	10

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email: kouhou@scn.ac.jp

「競技力向上クリニック」を開催



3月5日（土）に「競技力向上クリニック」を開催し、約400名の高校生に來場いただきました。このイベントは北海道・東北唯一の体育系専門大学として、スポーツに関する研究や専門指導者育成のために、具体的にどのようなことを実践しているのかを体験的に学んでもらい、高校に戻って部活動における競技力の向上に活かしてもらうことを目的に開催しているものです。対象は高校

1、2年生の選手とマネージャーで、体育大学ならではの研究成果を活かした「効果的な体力トレーニングの体験講習」や「スポーツ選手に適した食事の試食会」、「競技別の研修会」、「マネージャー向けの映像解析研修」などを実施しました。このイベントを通して、本学への興味を深めてもらえたことでしょう。

平成22年度退職者辞令交付式



3月31日（木）に法人事務局において退職者への辞令交付式が執り行われ、退職される教職員の方々に朴澤理事長より辞令が交付されました。今年度、本学で退職されたのは、須山享三教授、阿部武彦教授、柳久恒講師、安部俊三事業戦略担当課長、平島芳昌事業戦略担当課長、高橋美穂新助手（旧姓：上野）の6名です。辞令交付後の朴澤理事長挨拶では、これまでの功績に対して感謝の言葉がかけられました。今回は震災により、「定年退職者による最終講話」も中止となるなど、仙台大学を支えてこられた皆さまを手厚く送り出すことは叶わず心苦しい限りでした。退職される皆さまのセカンドステージでの益々の活躍とご健康を教職員一同でお祈り申し上げたいと思います。

第6回健康福祉研究会



去る平成23年3月4日（金）13時より、「第6回健康福祉研究会」が開催されました。

出席者は、93名（教職員20名、一般21名、卒業生18名、現役学生34名）でした。

本学では、平成16年度より、「健康福祉」をキーワードに介護、福祉、介護予防などの研究と研修を実施して参りました。今回は、健康福祉に関する人材養成の一つである「社会福祉士・介護福祉士」に焦点を当て、介護や福祉の資格保持の卒業生による実践を通した報告や現場の施設長の方による特別講演を開催いたしました。

はじめに、小池和幸健康福祉学科長がこれまでの仙台大学における健康福祉学科の教育と人材養成について15年間のあゆみを振り返りました。それを受けて、「健康福祉分野における人材養成の展望～これからの福祉士の役割と仙台大学における人材養成のあり方」というテーマで公開シンポジウムを行いました。コーディネーターは大山さく子教授、シンポジストとして、（社）仙台ビーナス会 小規模多機能型居宅介護事業所の岡本雄輔氏（健康福祉学科7期生）、（医）松田会 介護老人保健施設エバーグリーン・ツルガヤの加藤綾氏（旧姓岩井、健康福祉学科10期生）、

（社）全国社会保険協会連合会 介護老人保健施設サンビュー宮城の日野和基氏（健康福祉学科11期生）をお迎えしました。3名の卒業生には、それぞれの現場での活躍の様子をご報告いただいたほか、大学と施設側の連携がどうあるべきかなど

についてもコメントをいただきました。「どんな学生生活を送るかは自分次第なので、時間の使い方を工夫するとよい。様々な人との出会いを大切にしてほしい」などと出席していた現役学生に向けてのメッセージが送られると、学生たちは真剣に耳を傾けていました。

特別講演では、「福祉士教育の視点で見る現場と大学の連携のあり方」と題し、（有）福祉文化社代表取締役の毛利浩人氏にご講演いただきました。毛利氏は本学の介護実習施設の施設長もされています。ご講演の中で、「技術を教えるだけが実習ではない。学生が何に気づき、何を学ばなければならないかを知る機会を得る場所を学生に提供すること、学びのスイッチを押してあげることが施設側の役割である」とお話されました。そして、「施設側も学び、意識改革をすること、また、大学側から悩みを話してもらい、一緒に考え、強い連携を図っていくことが大事である」と述べられました。



<情報提供：後藤講師>

平成22年度 仙台大学学生表彰受賞者 (在学生)

3月3日(水)にKMCHにおいて学生表彰が行われ、スポーツ競技において団体・個人で国際大会出場または全国大会において8位以上の功績を挙げた学生に対してスポーツ功労賞が贈られました。関矢准教授により一人ひとりの名前と成績が呼び上げられた後、団体の部の代表として新体操競技部の為積 瞳さん(体育学科3年)と、個人の部の代表として体操競技部の山本収一さん(体育2年)に表彰状と記念品が手渡されました。



スポーツ功労賞:個人

氏 名	クラブ名	大 会 名	成 績
西村光生	漕艇部	2010 U-23世界ボート選手権大会軽量級男子舵手なしフォア	第7位
池内 風	漕艇部	2010 U-23世界ボート選手権大会軽量級男子舵手なしフォア	第7位
兼子貴江	柔道部	平成22年度全日本学生柔道体重別選手権大会女子78kg級	ベスト8
深谷実紀	柔道部	平成22年度全日本ジュニア体重別選手権大会女子44kg級	優勝
谷藤祐貴	BLS部	スケルトン アメリカズカップ 第7戦男子スケルトン	第6位
松本紳司	BLS部	スケルトン アメリカズカップ 第1戦男子スケルトン	第19位
渡辺瑞基	BLS部	スケルトン アメリカズカップ 第1戦男子スケルトン	第12位
米倉理絵	BLS部	スケルトン アメリカズカップ 第7戦女子スケルトン	第6位
今井功太	BLS部	ボブスレー世界選手権男子ボブスレー4人乗り	第25位
佐藤 亘	体操競技部	第64回全日本学生体操競技選手権大会男子種目別 つり輪	第3位
山本収一	体操競技部	第64回全日本学生体操競技選手権大会男子種目別 跳馬	第2位
菊池収祐	体操競技部	第64回全日本体操競技選手権大会男子種目別 跳馬	第3位

スポーツ功労賞:団体

クラブ名	大会名	成 績
漕艇部	第32回全日本軽量級選手権大会 男子エイト	第4位
	第37回全日本大学ボート選手権大会 男子エイト	第2位 他、多数入賞
	第88回全日本選手権大会 女子舵手なしペア	第3位 他、多数入賞
	第51回全日本新人選手権大会 男子エイト	第2位 他、多数入賞
新体操競技部	第62回全日本学生新体操選手権大会 女子団体種目別選手権の部7-7、女子団体総合	第5位、第7位
柔道部	平成22年度全日本学生柔道体重別団体優勝大会 女子7人制団体	ベスト8
	平成22年度全日本学生柔道優勝大会女子5人制団体	ベスト8
トライアスロン部	2010日本学生トライアスロン選手権観音寺大会 男子団体	第7位
サッカー部	第34回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント	第3位
体操競技部	第64回全日本学生体操競技選手権大会 男子団体総合	第2位

平成22年度学生表彰受賞者 (平成22年度卒業者分)

東北地方太平洋沖大震災で中止となりましたが、卒業式で授与を予定していた学生表彰受賞者は以下の通りです。

学長賞受賞者

氏 名	クラブ名	大 会 名	成 績
佐藤寛大	陸上競技部	第80回日本学生陸上競技対校選手権大会男子やり投げ	優勝 (2連覇)
亀山耕平	体操競技部	2010 モントリオール国際男子種目別 鉄棒	優勝
別府晃至	漕艇部	第36回全日本大学ボート選手権大会男子エイト	第2位
加藤 徹	漕艇部	第37回全日本大学ボート選手権大会男子舵手なしフォア	第2位
清野拓也	漕艇部	第36回全日本大学ボート選手権大会男子舵手つきフォア	優勝
高澤隆介	漕艇部	第36回全日本大学ボート選手権大会男子舵手つきフォア	優勝
北沢 碧	漕艇部	第49回全日本新人選手権大会女子舵手つきクォドルプル	第3位
高崎智世	漕艇部	第35回全日本大学ボート選手権大会女子舵手つきクォドルプル	第2位
殿川 葵	漕艇部	第35回全日本大学ボート選手権大会女子舵手つきクォドルプル	第2位
小沢まり	BLS部	スケルトン アメリカズカップ 第5戦女子スケルトン	第6位
和泉 隼	サッカー部	第34回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント	第3位
大金祐輔	サッカー部	第34回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント	第3位
李澤忍治	サッカー部	第34回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント	第3位
山崎航太	サッカー部	第34回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント	第3位

スポーツ功労賞:個人

氏 名	クラブ名	大 会 名	成 績
上村昌志	トライアスロン部	2010 日本学生トライアスロン選手権観音寺大会男子個人	第7位

文化功労賞受賞者:個人

氏 名	クラブ名	実 績
佐藤奈菜	学友会	学生委員長 (H20年度およびH21年度) として学友会活動に貢献
鈴木笑美梨	学友会	大学祭実行委員長 (H21年度) および学生委員長 (H22年度) として学友会活動に貢献

介護福祉士養成施設協会会長表彰

氏 名	クラブ名	実 績
田中麻美	健康福祉学科	本学健康福祉学科介護福祉士養成過程において、学業成績、人物ともに他の模範となるべき学生

全国栄養士施設協会会長表彰

氏 名	クラブ名	実 績
黒田早紀	運動栄養学科	本学運動栄養学科栄養士過程を優秀な成績で卒業する学生

海を越えて輝く学生達 Winter 2011

～ハワイ州立大学アスレティック トレーニング・ベーシックコース研修終了～



2月21日～27日（5泊7日）、ハワイ州立大学（UH）において、AT（アスレティック トレーニング）のビギナーズコース研修が実施されました。2003年12月から始まったこの取り組みは「ビギナーズ」（＝ベーシックコース）と「アドバンス」を合わせると今回で12回目。参加した3名の女子学生達は（貝沼由香里、菅原夕貴、遠藤蓉子：全て体育学科2年生）少人数だからこそより密度の濃い、充実したプログラムに懸命に取り組む、充実した時間を過ごすことができました。今回の研修の目玉である①「現地クリニックの見学」と②「女子バスケットボールの試合帯同」を中心にご紹介致します。

1.研修内容

① Hawaii Optimum Performance（現地クリニック見学）

今回初めて実施したHawaii Optimum Performance（HOPS）の見学。日本語でクリニックと称すると「病院」というイメージを持ちがちですが、HOPSは比較的斬新なコンセプトを元に作られた施設で、その施設の半分は理学療法士が常勤するクリニック、もう半分はアスレティックトレーナー（AT）が患者（大学レベルのスポーツ選手・小中高生）の身体機能評価を行い、トレーニングを指導する形になっています。一連の流れとしては、病院から紹介された患者を、まずは理学療法士が物理療法・運動療法を用いて日常生活に不自由がないレベルまで回復させます。その後、ATが評価し、機能的に不足している筋力・バランスなどをトレーニングを通して指導し、選手の復帰を助ける形になっています。HOPSは類似する領域である理学療法士とATが相互協力している成功例として、このコンセプトは日本でも充分応用できると思われます。（医師の指示に基づく理学療法士・柔道整復師・アスレティックトレーナーによる機能的評価に基づくトレーニング）といった連携を一つの施設で行う事が出来れば、本国でのAT職域がより一層広がるのではないのでしょうか。

② ハワイ州立大学女子バスケットボールチームの試合帯同

ベーシックコースの目玉に、女子バスケットボール部の試合の帯同があります。今回は人数が少なかったことが幸いし、各学生がベンチに座り、タイムアウト中の水分補給を担当させていただきました。このようなことを短期研修で実施するのは非常に難しく、貴重な経験です。学生達は森部氏（UH女子バスケット部帯同AT）の動きを身近で学ぶことができ、心から感動していました。＜情報提供：白幡新助手＞

2.ピーター・田中氏への感謝状授与

滞在中の2月23日、朴澤学長より、UHアウトリーチカレッジの前学部長であるピーター・田中氏に対し、永年のご支援とご尽力に対し「感謝状」とこれまでの足跡である写真や資料など一式が贈呈されました。田中氏には1997年以来、10数年の長きに亘り、明成高校及び本学の生徒・学生のUH研修受け入れについて格別のご高配を賜り、2007年11月17日に挙行了た開学40周年記念式典では「日米大学の相違と大学の国際化」と題してご講演をいただきました。ピーター先生は「仙台大学の国際化、NATA参加及びそのカリキュラムの日本への導入、次々と実行なさる改革、海外との提携など、朴澤学長の先々の大学経営者としての前向きな姿勢と熱意に感動賛同し、少しでもお手伝いが出来ればという考えでございました。その一端として、わたくしの出来るハワイ州立大学関係のプログラムがご希望に沿う、実のあるものになるよう努力してただけです。ですから、本来ならばわたくしの方からお礼述べなければと考えておりました。ですが、このような形でわたくしの微力を認めていただいた事に感謝し、深くお礼申し上げます。」と述べ、本学との懐かしい思い出に浸っていらっしゃいました。

3.新学科長 ウィリアム・チスマー氏

同様に3月23日、朴澤学長は田中氏の後任であるアウトリーチカレッジ新学部長のウィリアム・チスマー氏にお目にかかり、関係者と共に本学とUHとの今後の提携強化について話し合われました。

今回の学生達による報告会が、カヤ二応用科学大学、台東大学での研修に参加した学生達と合同という形で、近じか実施される予定です。それぞれ異なる国における勉学の成果が発表されると共に、次回のより良い研修実施に向けて活発な意見が交わされることでしょう。

カヤニ応用科学大学、台東大学への短期留学生在が無事帰国



狩野さん(中央下)、恒田さん(右下)



中津さん(左)

短期留学プログラムとして、カヤニ応用科学大学(2/21～3/15)、台東大学(2/28～3/28)に留学していた学生4名が無事に帰国しました。各々、晴々とした表情で、素晴らしい体験をしてきた様子をうかがい知ることができました。カヤニ応用科学大学に留学した狩野良介さん(体育学科1年)に話を聞くと、「カヤニ応用科学大学では、他国の留学生とも交流を深め、たいへん貴重な時間を送ることができました。英語力が不足し、自分の想いを伝えきれなかったり、相手の想いをわかってあげることができなかったりしたのでそれが今後の課題です。仙台大学は「英語でスポーツを語るキャンパスづくり」という表記を掲げて英語を使う機会を増やす取り組みをしており、私も英語力を向上させていきたいです」と話していました。また、今回の留学中に発生した東北地方太平洋沖地震については、「フィンラン

ドでも震災のニュースは大きく報道されていたので、津波で甚大な被害が出た実家のある塩釜市(宮城県)の家族や友人の安否が心配でした。幸運にも私の家は被害を免れましたが、被災した友人も多数います。慣れ親しんだ塩釜の町並みが変わり果ててしまった今、一日も早い復興を祈っています。」と話していました。

[短期留学生]

・カヤニ応用科学大学

なかつのりひろ

中津範洋さん(大学院1年)

つねだみか

恒田三加さん(運動栄養学科2年)

かのりょうすけ

狩野良介さん(体育学科1年)

・台東大学

ながいのぞみ

永井 希さん(体育学科3年)

船山弘希さんが目標としていたプロ資格を獲得

～国内最高峰大会である全日本スノーボード選手権で3位表彰台～



船山弘希さん(健康福祉学科3年/スノーボード同好会)が3月9日(水)に行われた「第29回全日本スノーボード選手権大会デュアルスラロームレース(長野県白馬五竜スキー場)」で3位入賞を果たし、今シーズンの目標だったプロ資格条件を満たしました。来シーズンはプロスノーボーダーとしてこれまで以上に活躍の場を広げることとなります。なお、3月25日付けのツアーランキングは2位となっております。

JSBA全日本選手権デュアルスラローム一般男女公式結果

http://www.jsba.or.jp/ajsc_site/ajsc29/userdata/results/du/du_or.pdf

JSBA公認競技会ツアーランキング(3/25付)

http://www.jsba.or.jp/rankings_all/2010/tour/tour_sl_m.pdf

スポーツ情報マスメディア学科1期生が卒業

平成19年4月に開設したスポーツ情報マスメディア学科が初めて卒業生を輩出しました。1期生2名から震災前にコメントをもらっていましたので紹介します。

ただきしんご

唯木伸悟さん



出身校／福島県立湯本高校
部活動／準硬式野球部
就職先／NTT東日本

スポーツ情報マスメディア学科に進学したのは、保健体育の教員を目指していたことと、新学科の1期生ということで、体育以外の分野も学べると考え、進学を決意しました。

スポーツ情報マスメディア学科では、ベガルタ仙台や東北楽天ゴールデンイーグルス

など、学外実習の場を多く提供していただきました。ピッチ等の普段では立ち入ることのできない場所も見せていただき、色々な仕事があることと、その仕事の魅力に気付かせていただきました。この経験が、入学当初に目標としていた保健体育科教諭という仕事が憧れに過ぎなかったことを気付かせ、私の視野を大きく広げました。

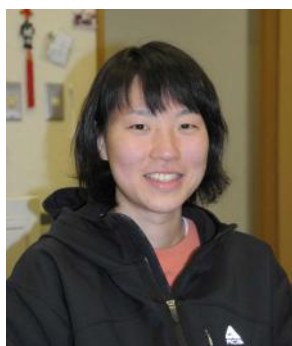
また、山内先生と齋藤(博)先生の講義では、ニュースについて自分の意見や感じた想いを伝える授業がありました。この授業は、現代人に欠けていると言われるコミュニケーション能力やプレ

ゼンテーション能力を養うためのもので、これからの人生にも役立つ素晴らしい内容でした。

これら多くの学びから、将来の夢を方向転換し、縁あってNTT東日本から内定を頂きました。しかし、私の就職活動は決して順調とはいえません。私は3年の10月から就職活動をスタートさせましたが、志望の一つであったマスコミ業界の募集活動は既に6月から始まっており、エントリーすることさえできませんでした。後輩たちには後悔しないよう、早く動いてほしいと思います。また、後輩達に伝えたいことは、就職活動は自ら動いて目で見て世の中、社会の情勢を知り、自分の想いを自分の言葉で表現するのが一番強いということです。場をわきまえる態度は当然ですが、「面接に行く」のではなく、「面接官と会話しに行く」というスタンスが自分を理解してもらうことにつながると思います。結果的に話が楽しければ面接官の好印象に残るはずです。

大学生活全般においても、強制的にやらされているのではなく、自主的に動いてほしいです。その方が楽しいし、後輩達にも是非そうして欲しいです。それが大学という所だと自分自身は思っています。

ザイ テンリさん



出身校／朴沢学園明成高校
部活動／女子バスケット部
就職先／ミズノ (中国)

入学前、スポーツ情報マスメディア学科のコンセプトである「情報を扱う」ということがどういうことなのか想像が付きませんでした。しかし、学科で学ぶにつれ、情報を扱い理解する力はどんな分野でも活かせることに気付かされました。教授陣も素晴らしく、スポーツ情報の分野だけ

でなく、社会に出て必要となるスキルをたくさん学ぶことができました。

私は朴沢学園に高校と大学あわせて7年間お世

話になりました。この7年間は「明成高校でのインターハイ出場」、「中国と日本の文化の違い」、「部活でのケガ」、「素晴らしい先生方・友人との出会い」などたくさんの経験を積みました。お世話になった朴澤理事長はじめ諸先生方に心から感謝しています。

卒業後は、ミズノ(株)中国支店に就職することになりました。しかし、前々から環境学にも興味があり、英語圏の大学に留学する夢を持っています。そのチャンスがきた時のために、以前、仙台大学教員でいらした太田正好先生に指導を仰いで英語の勉強もスタートさせました。今年1月に初めて受験したTOEICでは、自分の予想を超える760点を取ることができました。TOEICはビジネス用語なので、今度は留学のための英語TOEFLに挑戦したいと考えています。卒業後、中国に戻りますが、先生方が中国にいらした際には是非お会いしたいです。

FIBT主催のトレーニング期間に「伊達なSPORT PROJECT」選手も参加



2月21日～26日は、FIBT（国際ボブスレー・トボガニング連盟）が主催する「ユースオリンピック世代のためのトレーニング期間」で、オーストリア・インスブルックのコースが練習のため開放されました。イギリス・アメリカ・ドイツ・スイス・カナダなどから同世代選手25名が集いました。「伊達なSPORT PROJECT」の3選手は共に海外が初めての経験で、移動時間・食事・時差など、環境が変わることの大変さを感じたようです。しかし、海外の同世代選手たちの滑走に刺激とヒントをつかんだようで、夏場のトレーニングでレベルをどこまであげられるか、各人の踏ん張りに期待がもてます。

選手たちの今後の日程は、10、11月に北米で開催される選考レース（3レース以上）に出場してツアーポイントを獲得し、そのポイントでアジア・オセアニア地区の上位3名に入らなければ、ユースオリンピックの出場権を得ることはできません。レースに万全な体調で臨むためにも、今回の海外合宿は滑走技術だけでなく、海外での試合に向けた自己管理を経験できたことも大きくプラスになることでしょう。

<海外合宿を振り返って>

安藤 早紀選手（柴田高校1年）

海外は初めてで、移動時間の長さに疲れてしまいました。食事面も含めて、海外で戦う大変さを体験でき、対策を練ろうと思いました。外国人選手は体格も筋肉もシッカリとしているうえに、滑走技術も長けていました。体格は違っても同じ人間なので、次の大会までに努力で何とかスタートダッシュのタイムを縮めたいです。

野倉 大樹選手（柴田高校1年）

ユースオリンピックに出場するためにはアジア・オセアニア地区予選で3位に入らなければなりません。今回のトレーニング期間にはアジア・オセアニアの相手国が参加していなかったのが残念でした。同世代の外国人選手の滑走を見ることができ、ヒントがつかめ、勉強になりました。自分を追い込んで頑張れば詰まるタイム差だと思うので、外国人選手より体格が小さいことをプラスにとり、回転数をあげるようにダッシュ方法を改良したいです。

佐藤 弾選手（柴田高校1年）

日本での生活リズムを海外で維持することが一番よい滑走につながると感じました。そのために就寝や食事の時間をどうすべきかを考える機会ができ、来年に向けて大きな収穫ある合宿となりました。今回の合宿を経て、「カーブの入口と出口の操作を少なくし、直線を長く取ること」、「スタートダッシュを大股で走ること」この2つの課題がみえてきました。カナダの選手は素晴らしい滑りでしたが、今後の練習で逆転のチャンスはあると感じているので、ユースオリンピックに出場し、カナダの選手と競いたいです。

本学サッカー部の2名がJFLに入団

今年3月に卒業するサッカー部の李澤忍治さん（青森山田高校出身）と大金祐輔さん（福島県湯本高校出身）がJFL（日本フットボールリーグ）に入団することが決まりました。本学でMFとして攻守に活躍した李澤さんがソニー仙台FCに、GKとしてチームを鼓舞し、一対一に強い大金がブラウブリッツ秋田へ入団することが決定しました。両名にはチームをJリーグ昇格に導く活躍を期待しています。温かい応援をお願いします。



李澤忍治さん



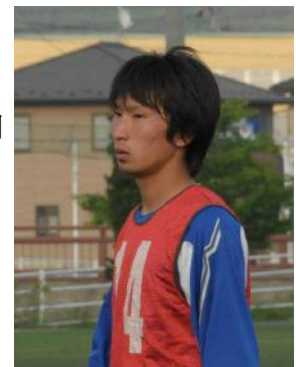
大金祐輔さん

奥埜博亮さんがデンソーカップでベストイレブンに

～全日本学生選抜の優勝に貢献～

奥埜博亮さん（体育学科3年／JFL・Jリーグ特別指定選手）が全日本学生選抜メンバーとして3月4日（金）～3月6日（日）に大阪府堺市で行われた「第25回デンソーカップチャレンジサッカー堺大会」に出場し、全日本選抜の優勝に貢献しました。奥埜さんは1回戦の関西選抜チーム、決勝戦の関東選抜Aチームの2試合に先発出場し、自らも果敢にゴールを狙うなど攻撃の基点となる活躍をみせ、ベストイレブンにも選出されました。

今年8月に開催される「第26回夏季ユニバーシアード深圳大会」の候補選手ともなっており、その活躍に注目が集まっています。



平成22年度卒業生からメッセージ —クラブハウス (KMCH) 掲示板—

クラブハウス（KMCH）の掲示板に卒業生がメッセージを寄せてくれました。これは、震災後にKMCHのロッカーの荷物を取りにきた平成22年度卒業生が訪れた際に書いてくれたものです。震災に負けない決意や、本学への感謝の念が伝わっています。



- ・がんばろう東北！！がんばろう仙台大学！！
- ・Fight スポーツで明るい笑顔
- ・ここから勝負だ！！がんばれ仙台大学！！
- ・またみんなで集まるためにみんなでがんばろう！！
- ・みんなありがとう！！がんばれ仙台大学！！
- ・4年間ありがとうございました。みんなまた会おう。
- ・卒業式できずに残念でしたが、素晴らしい仲間と出会えた4年間でした。感謝でいっぱいです。ありがとうございました。
- ・みんなと卒業式を迎えたかった。たくさんの友達に出会えたこと誇りに思います。多くの方に感謝。ありがとうございました。
- ・私を強くしてくれた仙台大学、支えてくれた皆様方、本当にありがとうございました。
- ・この4年間で競技も人としても多くのことを学び成長できました。これからもこの経験を活かし、高めていきたいです。仙台大学の皆さんありがとうございました。
- ・吉田さん4年間ありがとうございました。
- ・楽しかった4年間。うらやましーなNEW体育館
- ・4年間 本当に楽しかったです。早くみんなと笑顔で会いたい！！がんばりましょう。